

壁掛形非常用放送設備

取扱説明書 工事説明付き

品番 **WK-250**

この取扱説明書と保証書をよくお読みのうえ、正しくお使いください。そのあと保存し、必要なときにお読みください。

保証書は、「お買い上げ日・販売店名」などの記入を必ず確かめ、販売店からお受け取りください。

保証書別添付



上手に使うって上手に節電

もくじ

製品の特徴	3
本書の使いかた	3
付属品をご確認ください	3
安全上のご注意	4
非常放送のしくみ	8
各部の名前と働き	9
■本機の状態表示パネル	10
■非常放送パネル	11
■マイク	12
■設定スイッチ	12
■放送階選択パネル	14
■外部入力パネル	15
感知器起動による非常放送 (発報放送連動時)	16
(発報連動停止時)	18
発信器・非常電話による	
非常放送 (発報)	20
(火災)	22
手動による起動 (発報)	24
(火災)	26
業務放送 (一般放送) のしかた	28
書き込みについて	29
接続できる機器について	30
マイク、放送復旧、非常復旧	
スイッチの操作について	31
日常点検	32
こんなときには	35
工事を行う前に	
■接続線について	38
■工事の順序	39
■設置上のご注意	40
設置のしかた	
■設置手順	42
書き込みについて	60
書き込み手順	
1.出火階、連動階の指定	62
2.階情報の指定	64
3.一斉/緊急指定	67
4.タイマーの設定(1)~(3)	68
5.外部放送制御ブロック指定(1),(2)	74
設置時の点検	
■非常放送の動作点検	78
■業務放送の動作点検	83
保守点検	
■点検について	86
■総合点検	86
■電源の点検	87
■絶縁耐力および絶縁抵抗試験	88
放送系統表	89
仕様	90
保証とアフターサービス	91

はじめに

取扱説明

工事説明

書き込み説明

点検

このたびは、壁掛形非常用放送設備をお買い上げいただき、まことにありがとうございました。

製品の特徴

- 小規模の建築物に適した非常用放送設備です。
 - 音声警報による発報放送、火災放送、非火災放送が可能です。
 - 標準音声メッセージとして、計28パターンのメッセージを「日本語」と「日本語+英語」で内蔵しています。
 - 地下3階から20階
 - 階段
 - エレベーター
 - 屋上
 - 体育館
 - 講堂
- また、別売り品の増設用ROMを取り付けることで上記以外のメッセージを放送することもできます。
- 蓄電池、スピーカー回線短絡、非常用マイク、内部コンピュータの自己診断機能付きです。
 - 非常放送以外に、業務放送を放送できます。
 - 120W電力増幅ユニットを内蔵しています。電力増幅ユニットの取付工事が不要ですので、蓄電池（別売り品）を本機に取り付けるだけで、容易に設置工事を行うことができます。
 - マイク優先機能を内蔵していますので、各種放送中にマイクで業務放送を行うことができます。
 - 段階式鳴動方式を採用しています。火災放送が区分鳴動後、一定の時間が経過すると自動的に全館鳴動（一斉火災放送）に移行します。移行までの時間設定が可能です。

本書の使いかた

本書は次に示す内容で構成されています。

- 安全上のご注意 : 本機を安全にご使用いただくための注意事項が記載されています。操作を始める前に必ずお読みください。
- 取扱説明 : 本機の使いかたや日常点検のしかたについて説明しています。
- 工事説明 : 設置工事のしかたを説明しています。本機の設置工事は販売店に依頼してください。電源工事には「第1種または第2種電気工事士」の資格が必要です。
- 書き込み説明 : 建物の規模や放送の目的に合わせて、本機の設定をコンピュータに書き込むための方法を説明しています。
- 設置時の点検 : 非常放送や業務放送が設定通りに正しく放送できるか確認する方法を説明しています。
- 保守点検 : 保守点検のしかたについて説明しています。
非常放送設備の保守は、消防設備士（第4類甲、乙、第7類乙）または第2種消防設備点検者の資格が必要です。

付属品をご確認ください。




型紙（壁取り付け用）	1	返信ハガキ	1
コーナーパット	4	簡易操作説明書	1
接着テープ（コーナーパット用）	4	取扱説明書（本書）	1
グロメット	1	保証書	1
分電盤注意ラベル ^{切るな}	1		
壁取り付け用スペーサー	4		
バンド（外線クランプ用）	4		

安全上のご注意




必ずお守りください

お使いになる人や他の人への危害、財産への損害を未然に防止するため、必ずお守りいただくことを、次のように説明しています。

■表示内容を無視して誤った使い方をしたとき生じる危害や損害の程度を、次の表示で区分し、説明しています。

 危険	この表示の欄は、「死亡または重傷などを負う危険が切迫して生じることが想定される」内容です。
 警告	この表示の欄は、「死亡または重傷などを負う可能性が想定される」内容です。
 注意	この表示の欄は、「傷害を負う可能性または物的損害のみが発生する可能性が想定される」内容です。

■お守りいただきたい内容の種類を、次の絵表示で区分し、説明しています。

 	この絵表示は、してはいけない「禁止」内容です。
	この絵表示は、必ず実行していただきたい「強制」内容です。

危険

蓄電池を分解・改造しない



電池内部の液が飛び出し目に入ったりして失明などの事故の原因となります。
分解禁止

蓄電池を火の中に入れない



火気にも近づけないでください。発火、破裂の原因となります。
禁止

蓄電池の⊕ ⊖ 端子をショートさせない



発熱、発火の原因となります。
禁止

安全上のご注意

必ずお守りください

⚠ 警告

工事は販売店に依頼する



工事には技術と経験が必要です。火災、感電、けが、器物損壊の原因となります。

- 必ず販売店に依頼してください。

異物を入れない



水や金属が内部に入ると、火災や感電の原因となります。

禁止

- ただちに分電盤の電源を切って、販売店にご連絡ください。

分解しない、改造しない



火災や感電の原因となります。

分解禁止

- 修理や点検は、販売店にご連絡ください。

異常があるときは、すぐ使用をやめる



煙が出る、臭いがあるなど、そのまま使用すると火災の原因となります。

- ただちに分電盤の電源を切って、販売店にご連絡ください。

定期的に点検をする



非常時に作動しないと、火災や災害を拡大する原因となります。

- 点検は、販売店や保守契約業者に依頼してください。

周囲に物を置かない



非常時の操作の妨げになり、火災、災害の拡大の原因となります。

禁止

- 指定範囲は常に整理、整頓してください。

重量に耐える場所に 取り付ける



取り付け場所の強度が不十分なとき、落下などでけがの原因となります。

- 十分な強度に補強してから取り付けてください。

決められたヒューズを使う



規定以外のヒューズを使うと、火災の原因となります。

⚠ 注意

蓄電池の交換は、販売店か 保守契約店に依頼する



感電の原因となります。

蓄電池をぬらさない



発熱、破損などの原因となります。

禁止

使用上のお願い

上手にお使いいただくために、以下のことをお守りください。

日常点検をしてください。

万一の際、正常に機器が動作するよう日常点検を行ってください。特に非常電源の点検は必ず行ってください。詳しくは「日常点検」の項をお読みください。

日常点検時に異常を発見した場合、ただちに販売店または保守契約店にご連絡ください。修理・復旧を実費にて行います。詳しくは販売店にご相談ください。

日常点検は動作の一部だけを点検するものです。全ての項目を点検するものではありません。必ず定期点検を行ってください。

保守契約のお願い

消防法により、定期点検、消防署への報告、および点検結果の維持台帳への記録が義務づけられています。建物の規模、用途によっては消防設備士、または自治省が認めた有資格者が点検する必要があります。

万一の際、非常用放送設備が正しく動作するために、保守契約の締結をおすすめします。保守契約の締結については販売店（工事店）または販売会社にお問い合わせください。

保守契約の締結により、ご使用者に代わりに「消防設備士」・「消防設備点検資格者」が定期点検をお引き受けするわけですから、保証期間内であっても定期点検業務については有償となります。

本機の電源の「入／切」は分電盤で行います。通常、分電盤は切らないでください（常に主電源表示灯が点灯していること）。ただし、本機に異常がある場合は分電盤のスイッチを切り、保守契約店に速やかに連絡してください。

分電盤のスイッチには付属の分電盤注意ラベルをはり付け、通常は「切」にならないようにしてください。非常用放送設備には、停電時でも放送できるように非常用電源が組み込まれており、常に蓄電池を充電しているためです。

接続する分電盤のブレーカーは接点距離が3.0mm以上有するものを使用してください。それらは、保護アース導体を除く、主電源の全ての極が遮断できるものを使用してください。

本機の上や周囲に物を置かないでください。

本機の上部は通風口になっていますので物を置かないでください。故障の原因となります。また、操作の妨げとなりますので左右0.3m、操作面から1m以内には物を置かないでください。

操作説明書は本機の近くに備え付けてください。

非常時に確実に操作できるように、本機の近くに備え付けてください。ただし、本機の上には絶対に置かないでください。

お手入れのしかたについて

ケースが汚れたら、うすめた台所用洗剤を布にしみこませ、よくしぼり、軽くふいてください。そのあと、からぶきしてください。また、化学ぞうきんをご使用の際は、その注意書きに従ってください。

お願い

操作部に触れると、非常放送などが放送されることがあります。お手入れをするときは操作部に触れないようにするか適切な状況の下でのみ行ってください。

ベンジンやシンナーなど揮発性のもの、研磨剤は使用しないでください。

内部の清掃や点検は、販売店にご相談ください。

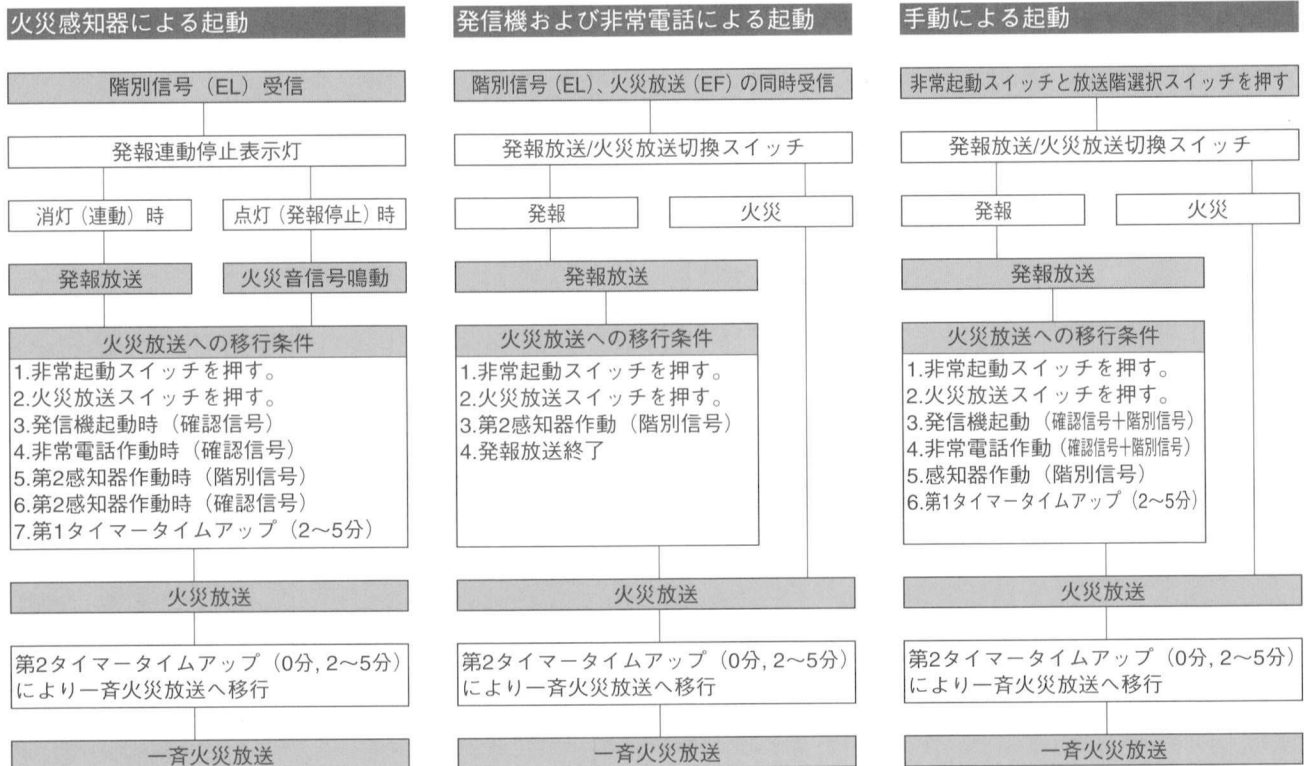
取扱説明

運用を開始する前に正しく動作するか点検してください。
定期的に保守点検を行ってください（詳しくは「保守点検のしかた」をお読みください）。

非常放送のしくみ

非常用放送設備は火災放送時に音声を合成し、音声警報を自動的に放送します。本機の起動方式には次に示す3つの方法があります。起動方式によって操作方法や動作のしかたが異なります。使用を開始する前に必ず起動方式を販売店から確認してください。

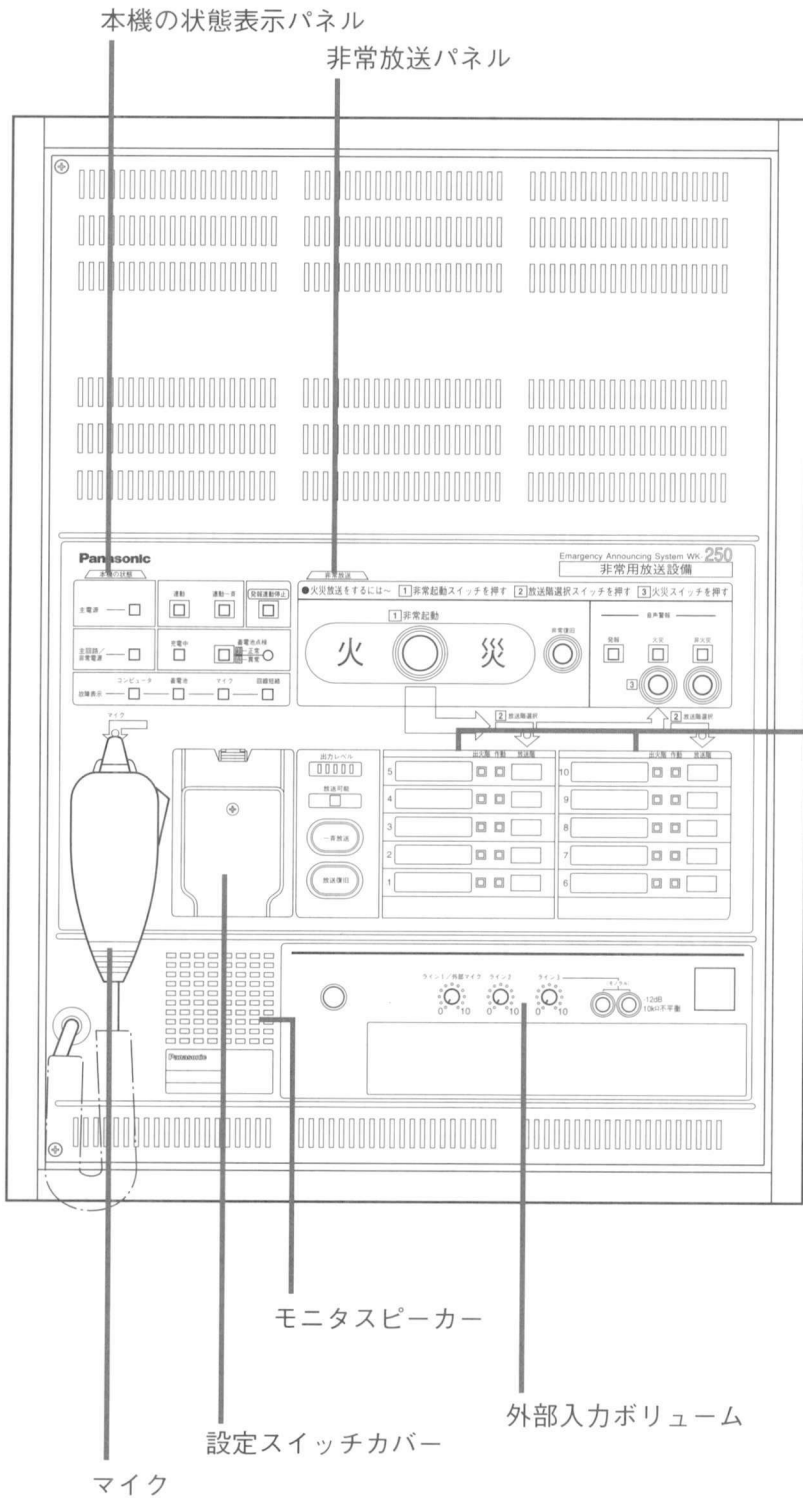
- ・火災感知器による起動
- ・発信機や非常電話による起動
- ・手動による起動



メモ

- ・ 非火災放送へ移行するには発報放送または火災放送中に「非火災放送」スイッチを押します。
- ・ 具体的な操作方法については16ページ以降をご覧ください。
- ・ 火災放送開始から一定時間が経過すると全館への一斉火災放送に移行する第2タイマー機能を内蔵しています。
- ・ 第2タイマーの設定が0分の場合、すぐに一斉火災放送へ移行します。
- ・ 増設用音声ROM (別売り特注品) を使用して階情報を変更できます。詳しくは販売店にご相談ください。

各部の名前と働き

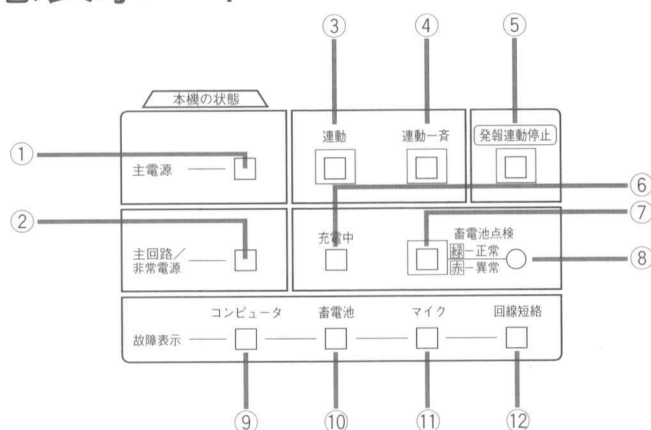


放送階選択パネル
 業務放送（非常放送以外の放送など）を放送するときはこの部分を操作してください。
 外部から起動されるか、または非常放送パネル部を操作しない限り非常放送は放送されません。

取扱説明

各部の名前と働き

■本機の状態表示パネル



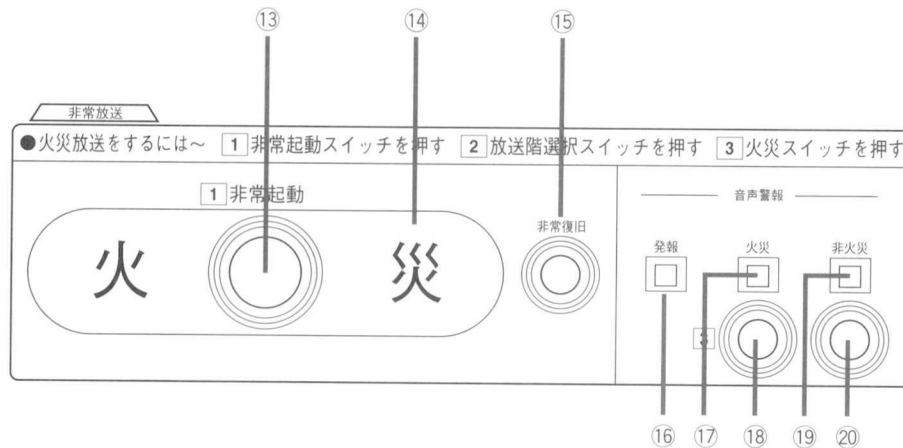
- ①主電源表示灯（緑色）
常用電源（AC100V）を使用しているとき、緑色に点灯します。
非常用電源（蓄電池：停電時の非常動作時）に切り替わると消灯します。
- ②主回路/非常電源表示灯（緑色）
常用電源または非常電源が非常用放送として使用できるとき、緑色に点灯します。^(注1)
- ③連動表示灯（緑色）
設定スイッチカバー内の連動スイッチを押すと点灯します。
連動表示灯が点灯しているときに感知器や発信機などからの階別信号を受信すると出火階と連動階に「非常放送」が放送されます。
連動表示灯と連動一斉表示灯を同時に点灯することはできません。
- ④連動一斉表示灯（緑色）
設定スイッチカバー内の連動一斉スイッチを押すと点灯します。
連動一斉表示灯が点灯しているときに感知器や発信機などからの階別信号を受信すると全館一斉に「非常放送」が放送されます。
連動表示灯と連動一斉表示灯を同時に点灯することはできません。
- ⑤発報連動停止表示灯（赤色）
発報連動停止表示灯が点灯しているときに感知器からの階別信号を受信しても「発報放送」は放送されません。「発報放送」を放送するには設定スイッチカバー内の発報連動停止スイッチを押して、発報連動停止表示灯を消灯状態にしてください（出荷状態）。
- ⑥充電中表示灯（緑色）
蓄電池を充電しているとき、緑色に点灯します。
- ⑦蓄電池正常/異常表示灯
緑色：蓄電池の電圧が正常のとき
赤色：蓄電池の電圧に異常があるとき
- ⑧蓄電池点検スイッチ
手で蓄電池を点検するときに押します。
スイッチを押すとコンピュータが約10秒間蓄電池を点検します。点検した結果、異常を検出すると、蓄電池正常/異常表示灯と蓄電池故障表示灯が赤色に点灯します。
- ⑨コンピュータ故障表示灯（赤色）
内部コンピュータに異常があるときに点灯します。
- ⑩蓄電池故障表示灯（赤色）
点灯時：蓄電池に異常があるとき^(注2)
点滅時：設定したデータが消えたとき
- ⑪マイク故障表示灯（赤色）
マイクが何らかの原因で断線状態になると赤色に点灯します。
- ⑫回線短絡故障表示灯（赤色）
スピーカー回線が短絡すると、赤色に点灯します。また、短絡した場所の作動表示灯が点滅します。^(注3)

注1：消灯しているときは販売店または保守契約店にご連絡ください。

注2：内部コンピュータによる自動点検（24時間ごと）または蓄電池点検スイッチを押しての手動点検の結果。

注3：故障表示灯が赤色に点灯したときは点滅箇所(作動表示灯)を確認の上、販売店または保守契約店にご連絡ください。

■非常放送パネル



⑬非常起動スイッチ

手動で「非常放送」を放送するときに押します。次に示す場合、このスイッチを押して火災放送を放送することができます。

- 発報放送時
- 発報連動停止状態で階別信号が入力されたとき

⑭火災灯（赤色）

非常起動すると点滅または点灯します。

点滅の場合

- ・ 階別信号による非常起動
- ・ 第1タイマー（火災放送移行タイマー）作動中

点灯の場合

- ・ 「階別信号＋火災確認信号」による非常起動
- ・ 手動起動スイッチを押したとき

⑮非常復旧スイッチ

非常放送を復旧するとき押します。

⑯発報放送表示灯（オレンジ色）

- 発報放送を放送しているとき点灯します。
- 発報放送の前後などには、状態表示のため点滅します。

⑰火災放送表示灯（赤色）

- 火災放送スイッチを押すと点灯します。
- 次のときには、状態表示のため点滅します。
 - ・ 火災放送中にマイク放送をしたとき
 - ・ マイク放送後のシグナル音が鳴っているとき

⑱火災放送スイッチ

- 非常放送時にこのスイッチを押すと火災放送を放送します。
- 非火災放送の後などには、状態表示のため点滅します。

⑲非火災放送表示灯（緑色）

非火災放送スイッチが押すと緑色に点灯します。

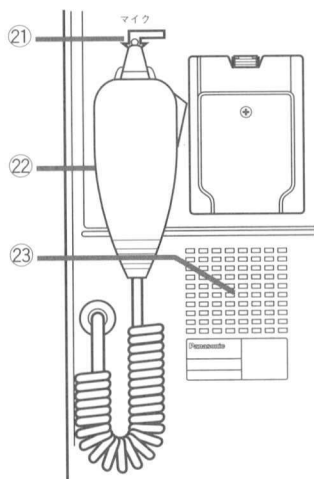
⑳非火災放送スイッチ

非常放送時にこのスイッチを押すと非火災放送を放送します。火災が発生していないことを確認してから押してください。

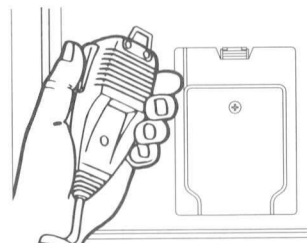
非常放送：「発報放送」、「火災放送」、「非火災放送」、「第2シグナル音（ビュービュー）」などの総称です。

各部の名前と働き

■ マイク

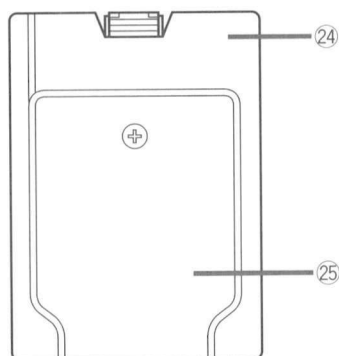


- ②① マイク指示灯（オレンジ色）
 - ・非常時オレンジ色に点滅します。
 - ・マイク放送をしている間、点灯します。
- ②② マイク（非常放送、業務放送兼用）
 - ・マイクをはずし、スイッチを押しながら放送してください。
 - ・非常放送時、マイク放送は音声警報より優先されます。適切な避難誘導をしてください。
- ②③ モニタスピーカ－
 - ・マイクのスイッチを押すと、モニタスピーカ－の音は切れます（ハウリング防止）。
 - ・音量は設定スイッチカバー内のモニタ音量スイッチで切換ます。



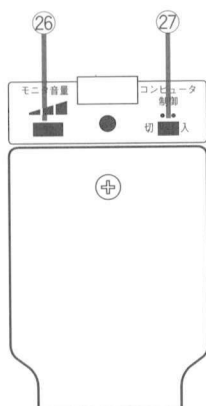
■ 設定スイッチ

● スイッチカバー



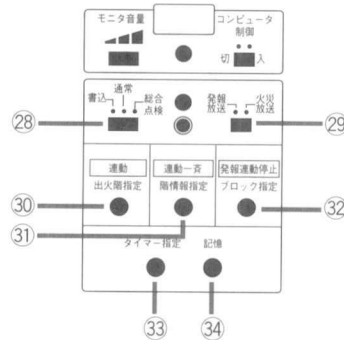
- ②④ 設定スイッチカバー1
 - モニタ音量の調節やコンピュータ制御を入/切するときに開けます。
- ②⑤ 設定スイッチカバー2
 - 次のスイッチを操作するときに開けます。このカバーを開けるときはプラスドライバーでねじを緩めてください。
 - ・書込/通常/総合点検切換スイッチ
 - ・発報放送/火災放送切換スイッチ
 - ・連動スイッチ（出火階指定）
 - ・連動一斉スイッチ（階情報指定）
 - ・発報連動停止スイッチ（ブロック指定）
 - ・タイマー指定スイッチ
 - ・記憶スイッチ

● 設定スイッチカバー1内



- ②⑥ モニタ音量スイッチ
 - モニタスピーカ－の音量を3段階で切換ます。ただし、非常放送時は最大音量になります。
- ②⑦ コンピュータ制御スイッチ
 - コンピュータに異常が発生したときにだけ操作するスイッチです。通常は「入」の状態でお使いください。コンピュータ異常時に放送するとき、「切」にすると一斉マイク放送ができません。異常が発見され、修理した後、このスイッチを「切」にしてから「入」にすると、正常の動作に戻ります。

●設定スイッチカバー2内



②⑧書込/通常/総合点検切換スイッチ

放送する場所や機能を設定するとき、または総合点検を行うときに操作するスイッチです。通常使用するときには「通常」に設定します。出荷時は「通常」に設定されています。

書込：放送する場所や機能を設定するとき

通常：通常使用時

総合点検：本機の動作をスピーカー回線と切り離して確認するとき

②⑨発報放送/火災放送切換スイッチ

発信機および非常電話による起動、または手動起動時に放送する音声警報の種類を設定します。

設置時に設定してください。

発報放送：発報放送を放送します。

ピンポン ピンポン ピンポン (第1シグナル音)
「ただいま〇階の火災報知器が作動しました。係員が確認しておりますので、次の放送にご注意ください。」

火災放送：火災放送を放送します。

ピンポン ピンポン ピンポン
火事です。火事です。〇階で火災が発生しました。落ち着いて避難してください。
ビュー ビュー ビュー (第2シグナル音)

③⑩連動/出火階指定スイッチ

- 「書込/通常/総合点検切換」スイッチの位置が「通常」のとき
連動スイッチとして動作します。
このスイッチを押した場合、階別信号を受信すると出火階と連動階に非常放送を放送します(連動状態になります)。
- 「書込/通常/総合点検切換」スイッチの位置が「書込」のとき
出火階指定スイッチとして動作します。
音声警報を設定するときを使用します。

③①連動一斉/階情報指定スイッチ

- 「書込/通常/総合点検切換」スイッチの位置が「通常」のとき
連動一斉スイッチとして動作します。
このスイッチを押した場合、階別信号を受信すると全館一斉に「非常放送」を放送します。
- 「書込/通常/総合点検切換」スイッチの位置が「書込」のとき
階情報指定スイッチとして動作します。
音声警報を設定するときを使用します。

③②発報連動停止/ブロック指定スイッチ

- 「書込/通常/総合点検切換」スイッチの位置が「通常」のとき
「発報連動停止」スイッチとして動作します。
スイッチを押すたびに発報連動停止状態と発報連動状態が切り替わります。
- 「書込/通常/総合点検切換」スイッチの位置が「書込」のとき
「ブロック指定」スイッチとして動作します。
外部起動によるブロック放送を設定するときを使用します。

③③タイマー指定スイッチ

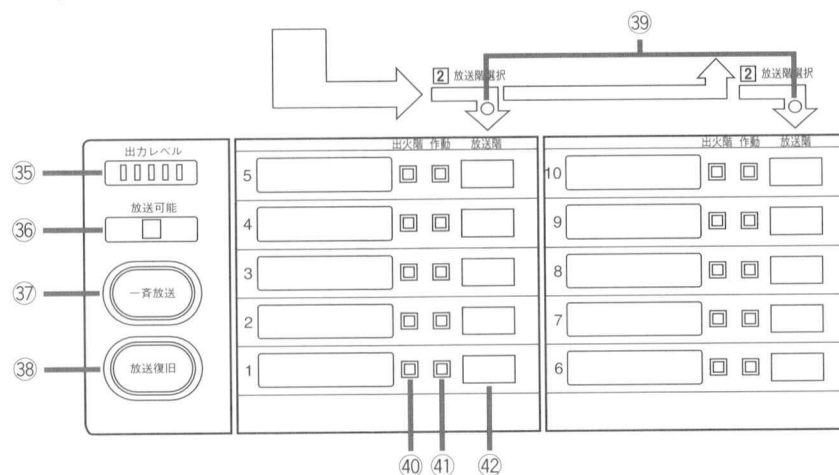
「書込/通常/総合点検切換」スイッチの位置が「書込」のときタイムアップ時間を設定します。

③④記憶スイッチ

「書込/通常/総合点検切換」スイッチの位置が「書込」のとき設定した内容をコンピュータに記憶します。記憶が完了するとブザー音(ピー)が約1秒鳴ります。

各部の名前と働き

■放送階選択パネル



③⑤出力レベル表示灯

- スピーカーから出力される音のレベルを表示します。
- 外部機器を接続した場合、赤色の表示灯が点灯しないように入力音量つまみで調節してください。

③⑥放送可能表示灯（緑色）

一斉放送スイッチまたは放送階選択スイッチを押すと緑色に点灯し、放送可能となります。放送中にライン2から一般外部放送を放送すると消灯します（後押し優先方式（28ページ）の項もご覧ください）。

③⑦一斉放送スイッチ

一斉放送を放送するときに押します。押すと、作動表示灯が全て点灯します。3線式配線の場合、アッテネーター（音量調整器）が「OFF」の状態でも放送できます（この場合、放送階選択指示灯が点灯します。）。アッテネーターが「OFF」のとき、放送できなくすることも可能です。

③⑧放送復旧スイッチ

放送が終了したら、放送復旧スイッチを押します。放送可能表示灯が消えます。

③⑨放送階選択指示灯（オレンジ色）

- 非常時（階別信号など、外部起動で非常放送動作になった場合）オレンジ色に点灯します。
- 手動非常放送動作時（非常起動スイッチON時）点滅します。この後、階別信号入力または手動入力（放送階選択スイッチON）で点灯します。

- 一斉放送スイッチを書込時に緊急一斉指定をしたとき一斉放送スイッチを押すと点灯します（業務放送）。

④⑩出火階表示灯（赤色）

非常放送動作時、点灯で出火階を表示します（階別信号により起動を受けた階の出火階表示灯が点灯します）。

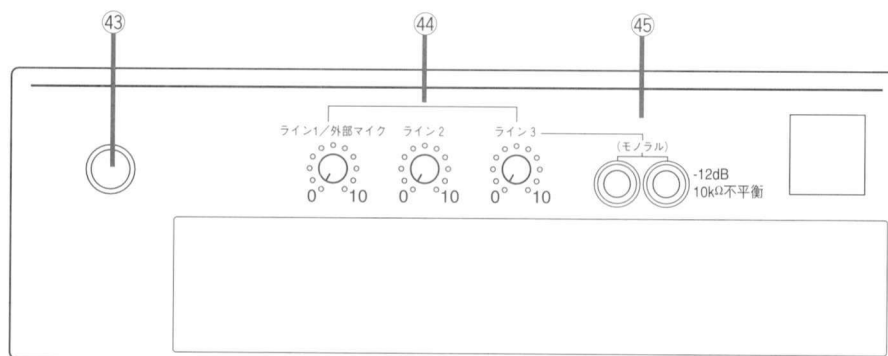
④⑪作動表示灯（緑色）

- 放送している階を点灯で表示します。放送階選択スイッチの操作および外部からの起動で点灯します。
- 一斉放送スイッチを押すと、全ての作動表示灯が点灯します。
- 非常時、出火階または連動階の作動表示灯が点灯します。
- スピーカー回線が短絡すると、短絡した階の作動表示灯が点滅します。このとき、回線短絡故障表示灯も点灯します。販売店または保守契約店にご連絡ください。

④⑫放送階選択スイッチ

- 放送したい階に該当するスイッチを押します。作動表示灯が点灯します。
- 再度押すと解除（復旧）できます。作動表示灯が消灯します。
- 選択した階を全て解除（復旧）したいときは放送復旧スイッチを押します。点灯している作動表示灯がすべて消灯します。

■外部入力パネル



④3 ゴムキャップ

別売り品のコールサインユニットWU-Z05を取り付けるとき、このゴムキャップを外します。放送可能表示灯が点灯しているときにコールサインユニットのスイッチを押すとコールサインを放送します。

④4 入力音量つまみ

- 外部入力の音量を調整します。右に回すと大きくなります。
- 出力レベル表示灯を確認しながら音量を調整してください。

④5 ライン3入力ジャック

テープレコーダーやCDプレーヤーなどの外部機器を接続するときに使います。両方の入力ジャックに機器を接続した場合、内部でミキシングされて放送されます（モノラル放送です）。

感知器起動による非常放送（発報連動時）



火災感知器作動
階別信号が入力されると
発報状態に移行

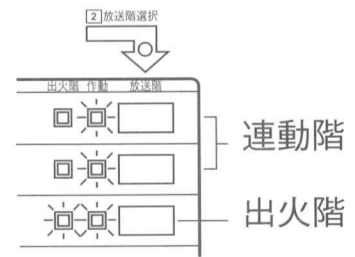
発報連動停止表示灯→消灯（出荷時：消灯）
（消灯/点灯の切換は設定スイッチカバー内の“発報
連動停止”スイッチで行う。）

1. 出火階、連動階に発報放送が放送される。

連動一斉表示灯が点灯している場合、全館一斉に放送されます。

ピンポン ピンポン ピンポン（第1シグナル音）
「ただいま○階の火災報知器が作動しました。係員が確認しておりますので、
次の放送にご注意ください。」※

- ・ 火災灯点滅（赤色）
- ・ 出火階表示灯点灯（赤色）
- ・ 階別の作動表示灯点灯（緑色）



※：発報放送終了後、火災音信号（ピーピー）が鳴ります（外部には放送されません）。

2. 操作を選択する。

●火災確認時

火災放送スイッチを
押す。
火災放送が放送され
ます。



●マイク放送時

マイクをフックから外し、マ
イクスイッチを押す。
マイクによる放送は他の放送
より優先して放送されます。

→(A)へ

●非火災確認時

非火災放送スイッチを押す。
非火災放送が放送されます。

→(B)へ

ピンポン ピンポン ピンポン
火事です。火事です。○階で火災が
発生しました。落ち着いて避難して
ください。ビュービュービュー
（第2シグナル音）

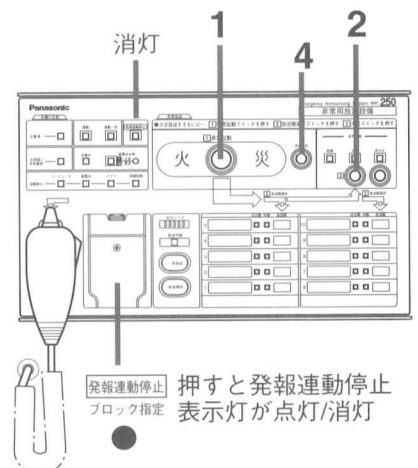
- 非常起動スイッチを押して火災放送を放送することもできます。
- 以下の場合、自動的に火災放送が放送されます。
 - ・ 発信機起動（火災確認信号入力時）
 - ・ 非常電話作動（火災確認信号入力時）
 - ・ 第二感知器作動（階別信号入力時または火災確認信号入力時）
 - ・ 第1タイマータイムアップ（2～5分）
- マイクのスイッチ、非常復旧スイッチ、放送復旧スイッチ、非火災放送スイッチを押して「火災放送」を止めることができます。
- 第2タイマーの設定時間（0分/2～5分）が経過すると一斉火災放送に移行します。

3. 一斉火災放送が放送される。

- 全館一斉に「火災放送」が放送されます。
- 放送復旧スイッチで放送を中断することはできません。
- マイクで放送するとき→(A)へ
- 非火災放送を放送するとき→(B)へ

4. 放送を終了する。

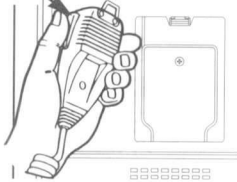
非常復旧スイッチを押す。
非常放送が終了します。
感知器が作動している間は非常復旧スイッチを押して
放送を終了することはできません。



発報連動停止
ブロック指定
● 押すと発報連動停止
表示灯が点灯/消灯

①状況に応じてマイクで放送する（マイク放送優先）。

スイッチを押す



- ・ 作動表示灯が点灯している階にマイク放送が流れます。
- ・ 連動一斉表示灯点灯時、マイクでの放送は全館一斉放送になります。
- ・ 火災放送時、マイク放送後マイクスイッチを切ると、第2シグナル音が鳴ります（ビュービュー）。

●放送階を選択し直すとき

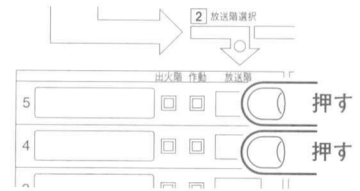
①放送復旧スイッチを押す。※

放送階選択指示灯が点滅します。

※：放送復旧スイッチは第2タイマーの設定時間（0分/2～5分）が経過する前まで操作できます。タイマーの設定時間経過後は無効になります。

②放送する階を選択し、マイクで放送する。

- ・ 一斉放送の場合は一斉放送スイッチを押します。
- ・ 火災放送時に放送復旧スイッチを押した後、放送階選択スイッチを押すと第2シグナル音が鳴ります（ビュービュー）。



②「非火災放送」を放送する。

①非火災放送スイッチを押す。

「非火災放送」が放送されます。

ピンポン ピンポン ピンポン（第1シグナル音）
「先ほどの火災感知器の作動は、確認の結果、異常がありませんでした。ご安心ください。」

非火災



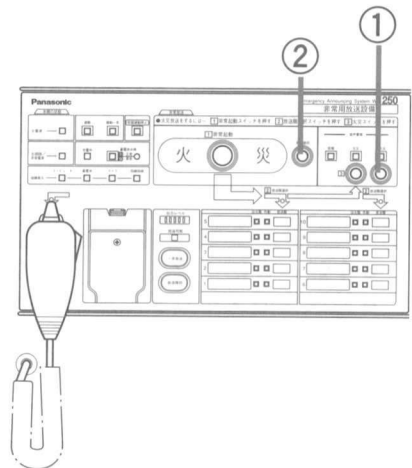
非常復旧



②非常復旧スイッチを押す。

非常放送が終了します。

（感知器が作動している間は、非常復旧スイッチを押しても非常放送は復旧しません）



感知器起動による非常放送（発報連動停止時）



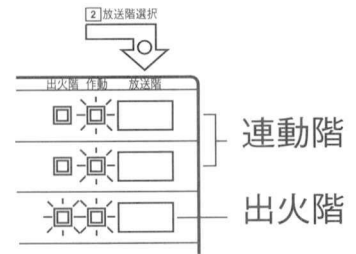
火災感知器作動
階別信号が入力されると
発報状態に移行

発報連動停止表示灯→点灯（出荷時：消灯）
（消灯/点灯の切換は設定スイッチカバー内の“発報
連動停止”スイッチで行う。）

1. モニタスピーカーから火災音信号が放送される。

ピー、ピー、ピー

「発報放送」は放送されません。
・火災灯点滅（赤色）
・出火階表示灯点灯（赤色）
・階別の作動表示灯点灯（緑色）



2. 操作を選択する。

●火災確認時

火災放送スイッチを
押す。
火災放送が放送され
ます。



●マイク放送時

マイクをフックから外し、マ
イクスイッチを押す。
マイクによる放送は他の放送
より優先して放送されます。

→(A)へ

●非火災確認時

非火災放送スイッチを押す。
非火災放送が放送されます。

→(B)へ

ピンポン ピンポン ピンポン
火事です。火事です。○階で火災が
発生しました。落ち着いて避難して
ください。ビュービュービュー
(第2シグナル音)

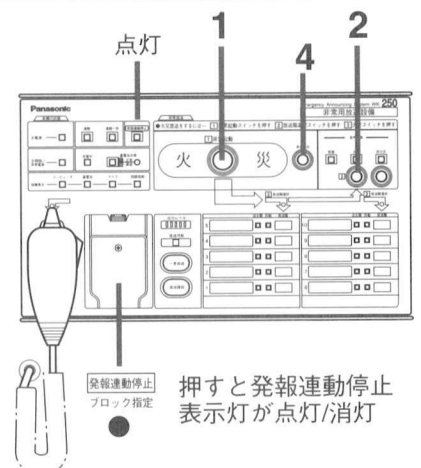
- 非常起動スイッチを押して火災放送を放送することもできます。
- 以下の場合、自動的に火災放送が放送されます。
 - ・発信機起動（火災確認信号入力時）
 - ・非常電話作動（火災確認信号入力時）
 - ・第二感知器作動（階別信号入力時または火災確認信号入力時）
 - ・第1タイマータイムアップ（2～5分）
- マイクのスイッチ、非常復旧スイッチ、放送復旧スイッチ、非火災放送スイッチを押して「火災放送」を止めることができます。
- 第2タイマーの設定時間（0分/2～5分）が経過すると一斉火災放送に移行します。

3. 一斉火災放送が放送される。

- 全館一斉に「火災放送」が放送されます。
- 放送復旧スイッチで放送を中断することはできません。
- マイクで放送するとき→(A)へ
- 非火災放送を放送するとき→(B)へ

4. 放送を終了する。

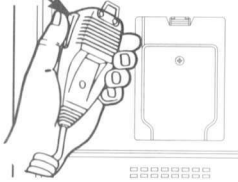
非常復旧スイッチを押す。
非常放送が終了します。
感知器が作動している間は非常復旧スイッチを押して
放送を終了することはできません。



押すと発報連動停止
表示灯が点灯/消灯

①状況に応じてマイクで放送する（マイク放送優先）。

スイッチを押す



- ・ 作動表示灯が点灯している階にマイク放送が流れます。
- ・ 連動一斉表示灯点灯時、マイクでの放送は全館一斉放送になります。
- ・ 火災放送時、マイク放送後マイクスイッチを切ると、第2シグナル音が鳴ります（ビュービュー）。

●放送階を選択し直すとき

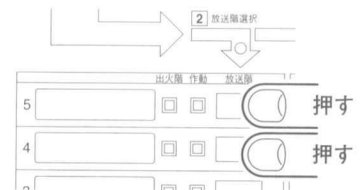
①放送復旧スイッチを押す。※

放送階選択指示灯が点滅します。

※：放送復旧スイッチは第2タイマーの設定時間（0分/2～5分）が経過する前まで操作できます。タイマーの設定時間経過後は無効になります。

②放送する階を選択し、マイクで放送する。

- ・ 一斉放送の場合は一斉放送スイッチを押します。
- ・ 火災放送時に放送復旧スイッチを押した後、放送階選択スイッチを押すと第2シグナル音が鳴ります（ビュービュー）。



②「非火災放送」を放送する。

①非火災放送スイッチを押す。

「非火災放送」が放送されます。

ピンポン ピンポン ピンポン（第1シグナル音）
「先ほどの火災感知器の作動は、確認の結果、異常がありませんでした。ご安心ください。」

非火災



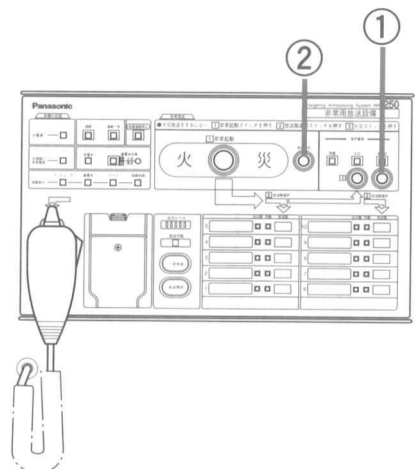
非常復旧



②非常復旧スイッチを押す。

非常放送が終了します。

（感知器が作動している間は、非常復旧スイッチを押しても非常放送は復旧しません）



発信機・非常電話による非常放送（発報）



発信機・非常電話作動。
階別信号+火災確認信号
が入力されると発報状態
に移行

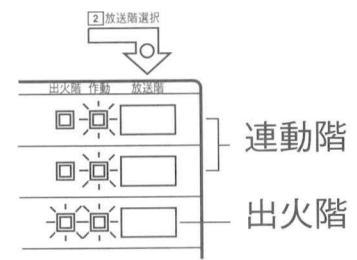
発報放送/火災放送切換スイッチ→発報放送（出荷時：発報放送）
（切換は設定スイッチカバー内の「発報放送/火災放送」切換スイッチで行う。）

1. 出火階、連動階に発報放送が放送される。

連動一斉表示灯が点灯している場合、全館一斉に放送されます。

ピンポン ピンポン ピンポン（第1シグナル音）
「ただいま〇階の火災報知器が作動しました。係員が確認しておりますので、次の放送にご注意ください。」

- ・火災灯点灯（赤色）
- ・出火階表示灯点灯（赤色）
- ・階別の作動表示灯点灯（緑色）



2. 操作を選択する。

●火災確認時

火災放送スイッチを押す。
火災放送が放送されます。



ピンポン ピンポン ピンポン
火事です。火事です。〇階で火災が発生しました。落ち着いて避難してください。ビュービュービュー（第2シグナル音）

●マイク放送時

マイクをフックから外し、マイクスイッチを押す。
マイクによる放送は他の放送より優先して放送されます。

→(A)へ

●非火災確認時

非火災放送スイッチを押す。
非火災放送が放送されます。

→(B)へ

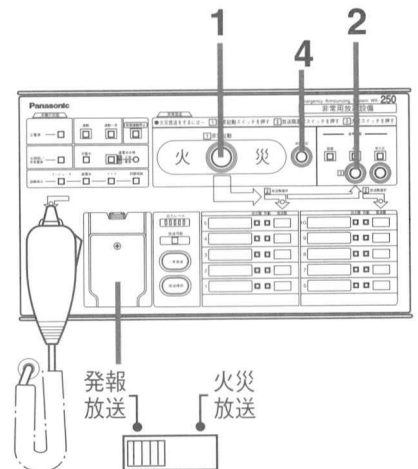
- 非常起動スイッチを押して火災放送を放送することもできます。
- 以下の場合、自動的に火災放送が放送されます。
 - ・第二感知器作動（階別信号入力時）
 - ・発報放送終了（メッセージ2回）
- マイクのスイッチ、非常復旧スイッチ、放送復旧スイッチ、非火災放送スイッチを押して「火災放送」を止めることができます。
- 第2タイマーの設定時間（0分/2～5分）が経過すると一斉火災放送に移行します。

3. 一斉火災放送が放送される。

- 全館一斉に「火災放送」が放送されます。
- 放送復旧スイッチで放送を中断することはできません。
- マイクで放送するとき→(A)へ
- 非火災放送を放送するとき→(B)へ

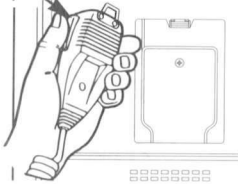
4. 放送を終了する。

非常復旧スイッチを押す。
非常放送が終了します。
感知器が作動している間は非常復旧スイッチを押して放送を終了することはできません。



① 状況に応じてマイクで放送する（マイク放送優先）。

スイッチを押す



- ・ 作動表示灯が点灯している階にマイク放送が流れます。
- ・ 連動一斉表示灯点灯時、マイクでの放送は全館一斉放送になります。
- ・ 火災放送時、マイク放送後マイクスイッチを切ると、第2シグナル音が鳴ります（ビュービュー）。

● 放送階を選択し直すとき

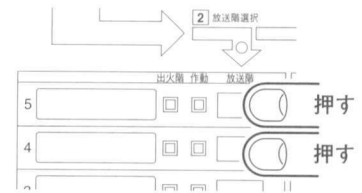
① 放送復旧スイッチを押す。※

放送階選択指示灯が点滅します。

※：放送復旧スイッチは第2タイマーの設定時間（0分/2～5分）が経過する前まで操作できます。タイマーの設定時間経過後は無効になります。

② 放送する階を選択し、マイクで放送する。

- ・ 一斉放送の場合は一斉放送スイッチを押します。
- ・ 火災放送時に放送復旧スイッチを押した後、放送階選択スイッチを押すと第2シグナル音が鳴ります（ビュービュー）。



② 「非火災放送」を放送する。

① 非火災放送スイッチを押す。

「非火災放送」が放送されます。

ピンポン ピンポン ピンポン（第1シグナル音）
「先ほどの火災感知器の作動は、確認の結果、異常がありませんでした。ご安心ください。」

非火災



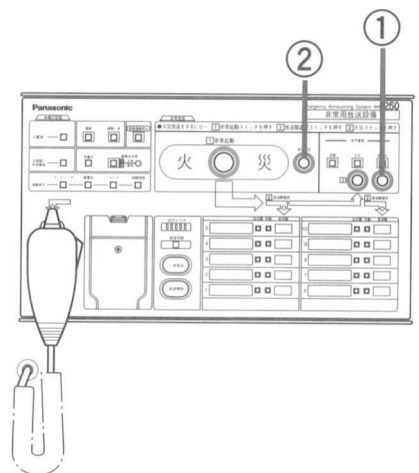
非常復旧



② 非常復旧スイッチを押す。

非常放送が終了します。

（感知器が作動している間は、非常復旧スイッチを押しても非常放送は復旧しません）



発信機・非常電話による非常放送（火災）



発信機・非常電話作動。
階別信号+火災確認信号
が入力されると発報状態
に移行

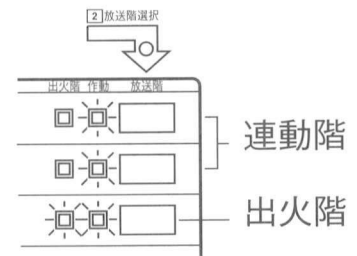
発報放送/火災放送切換スイッチ→火災放送（出荷時：発報放送）
（切換は設定スイッチカバー内の「発報放送/火災放送」切換スイッチで行う。）

1. 出火階、連動階に火災放送が放送される。

連動一斉表示灯点灯しているときは全館一斉に放送されます。

ピンポン ピンポン ピンポン
火事です。火事です。○階で火災が発生しました。落ち着いて避難してください。ビュービュービュー（第2シグナル音）

- ・火災灯点灯（赤色）
- ・出火階表示灯点灯（赤色）
- ・階別の作動表示灯点灯（緑色）



●マイク放送時

マイクをフックから外し、マイクスイッチを押す。
マイクによる放送は他の放送より優先して放送されます。

→(A)へ

- マイクのスイッチ、非常復旧スイッチ、放送復旧スイッチ、非火災放送スイッチを押して「火災放送」を止めることができます。
- 第2タイマーの設定時間（0分/2～5分）が経過すると一斉火災放送に移行します。

●非火災確認時

非火災放送スイッチを押す。
非火災放送が放送されます。

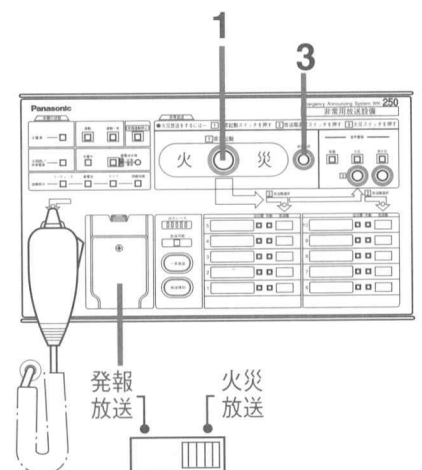
→(B)へ

2. 一斉火災放送が放送される。

- 全館一斉に「火災放送」が放送されます。
- 放送復旧スイッチで放送を中断することはできません。
- マイクで放送するとき→(A)へ
- 非火災放送を放送するとき→(B)へ

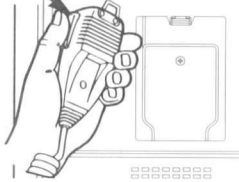
3. 放送を終了する。

非常復旧スイッチを押す。
非常放送が終了します。
感知器が作動している間は非常復旧スイッチを押して放送を終了することはできません。



④状況に応じてマイクで放送する（マイク放送優先）。

スイッチを押す



- ・ 作動表示灯が点灯している階にマイク放送が流れます。
- ・ 連動一斉表示灯点灯時、マイクでの放送は全館一斉放送になります。
- ・ 火災放送時、マイク放送後マイクスイッチを切ると、第2シグナル音が鳴ります（ビュービュー）。

●放送階を選択し直すとき

①放送復旧スイッチを押す。※

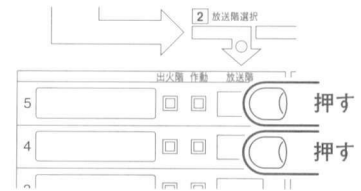
放送階選択指示灯が点滅します。

※：放送復旧スイッチは第2タイマーの設定時間（0分/2～5分）が経過する前まで操作できます。タイマーの設定時間経過後は無効になります。

②放送する階を選択し、マイクで放送する。

・ 一斉放送の場合は一斉放送スイッチを押します。

・ 火災放送時に放送復旧スイッチを押した後、放送階選択スイッチを押すと第2シグナル音が鳴ります（ビュービュー）。



⑤「非火災放送」を放送する。

①非火災放送スイッチを押す。

「非火災放送」が放送されます。

ピンポン ピンポン ピンポン（第1シグナル音）
「先ほどの火災感知器の作動は、確認の結果、異常がありませんでした。ご安心ください。」

非火災



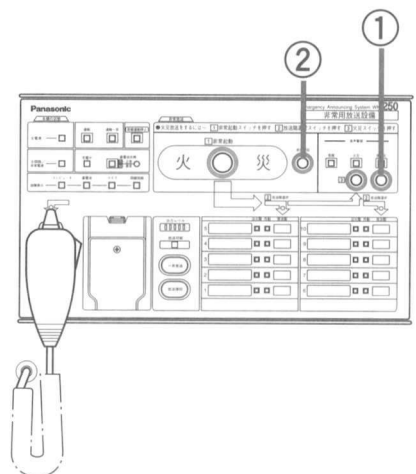
非常復旧



②非常復旧スイッチを押す。

非常放送が終了します。

（感知器が作動している間は、非常復旧スイッチを押しても非常放送は復旧しません）



手動による起動（発報）



発報放送/火災放送切換スイッチ→発報放送（出荷時：発報放送）
 （切換は設定スイッチカバー内の「発報放送/火災放送」切換スイッチで行う。）
 手動起動には、手動連動と個別連動があります（出荷時は手動連動）。
 詳しくは販売店または保守契約店にご確認ください。

1. 非常起動スイッチを押す。

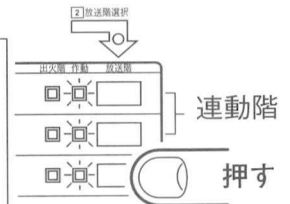


・ 放送階選択指示灯が点滅します。

2. 放送階選択スイッチを押す。

発報放送が放送されます。

ピンポン ピンポン ピンポン
 (第1シグナル音)
 「ただいま火災報知器が作動しました。係員が確認しておりますので、次の放送にご注意ください。」



・ 放送階・連動階の作動表示灯が点灯。
 ・ 放送階選択指示灯が点灯

3. 操作を選択する。

●火災確認時

火災放送スイッチを押す。
 火災放送が放送されます。



ピンポン ピンポン ピンポン
 火事です。火事です。
 (○階で) ※火災が発生しました。落ち着いて避難してください。
 ビュービュービュー (第2シグナル音)

●マイク放送時

マイクをフックから外し、マイクスイッチを押す。
 マイクによる放送は他の放送より優先して放送されます。

→(A)へ

●非火災確認時

非火災放送スイッチを押す。
 非火災放送が放送されます。

→(B)へ

※：階別信号を受信して火災放送に移行したとき、階情報（○階で）が自動的に追加されて放送されます。

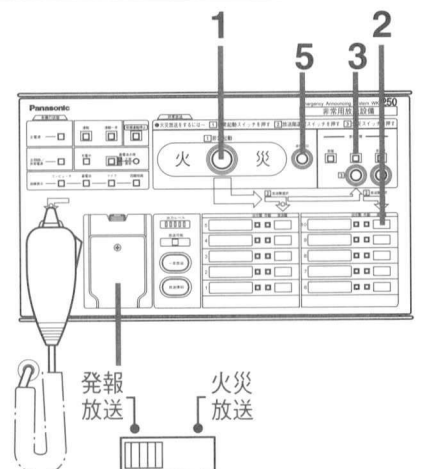
- 非常起動スイッチを押して火災放送を放送することもできます。
- 以下の場合、自動的に火災放送が放送されます。
 - ・ 発信機起動（火災確認信号+階別信号入力時）
 - ・ 感知器作動（階別信号）
 - ・ 非常電話作動（火災確認信号+階別信号入力時）
 - ・ 第1タイマータイムアップ（2～5分）
- マイクのスイッチ、非常復旧スイッチ、放送復旧スイッチ、非火災放送スイッチを押して「火災放送」を止めることができます。
- 第2タイマーの設定時間（0分/2～5分）が経過すると一斉火災放送に移行します。

4. 一斉火災放送が放送される。

- 全館一斉に「火災放送」が放送されます。
- 放送復旧スイッチで放送を中断することはできません。
- マイクで放送するとき→(A)へ

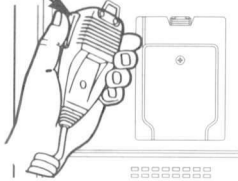
5. 放送を終了する。

非常復旧スイッチを押す。
 非常放送が終了します。
 感知器が作動している間は非常復旧スイッチを押して放送を終了することはできません。



①状況に応じてマイクで放送する（マイク放送優先）。

スイッチを押す



- ・作動表示灯が点灯している階にマイク放送が流れます。
- ・火災放送時、マイク放送後マイクスイッチを切ると、第2シグナル音が鳴ります（ビュービュー）。

●放送階を選択し直すとき

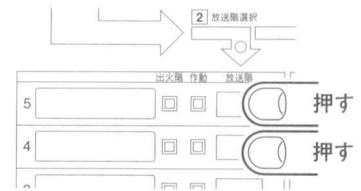
①放送復旧スイッチを押す。※

放送階選択指示灯が点滅します。

※：放送復旧スイッチは第2タイマーの設定時間（0分/2～5分）が経過する前まで操作できます。タイマーの設定時間経過後は無効になります。

②放送する階を選択し、マイクで放送する。

- ・一斉放送の場合は一斉放送スイッチを押します。
- ・火災放送時に放送復旧スイッチを押した後、放送階選択スイッチを押すと第2シグナル音が鳴ります（ビュービュー）。



②「非火災放送」を放送する。

①非火災放送スイッチを押す。

「非火災放送」が放送されます。

ピンポン ピンポン ピンポン（第1シグナル音）
「先ほどの火災感知器の作動は、確認の結果、異常がありませんでした。ご安心ください。」

非火災

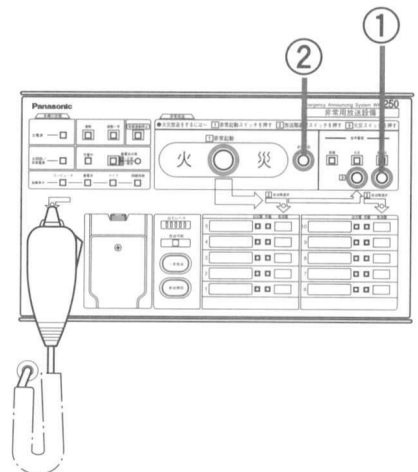


②非常復旧スイッチを押す。

非常放送が終了します。

（感知器が作動している間は、非常復旧スイッチを押しても非常放送は復旧しません）

非常復旧



手動による起動（火災）



発報放送/火災放送切換スイッチ→火災放送（出荷時：発報放送）
（切換は設定スイッチカバー内の「発報放送/火災放送」切換スイッチで行う。）

手動起動には、手動連動と個別連動があります（出荷時は手動連動）。
詳しくは販売店または保守契約店にご確認ください。

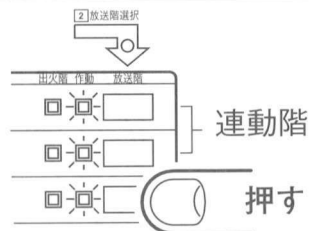
1. 非常起動スイッチを押す。



・放送階選択指示灯が点滅します。

2. 放送階選択スイッチを押す。

・放送階・連動階の作動表示灯が点灯。
・放送階選択指示灯が点灯



3. 「火災放送」が放送される。

ピンポン ピンポン ピンポン
火事です。火事です。火災が発生しました。落ち着いて避難してください。
ビュービュービュー（第2シグナル音）

●火災放送を中止するとき
マイクのスイッチ、非常復旧スイッチ、放送復旧スイッチを押して「火災放送」を止めることができます。

●マイク放送時
マイクをフックから外し、マイクスイッチを押す。
マイクによる放送は他の放送より優先して放送されます。

●非火災確認時
非火災放送スイッチを押す。
非火災放送が放送されます。

→(B)へ

→(A)へ

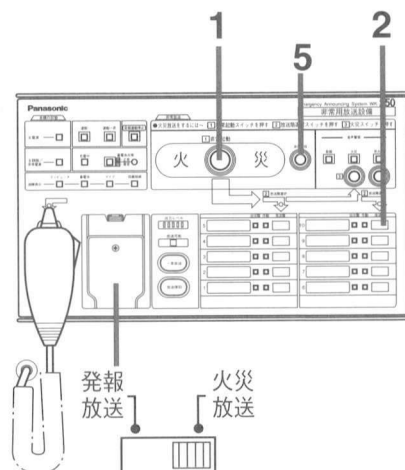
- マイクのスイッチ、非常復旧スイッチ、放送復旧スイッチ、非火災放送スイッチを押して「火災放送」を止めることができます。
- 第2タイマーの設定時間（0分/2～5分）が経過すると一斉火災放送に移行します。

4. 一斉火災放送が放送される。

- 全館一斉に「火災放送」が放送されます。
- 放送復旧スイッチで放送を中断することはできません。
- マイクで放送するとき→(A)へ

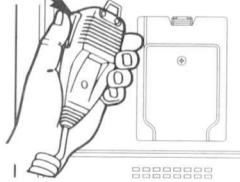
5. 放送を終了する。

非常復旧スイッチを押す。
非常放送が終了します。
感知器が作動している間は非常復旧スイッチを押して放送を終了することはできません。



①状況に応じてマイクで放送する（マイク放送優先）。

スイッチを押す



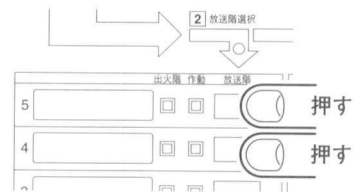
- ・作動表示灯が点灯している階にマイク放送が流れます。
- ・火災放送時、マイク放送後マイクスイッチを切ると、第2シグナル音が鳴ります（ビュービュー）。

●放送階を選択し直すとき

- ①放送復旧スイッチを押す。※
放送階選択指示灯が点滅します。

※：放送復旧スイッチは第2タイマーの設定時間（0分/2～5分）が経過する前まで操作できます。タイマーの設定時間経過後は無効になります。

- ②放送する階を選択し、マイクで放送する。
- ・一斉放送の場合は一斉放送スイッチを押します。
 - ・火災放送時に放送復旧スイッチを押した後、放送階選択スイッチを押すと第2シグナル音が鳴ります（ビュービュー）。



②「非火災放送」を放送する。

- ①非火災放送スイッチを押す。
「非火災放送」が放送されます。

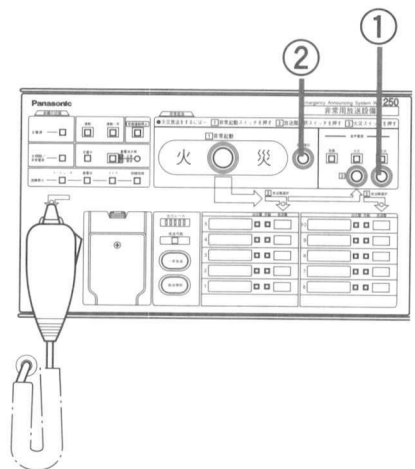
ピンポン ピンポン ピンポン（第1シグナル音）
「先ほどの火災感知器の作動は、確認の結果、異常がありませんでした。ご安心ください。」

- ②非常復旧スイッチを押す。
非常放送が終了します。
（感知器が作動している間は、非常復旧スイッチを押しても非常放送は復旧しません）

非火災



非常復旧



業務放送（一般放送）のしかた

業務放送（一般放送）を行うには次の2通りの方法があります。

- ・ 操作パネルで操作する
- ・ 外部から操作する

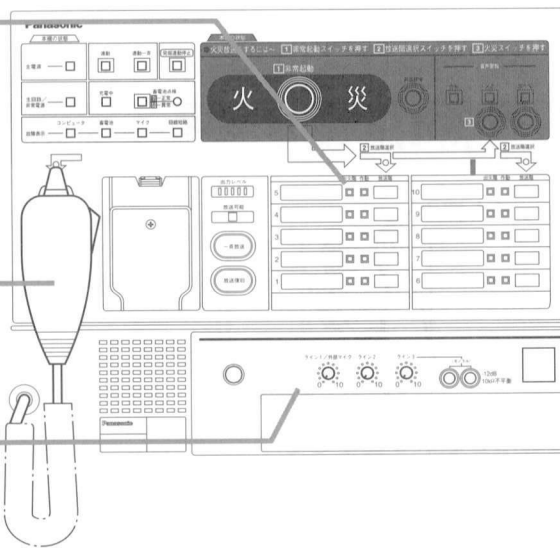
● 操作パネルで操作する場合

放送階選択パネル部で放送する階を選択します。

メモ

非常放送パネル部を操作すると「非常放送」が放送されるので注意してください。

マイクのスイッチを押すと、選択した階（作動表示灯点灯）にマイク放送を行うことができます。



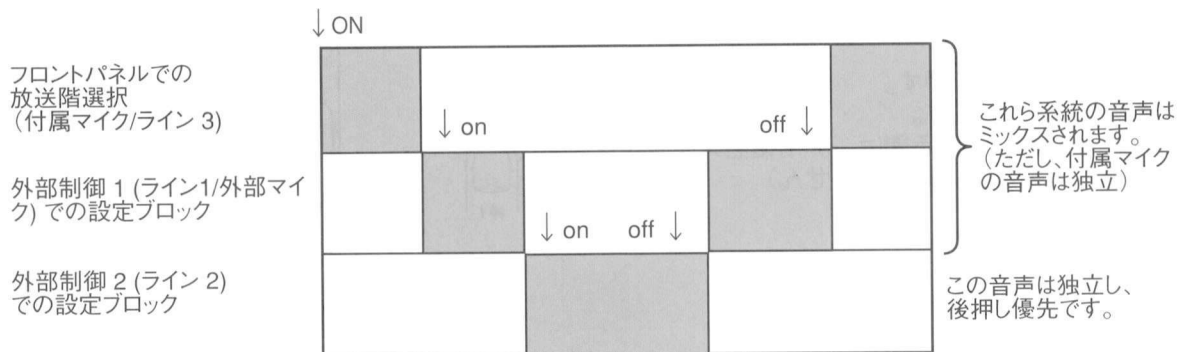
● 外部から操作する場合

外部機器から内部端子台の外部起動端子をマイクすると、ブロック放送を行うことができます。

必要な入力の音量を調節します。
マイク入力や音楽ソースなどの音量差が大きいとピーク部で音が歪むことがあります。
通常、出力レベル表示灯が1つまたは2つ点灯するように、ボリュームを調整します。

後押し優先と音声ミックスについて

- 放送階の選択は後に押しした階が優先されます。
- ライン1（または外部マイク）とライン3の音声はミキシングされます。ただし、設定によりライン1の音声でライン3の音声がミュートされます。
- ライン2の音声は独立して放送されます。アナウンスユニットなどを用いた定時放送および緊急放送を行うにはライン2が適しています。
- 付属マイクの音声も独立して放送されます。



書き込みについて

建物の規模や放送の目的などによって、放送する場所や機能を指定できます。これを書き込み機能といいます。

- 設定スイッチカバー内の書込/通常/総合点検切換スイッチを使って、以下の5項目を書き込みます。
- 書き込みは販売店または保守契約店にご依頼ください。ご自分で書き込み/変更するときは「書き込み説明(59ページ)」をお読みください。

1. 出火階、連動階の指定

- 地下階やエレベーター、または一般放送との関係で、1つの階に2つ以上のスピーカー回線がある場合など、出火階と連動階（出火階に連動して放送する階）などを指定できます。
- 放送階選択スイッチと放送する階が1対1に対応している場合、書き込みしなくても連動階、出火階に放送できるよう、出荷時に設定されています。（スイッチ1-端子台EL1-1F）

2. 階情報の指定

- 階情報（火災感知器からの階別信号をどの放送階選択スイッチに割り当てるか）指定します。
 - 日本語放送、英語放送を指定します。（日本語のみ、日本語と英語（第2、第3外国語*）を指定できます。）
- ※：第2外国語、第3外国語は特注対応です。

3. 一斉/緊急指定

- スピーカーのアッテネーターが「OFF」になっていても、一斉放送できます。
- アッテネーターが「OFF」のとき放送できなくすることもできます。

4. タイマー設定（1）～（3）

- 発報放送から火災放送へ移行する時間：第1タイマー
- 火災放送から一斉火災放送へ移行する時間：第2タイマー
- 発報放送の繰り返し回数と繰り返すまでの時間

5. 一般外部ブロック放送

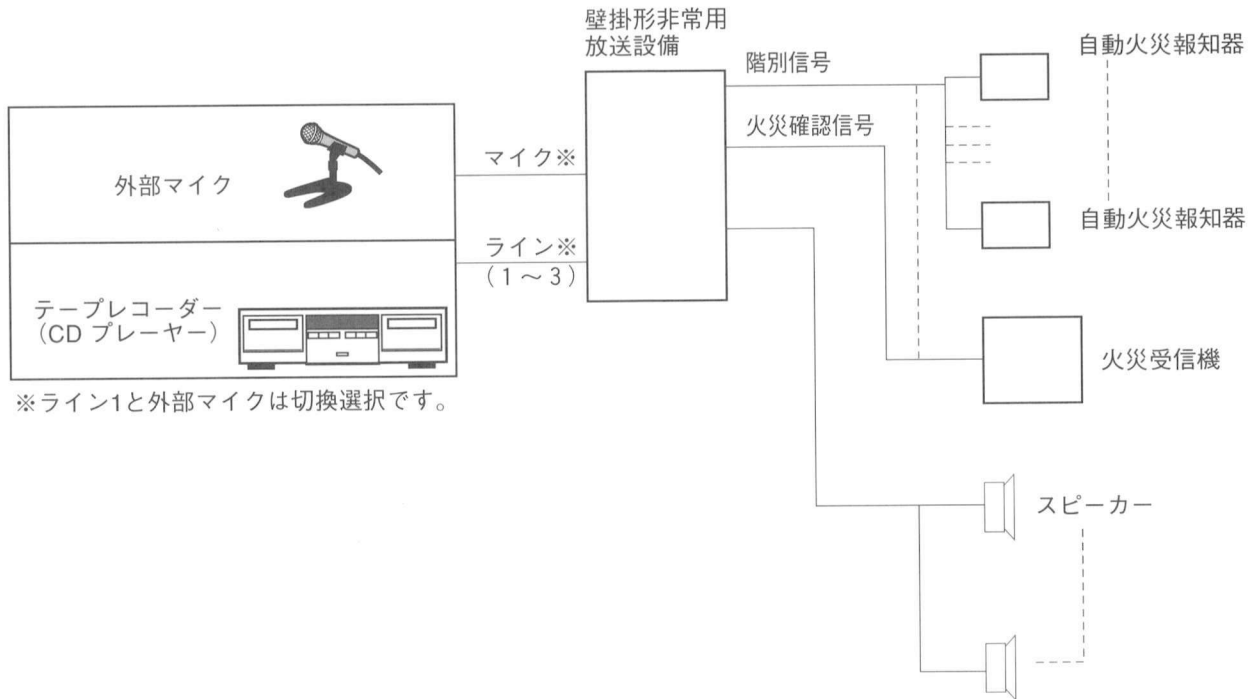
- BGMなどを1日中放送したい場合に設定します。
BGMなどの放送機器が動作している間、常にBGM放送が流れます。
マイク放送などでBGM放送を中断した場合、マイク放送を終了（復旧）すると自動的にBGM放送が流れます。
- 一部外部放送をまとめて放送することができます。（書き込み指定をしない場合、一斉放送となります。）

書き込み内容の変更を行った場合、必ず動作確認を行ってください。（動作確認のしかたについては「設置時の点検」をご覧ください。）

接続できる機器について

■接続できる機器について

- ・各機器の接続は販売店にお申し付けください。
- ・放送の内容は録音できません。



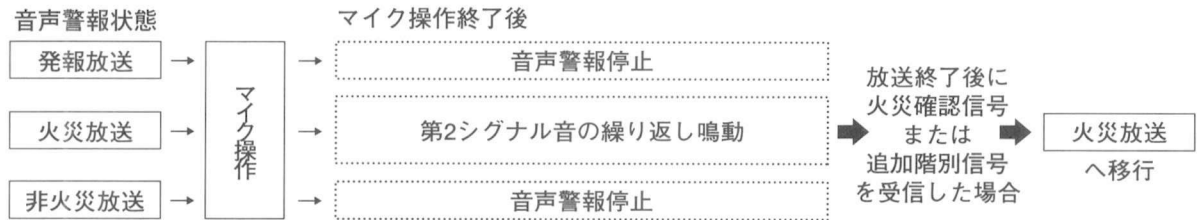
■マイク優先回路について

- ・外部マイクで放送している間、ライン3の音声を減衰できます。
- ・減衰量は基盤内部で調整します。調整は販売店にお申し付けください。

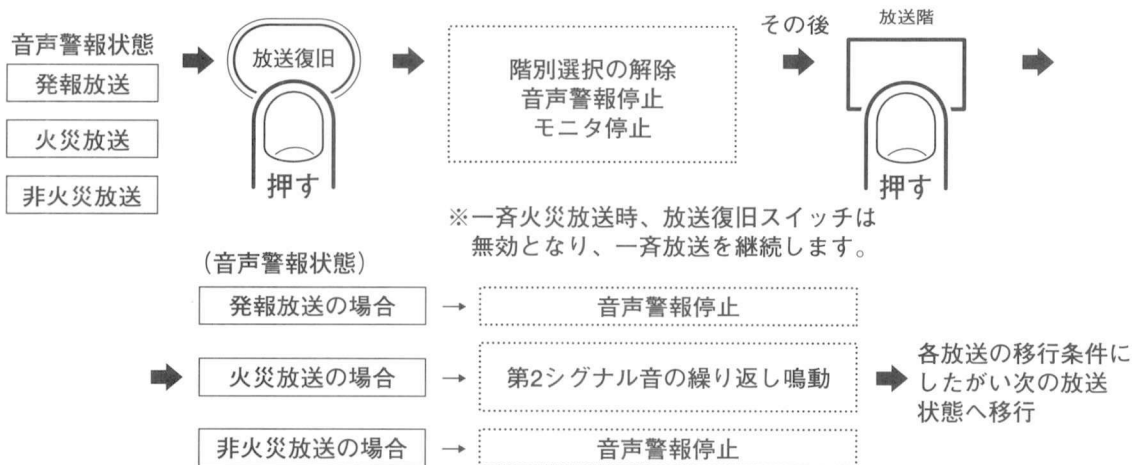
マイク、放送復旧、非常復旧スイッチの操作について

■非常時のマイク（付属）操作について

非常時のマイク操作は、音声警報状態に優先します。



■放送復旧スイッチの操作について



■非常復旧スイッチの操作について

非常復旧スイッチを押すと、それまでの放送はいったんクリアされます（コンピュータは再度、接点の確認を始めます）。ライン1, ライン2両方メイクしている場合、常にライン1側が放送されます。

日常点検

お願い

万一の際、機器が正常に動作するように、日常点検を行ってください。

日常点検時に異常を発見したときは、ただちに販売店または保守契約店にご連絡ください。

修理、復旧を実費にて行わせていただきます。詳しくは販売店にご相談ください。

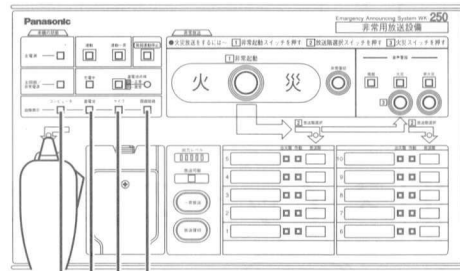


■ 日常点検のしかた

本機にはセルフチェック機能があり、常時内部コンピュータが次の項目を点検しています。右図に示す故障表示灯が点灯していないことを確認してください。

- ・ コンピュータ自身
- ・ スピーカー回線（短絡）
- ・ マイク
- ・ 蓄電池（24時間ごとに点検）

セルフチェック機能によって、故障が発見されると、故障表示灯が点灯します。さらに、警告音（ピー音）が鳴ります。このようなときは故障表示灯の点灯箇所を確認し、故障箇所を販売店または保守契約店に連絡してください。



回線短絡故障表示灯（赤色）

スピーカー回線が短絡すると、赤色に点灯します。また、短絡した場所の作動表示灯が緑色に点滅します。

マイク故障表示灯（赤色）

マイクが何らかの原因で断線状態になると赤色に点灯します。

蓄電池故障表示灯（赤色）

蓄電池に異常があるときに点灯します。内部コンピュータによる自動検査^(注)または蓄電池点検スイッチを押しての手動検査の結果、蓄電池に異常があると点灯します。また、何らかの異常で書き込みデータが消去されると、点滅します。

コンピュータ故障表示灯（赤色）

内部コンピュータに異常があるときに点灯します。

注：内部コンピュータの点検は24時間ごとに行われます。

■非常電源（蓄電池）の点検について

メモ

- 蓄電池は本機のセルフチェック機能で24時間おきに自動的に点検が行われますが、手動で点検することもできます。
- 手動で点検を行った場合、それから24時間おきにコンピュータによる自動点検が行われます。
- 放送中に蓄電池点検スイッチを押すと、スピーカーから「ポツ」音が出ることがあります。（故障ではありません）



●自動点検

コンピュータが24時間ごとに点検を行います。

[異常を発見した場合]

「蓄電池故障表示灯」が赤色に点灯します。また、4秒おきにブザー音（ピー音）が鳴ります。



[処置のしかた]

- 操作パネルのスイッチ（点検スイッチ以外）を押します。
ブザー音が止まります。ブザー音が止まっても故障表示灯は点灯し続けます。
- ただちに、販売店または保守契約店に蓄電池故障をご連絡ください。

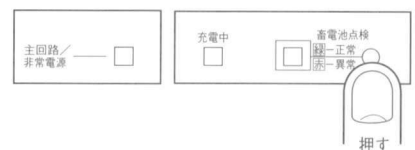
●手動点検

⚠ 注意

蓄電池の手動点検は1日2回以内までとしてください。指定回数より多く蓄電池点検スイッチを押したり、押し続けたりすると、蓄電池が消耗し、非常時にシステムが動作しなくなる恐れがあります。

[点検のしかた]

- 主回路/非常電源表示灯が点灯していることを確認します。
- 蓄電池点検スイッチを押します。
蓄電池故障表示灯が消灯していることを確認します。
- 点検動作は約10秒です。その間、蓄電池正常/異常表示灯が緑色に点灯していることを確認します。
- 10秒以上経過してから、充電中表示灯（充電中）が点灯していることを確認します。



点検の結果異常があるときは自動点検の場合と同様に販売店または、保守契約店にご連絡願います。

メモ

- 主電源が遮断されても蓄電池から電源が供給されるため、「主回路/非常電源表示灯」は点灯し続けます。これは、停電状態でも本機が非常放送できる状態であることを示すためです。
注：蓄電池で非常放送を放送できる時間は蓄電池の充電状態によって異なります。
- 蓄電池点検時、回路が切り替わる瞬間（蓄電池点検スイッチを押したときと10秒後に復旧したとき）、一瞬表示が変わることがあります（故障ではありません）。

日常点検

●蓄電池の交換について



注意

蓄電池の交換は、販売店
か保守契約店に依頼する



感電の原因となります。

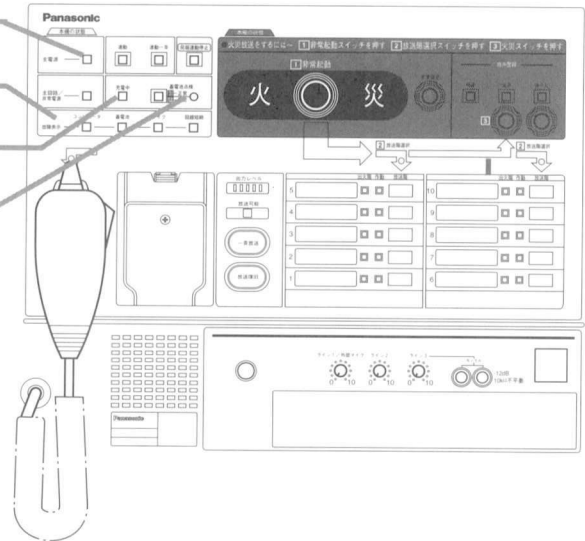
- ・蓄電池（ニッケル・カドミウム蓄電池）には寿命があります。
（非常放送の有無は関係ありません。）点検の際、容量不足があれば新品と交換してください。
- ・交換した蓄電池はリサイクルにご協力ください。
不要になったニッケル・カドミウム蓄電池は貴重な資源を守るために、廃棄しないでニッケル・カドミウム蓄電池のリサイクルにご協力ください。



こんなときには

以下に示す状態のときは、すぐに販売店または保守契約店にご連絡ください。

- 主電源表示灯が消えている。
- 故障表示灯が点灯する。
- 充電中表示灯が消灯する。
- 「蓄電池点検」スイッチを押したとき、蓄電池正常/異常表示灯が赤色に点灯する。



保守点検のお願い

- 消防法により定期点検、消防署への報告および点検結果の維持台帳への記録が義務づけられています。
- 建物の規模、用途によっては消防設備士または、自治大臣が認めた有資格者が点検しなければなりません。
- 当社では非常用放送設備が正しく動作するために、締結をおすすめします。
- 保守契約をしていただくことは、ご使用者にかわって「消防設備士」・「消防設備点検資格者」が定期点検をお引き受けするわけですから保証期間内であっても定期点検業務については有償となります。



(このページは白紙です。)

工事を行うには資格が必要です。

電源工事は「電気設備技術基準」による電気工作物に関わる法令の規定によるほか、工事には「第1種または第2種電気工事士」の資格が必要です。

自動火災報知設備の設置工事または整備を行うには、「甲種消防設備士第4類」の資格が必要です。整備については、「乙種消防設備士第4類」の資格で行うことができます。

なお、消防設備士の指導監督の下に補助者を使用することは許されています。

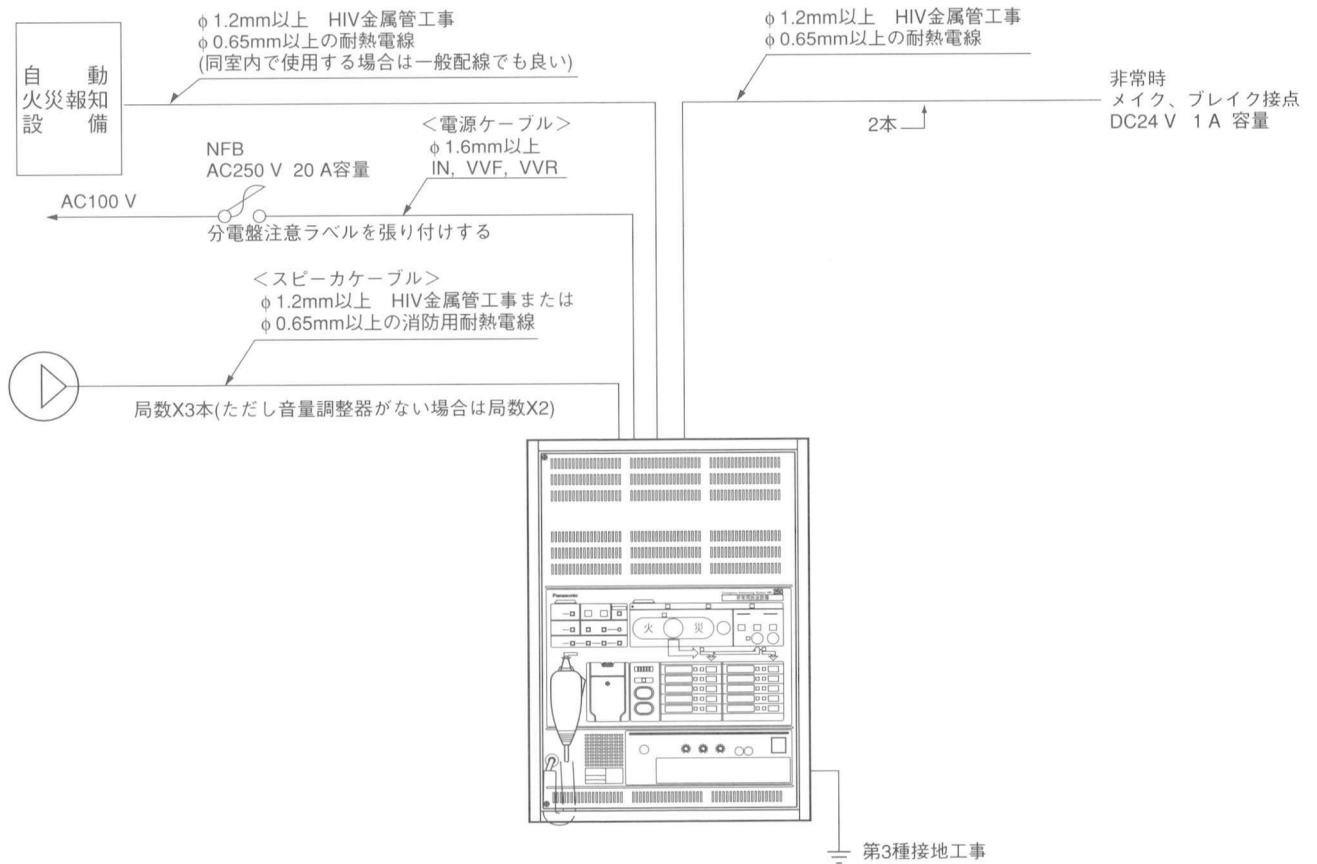


工事を始める前に必ず巻頭に記載されている「安全上のご注意」をよく読み、その指示に従ってください。

工事を行う前に

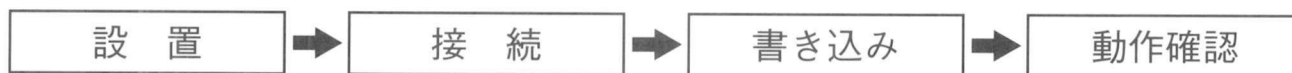
■ 接続線について

下図を参考に接続線をご用意ください。



■ 工事の順序

次の順序で工事を行ってください。



非常放送の流れを確認してください

工事を始める前に8ページを参照し、非常用放送設備の基本動作を確認してください。

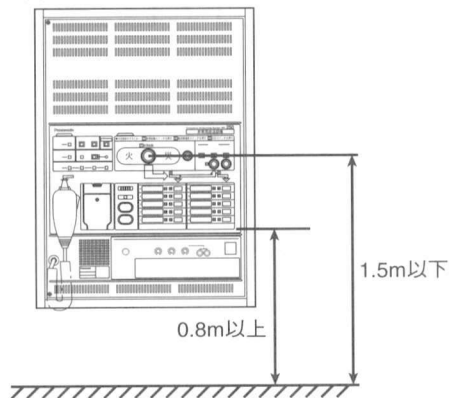
非常用放送設備は手動による起動の他に感知器などを用いて外部から起動することもできます。起動方法によって設定のしかたが異なりますので工事を行う前に必ず確認してください。

工事を行う前に

■設置上のご注意

●取り付け高さを守る。

床面から非常起動スイッチまでが1.5mになるように取り付けてください。

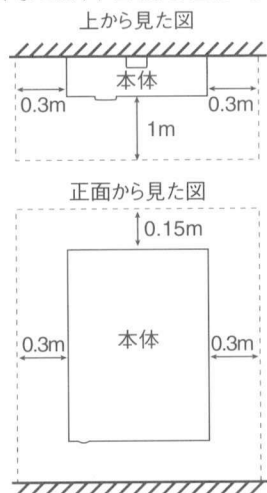


●本機の荷重に耐えられる場所に取り付ける。

30kg以上の荷重に耐えられる壁面に取り付けてください。

●周囲に障害物を置かない。

下図の範囲内には障害物を置かないでください。



●操作説明書は本機のそばに置く。

非常時に確実に操作できるように、操作説明書をゼロケースに入れて、本機のそばに置いてください。

ただし、本機の上には絶対に置かないでください。

●分電盤注意ラベルを分電盤に、はり付ける。

設置工事完了後、分電盤のスイッチは通常切らないでください。誤って分電盤のスイッチを切ることのないように、付属の分電盤注意ラベルを分電盤に、はり付けてください。

本機電源の入/切は分電盤で行います。異常時以外は分電盤が切られないようにする（常に主電源表示灯が点灯している）必要があります。

ただし、本機に異常が見られるときは分電盤を「切」にします。

本機は停電時でも放送できるように非常用電源が組み込まれています。分電盤のスイッチを切ると充電が行われず、非常時に放送できなくなる恐れがあります。

●電源ケーブルは付属されていません。

本機に電源ケーブルは付属されていません。別途ご用意ください。

●改造しないでください。

本機は認定品ですので絶対に改造しないでください。

●設定メモリーチェック機能と書き込み設定値について

書き込み設定後、設定値を巻末の記入欄に記入し保存してください。また設定内容を使用者に十分説明していただきますようお願いいたします。

書き込み内容はメモリーバックアップ用電池で保持されていますが、万が一この電池の容量が不足すると設定値が消去されてしまいます。設定値が消去されると蓄電池故障表示灯が点滅してお知らせします。

メモリーバックアップ用電池は充電式ですので、初めて本機に常用電源（AC100V）を投入したときには約24時間以上通電してください。

なお、蓄電池故障表示灯の点滅は「書込/通常/総合点検」スイッチを「書込」側にし、再度「通常」に戻すと消灯に戻ります。

●工事上の資格について

電源工事は「電気設備技術基準」による電気工作物に関わる法令の規定によるほか、工事には「第1種または第2種電気工事士」の資格が必要です。

自動火災報知設備の設置工事または整備を行うには、「甲種消防設備士第4類」の資格が必要です。整備については、「乙種消防設備士第4類」の資格で行うことができます。

なお、消防設備士の指導監督の下に補助者を使用することは許されています。

設置のしかた

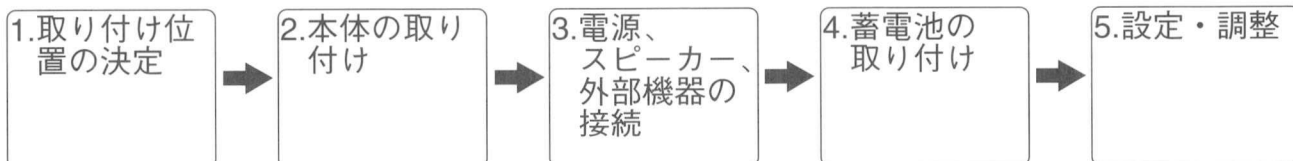
■設置手順

次の手順で設置してください。



警告

工事を行う前に分電盤のスイッチを「切」にしてください。感電の原因となります。



1. 取り付け位置の決定

●壁面に取り付ける場合

①付属の型紙を、非常起動スイッチの位置が床面から1.5mの所にくるように取り付けます。

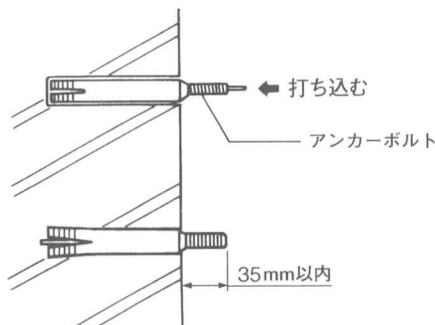
②型紙に合わせて、4か所の取り付け用穴を開け、アンカーボルトを打ち込みます。アンカーボルトを使用できない場所に取り付けるときは木ねじを使用します。

本体の取り付け穴の径： $\phi 8\text{mm}$ (4か所)
 $\phi 11\text{mm}$ (4か所)
11×5mm (長穴4か所)



●コンクリート壁のとき

壁面は荷重30kg以上のコンクリート壁を選びます。電動ドリルで穴を開け、アンカーボルトを打ち込みます。



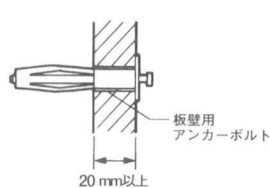
●板壁などのとき

しっかりした柱または板厚20mm以上の板壁に取り付けてください。

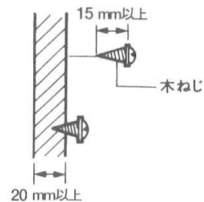
注：木造やボード製の壁には取り付けないでください。落下などでけがの原因となります。

電動ドリルで穴を開け、板壁用のアンカーボルトを打ち込みます。

板壁用のアンカーボルトが使用できない場所に取り付けるときは木ねじを使用します。



(板壁用アンカーボルトを使用するとき)



(木ねじを使用するとき)

●ラックに収納する場合

ラックはスタンダードラック (WU-RS71) またはロングラック (WU-RL76) をご使用ください。ラックに収納するには、別売り品のラックアングル (WQ-LAY/A132) を別途ご用意願います。

●取り付け高さ

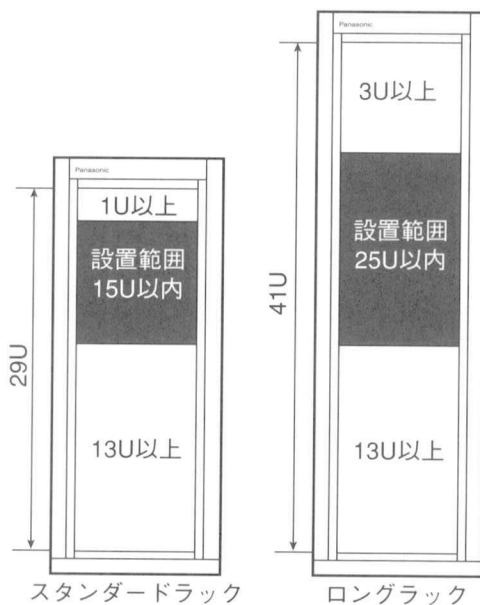
法令により、非常用放送設備は床面から0.8m~1.5mの高さに操作部が納まるように設置する必要があります。

本機をラックに取り付けるときは右図の範囲に設置してください。

●業務用放送機器の収納位置について

- 卓上アンプ (発熱するもの) は本機の上に設置してください。本機の下には絶対に取り付けしないでください。
- 本機と他の機器との間は1U以上開けて取り付けてください。

推奨ブラックパネル：W2-PPA/44



工事説明

設置のしかた

2.本体の取り付け

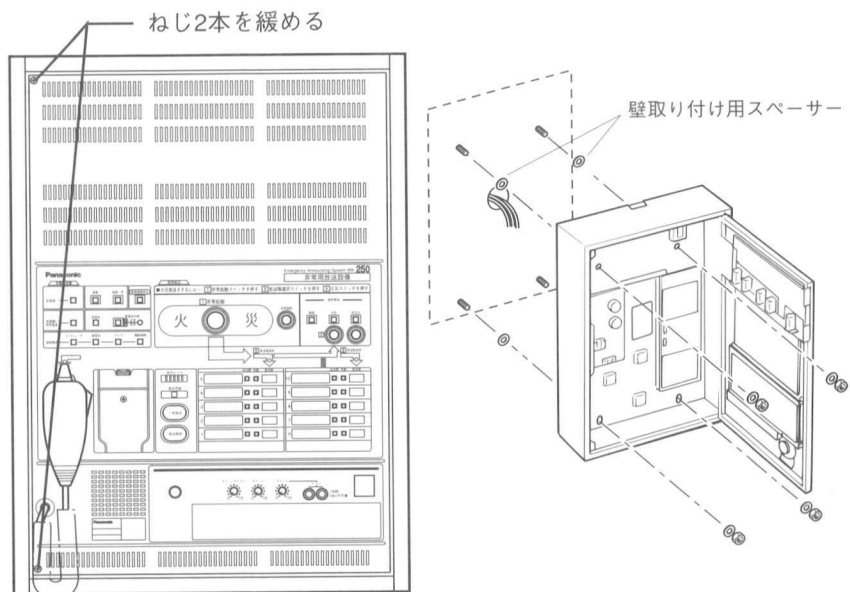
●壁面へ取り付ける

- ①ねじ2本を緩め、操作パネルを開きます。
- ②取り付け穴4か所にアンカーボルトを通します。
- ③アンカーボルトにナットで固定します。
露出配管のときは通線孔をねじって切り取ります。

壁に凹凸がある場合、付属の壁取り付け用スペーサーをお使いください。

壁面からの埋め込み配管のときは、壁面の通線孔と本機の通線孔の位置を合わせて取り付けてください。

背面側の通線孔は本機中央にあります。

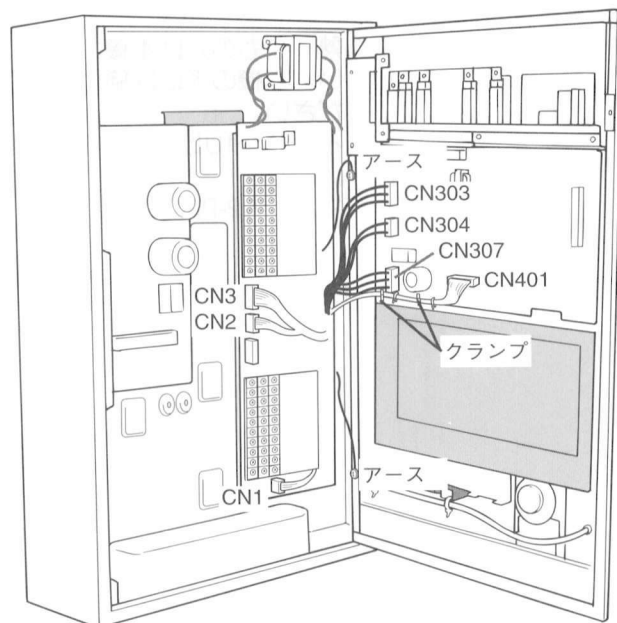


●操作パネルの外しかた

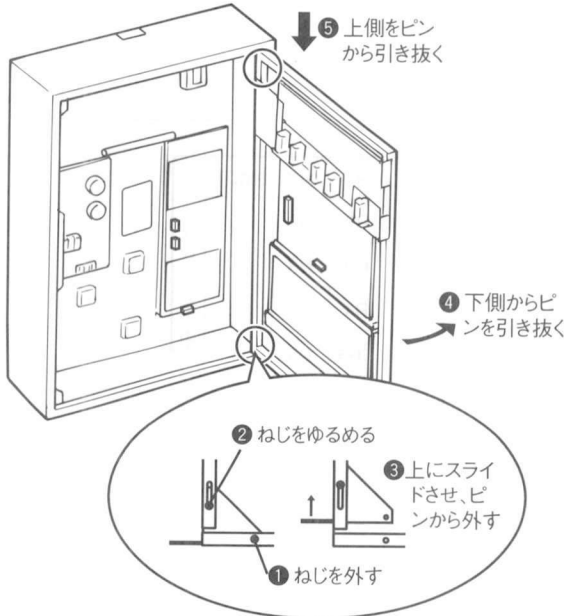
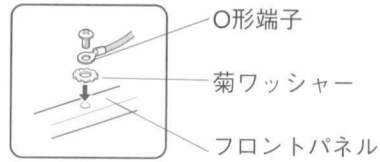
本機は操作パネルを外さずに取付工事ができるよう設計されています。

操作パネルを外すときは以下の手順で作業を行ってください。

- ①ねじ2本を緩め、操作パネルを開きます。
- ②CN303, CN304, CN307を外します。
パネル側にあります。
- ③スピーカー端子台のカバーを外します。
カバーを固定しているピンを軽く引くと外すことができます。外したカバーは下側に回してください（47ページを参照してください）。
- ④CN1（端子台の下）、CN2, CN3（端子台の間）を外します。
- ⑤CN401を外します。
パネル側の基板（上側）の下にあります。
外したコネクタケーブルはクランプで固定されています（2か所）。



- ⑥CN401コネクタケーブルを固定しているクランプ（2か所）から外します。
- ⑦菊ワッシャーを紛失しないようにアース線を固定しているねじ（2か所）を外します。
- ⑧下図の手順で操作パネルを外します。

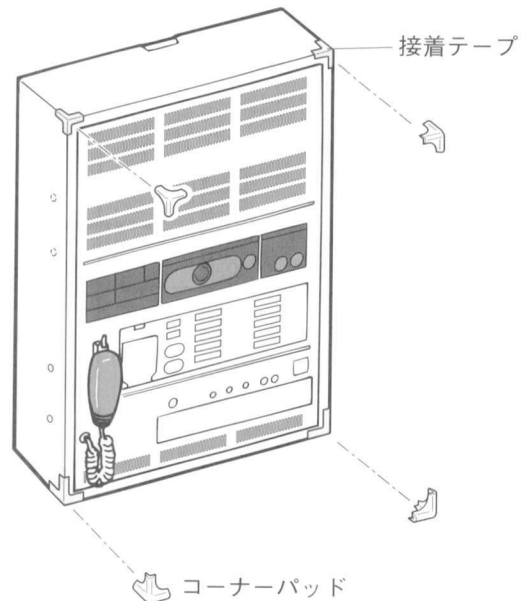


- ⑨作業が終了したら、操作パネルを取り付け、コネクタを確実に元の位置に差し込んでください。
- パネルを取り付けるときは逆の手順で行ってください。

注：アース線を取り付けるときは、菊ワッシャーをO形端子とフロントパネルとの間に取り付けてください。

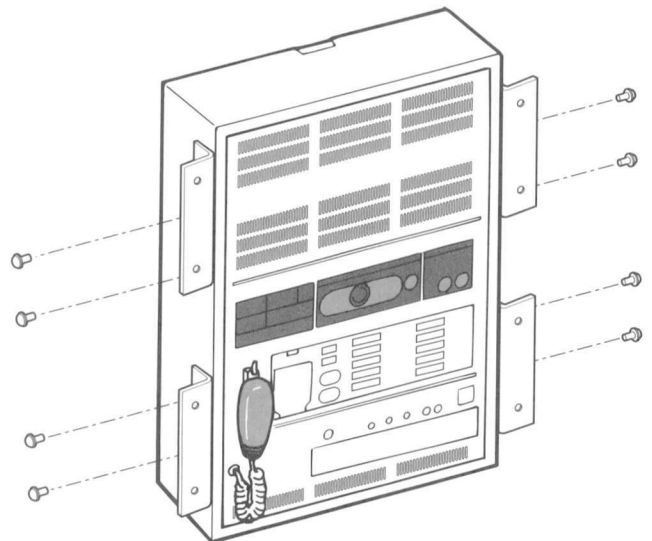
設置場所により角でけがをする恐れがある場合は付属のコーナーパッドをはり付けてください。

- ①付属の接着テープを各コーナーに、はり付けます。
- ②接着テープの台紙をはがし、コーナーパッドをはり付けます。



●ラックに収納する場合

- ①本体側面の樹脂リベット8本を外します。
- ②ラックアングル（WQ-LAY/A132：別売り品）をねじ止めします。
取り付けねじ：M4×8バインド（現地調達）
- ③ラックに取り付けます。
取り付けねじ：M5×12バインド（現地調達）



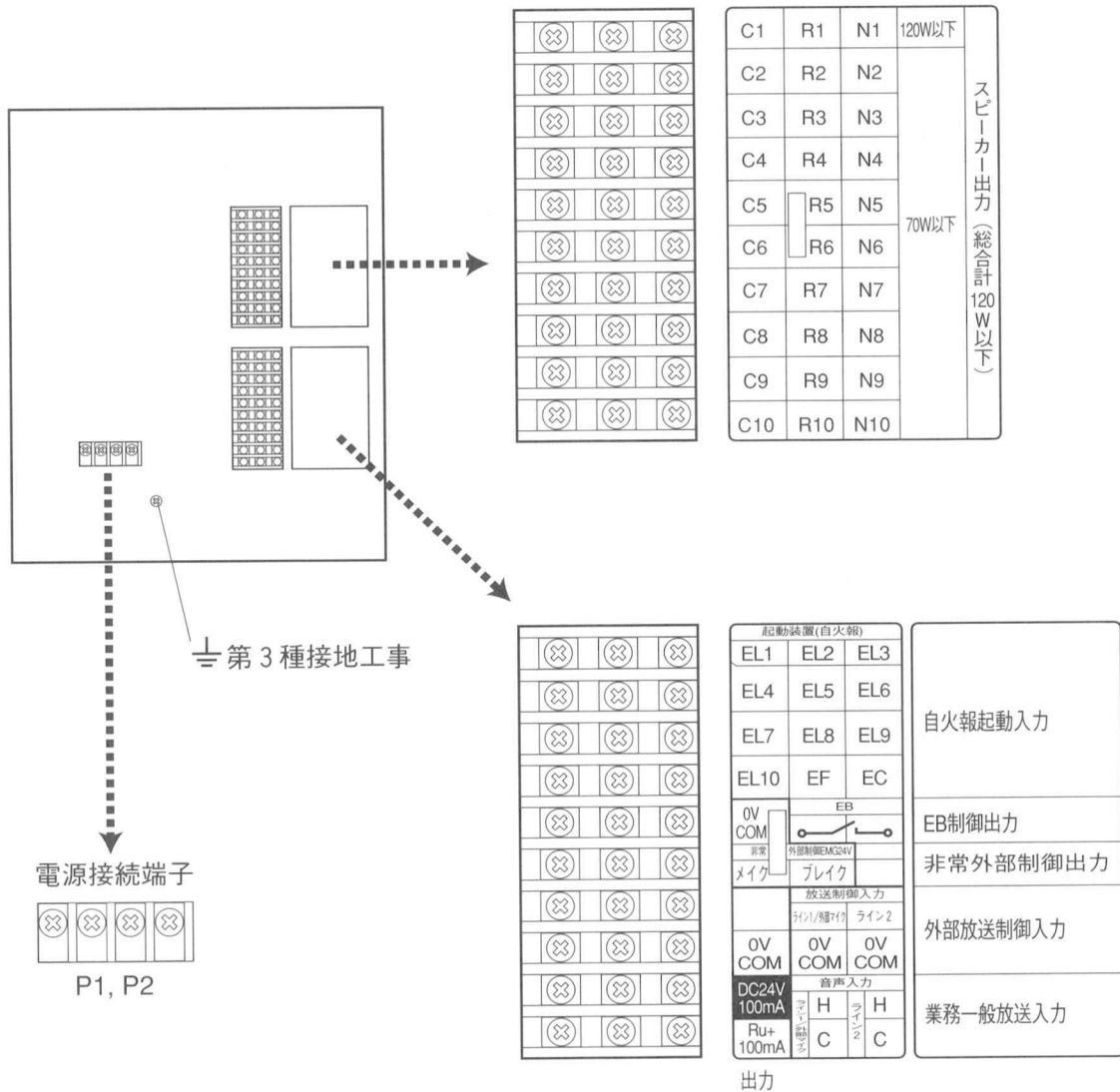
設置のしかた

3.電源、スピーカー、外部機器の接続

●接続端子台の位置

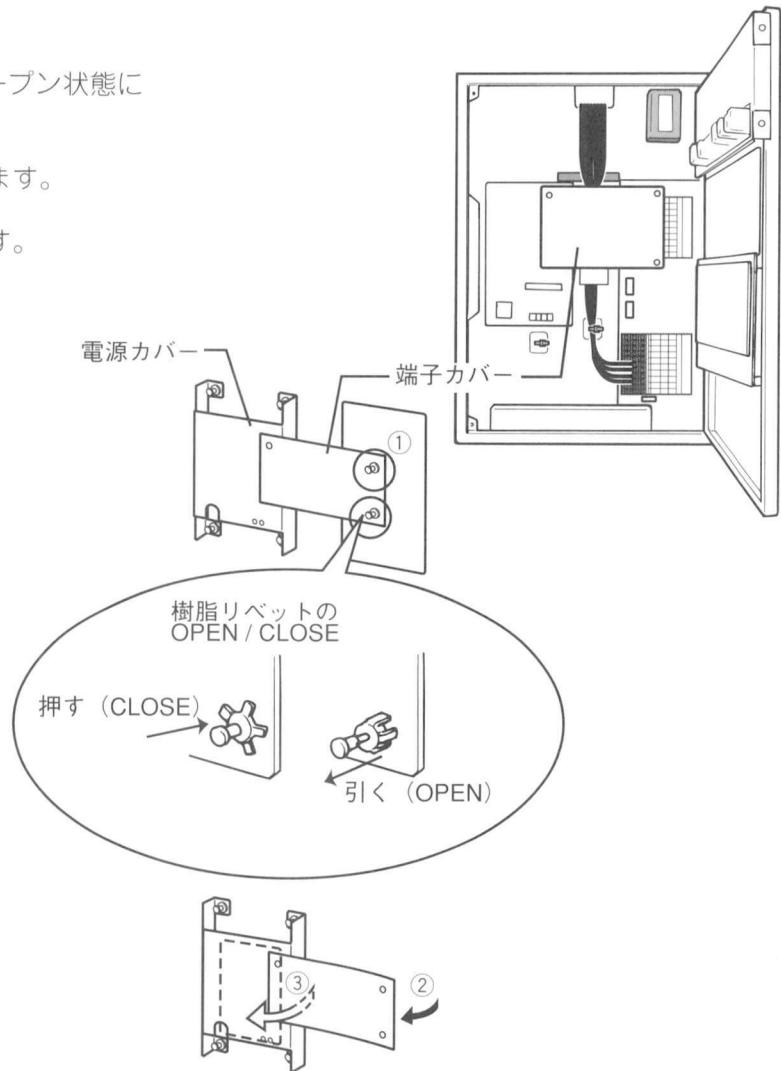
重要

- スピーカー回線の接続には制限事項があります。詳しくは53ページをご覧ください。
- 各端子の接続を始める前に次ページからの接続のしかたをよく読んでください。



●端子カバーの外しかた

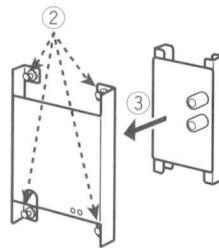
- ①端末基板側の樹脂リベット2本をオープン状態にします。
- ②端子カバーを引いて端子台から外します。
- ③端子カバーを図のように回転させます。



●電源カバーの外しかた

電源カバーを外さずに設置工事できます。
ヒューズを交換するときだけ電源カバーを外してください。

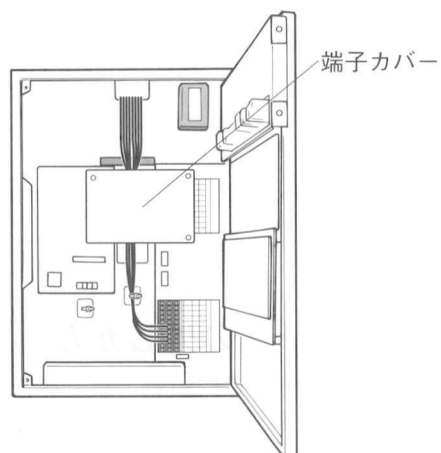
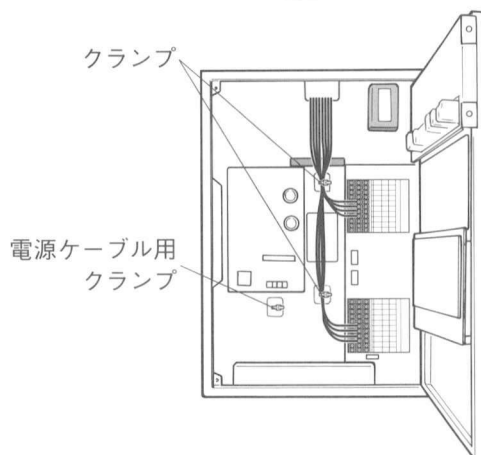
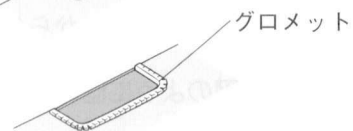
- ①端子カバー外します。
- ②電源基板カバーを固定している樹脂リベット4本をオープン状態にします。
- ③電源カバーを外します。



設置のしかた

●配線のしかた

- 上方向または下方向から配管するときは、通線孔をラジオペンチなどでねじって外してください。
- ケーブルを傷などから保護するため、付属のグロメットを通線孔に取り付けてください。上または下から配管するときは、グロメットを通線孔の大きさに切ってから取り付けてください。
- 通線孔から引き入れたケーブルを付属のバンドでしっかりと固定してください。
- 電源ケーブルは電源ケーブル用クランプでしっかりと固定してください。ケーブルの引き込み方向に合わせて電源用クランプの位置を決めてください。
- 端子台に配線したケーブルはシャーシ面から浮き上がらないようにしてください。
- 配線が完了した端子カバーを元通りに取り付けてください。電源カバーを取り外しているときは、電源カバーも取り付けてください。



●音声入力端子の接続の前に

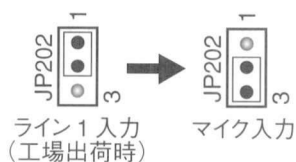
本機の音声入力端子はメイク端子制御による汎用音声入力端子です。
音声入力ソースに合わせ、感度切換や制御端子を選択してください。

音声入力端子名	入力感度 (dBV)	制御端子	ミキシング
ライン1/外部マイク	-22/-65	外部制御1 (メイク)	ライン3とミキシング (ただし、ライン3は設定によりミュート)
ライン2	-12/-22	外部制御2 (メイク)	ミキシングなし。後押し優先。

●ライン1/外部マイクの切換

ジャンパーピン (JP202: 右図参照) で切換ます。

出荷時はライン1入力の設定になっています。
マイク入力で使用するときには下図のようにJP202
の設定を変更してください。

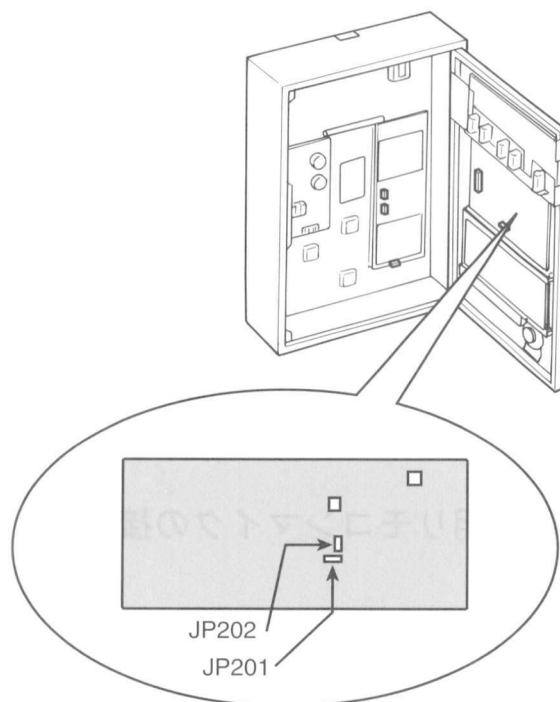


注: マイク入力の設定でライン入力を行うと音割れが発生します。

●入力レベルの切換 (ライン2)

ジャンパーピン (JP201: 右図参照) で切換ます。

出荷時は-12dBに設定されています。
JP201の設定を変えることによって入力レベル
を-22dBに変更できます。



設置のしかた

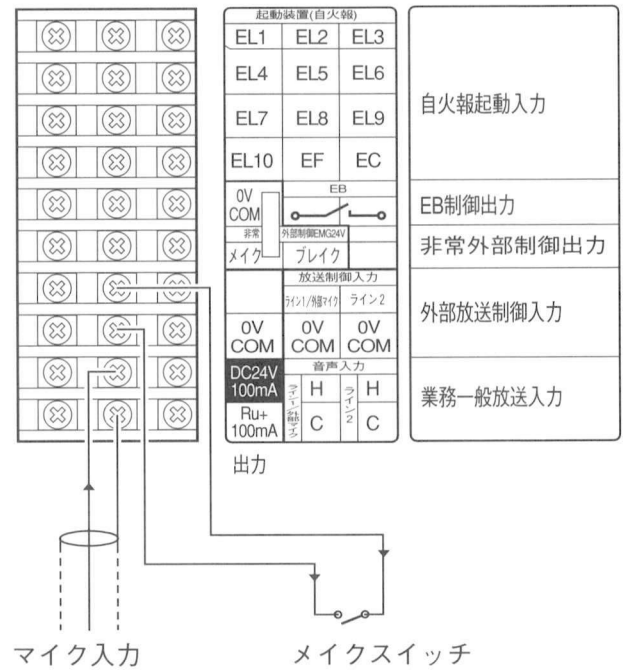
●マイクの接続

接続マイクの仕様

入力レベル	-65dBV
入力インピーダンス	10kΩ,不平衡

接続の前に

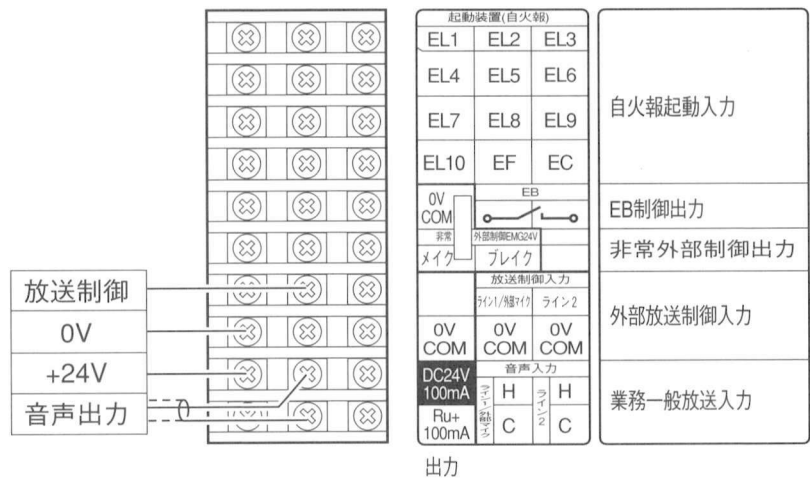
- ジャンパーピン（JP202）の設定がマイクに設定されていることを確認してください。
- 端子台に接続されているショートバーを外してください。



●単局用リモコンマイクの接続

注意

放送制御にはオープン時24Vの電圧がかかっています。オープンコレクタ出力とは接続しないでください。



メモ

単局リモコンのコールサインスイッチで、本機に取り付けたコールサインユニット（別売り品）を起動する場合、単局リモコンのコールサイン制御をコールサインユニットの外部起動コネクタ（CN7 “ピン番号1：E”，“ピン番号2：EXT START”）に直接配線してください。

●ライン1,ライン2,ライン3の接続

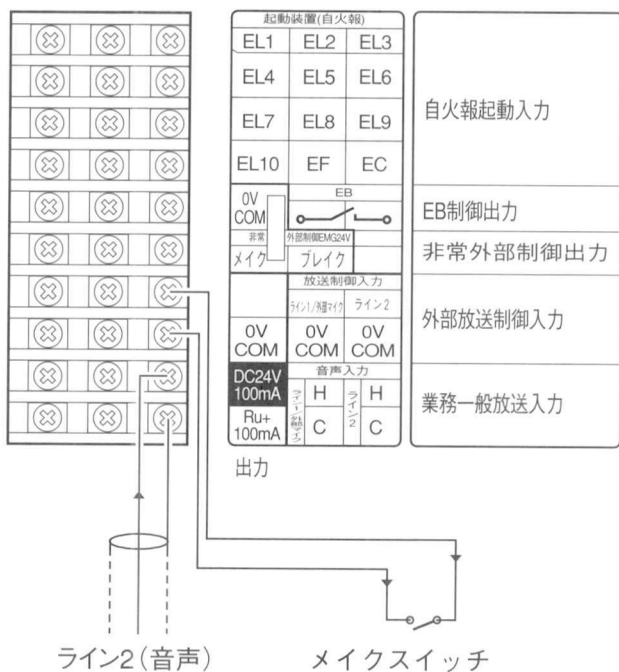
ライン1, 2, 3の仕様

ライン種別	入力レベル	入力インピーダンス
ライン1	-22dBV	10kΩ, 不平衡
ライン2	-22dBV/-12dBV	10kΩ, 不平衡
ライン3	-12dBV	10kΩ, 不平衡

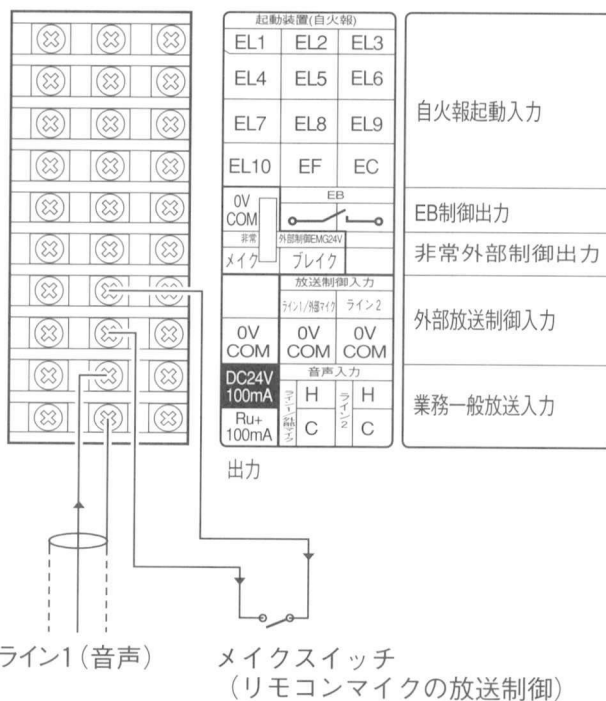
接続の前に

- ライン1の接続を行う前にジャンパーピン (JP202) の設定がライン1に設定されていることを確認してください。
- ライン2の接続を行う前にジャンパーピン (JP201) の入力レベルが-22dBV/-12dBVに設定されていることを確認してください。

ライン2



ライン1



ライン3 (前面パネル下)



DC24V(100mA) : 常時24V電圧を出力します。

Ru+(100mA) : 本機に起動入力があったときだけ24V電圧を出力します。

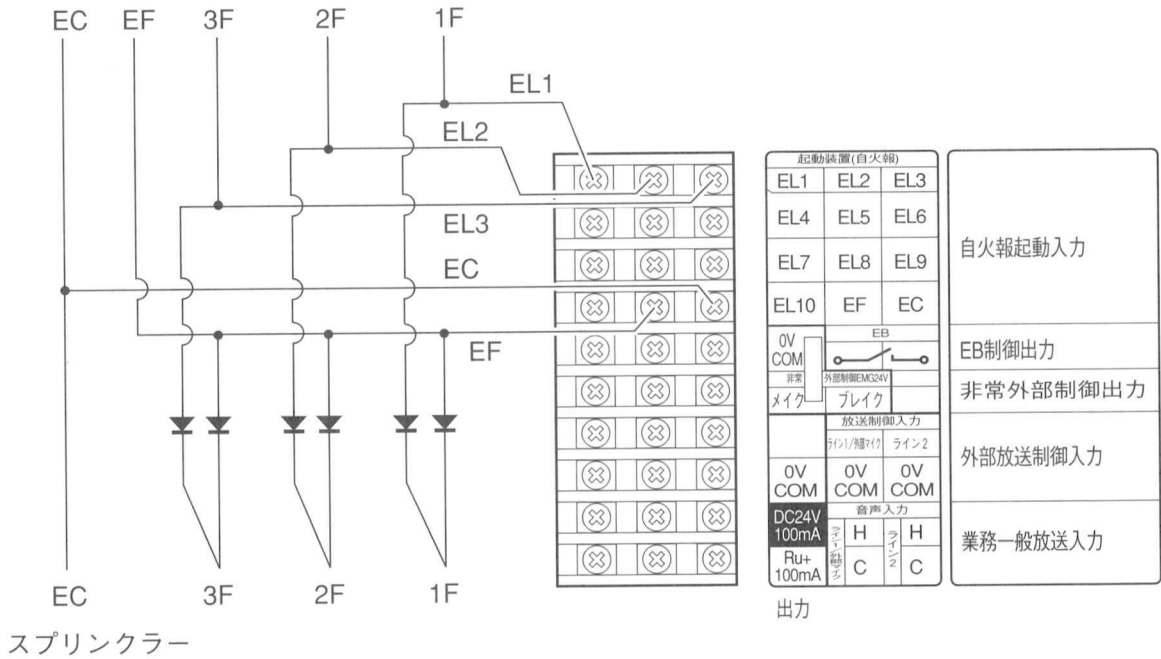
注意

外部機器への電源を接続する場合、電流値が端子台の表示値を超えないように注意してください。

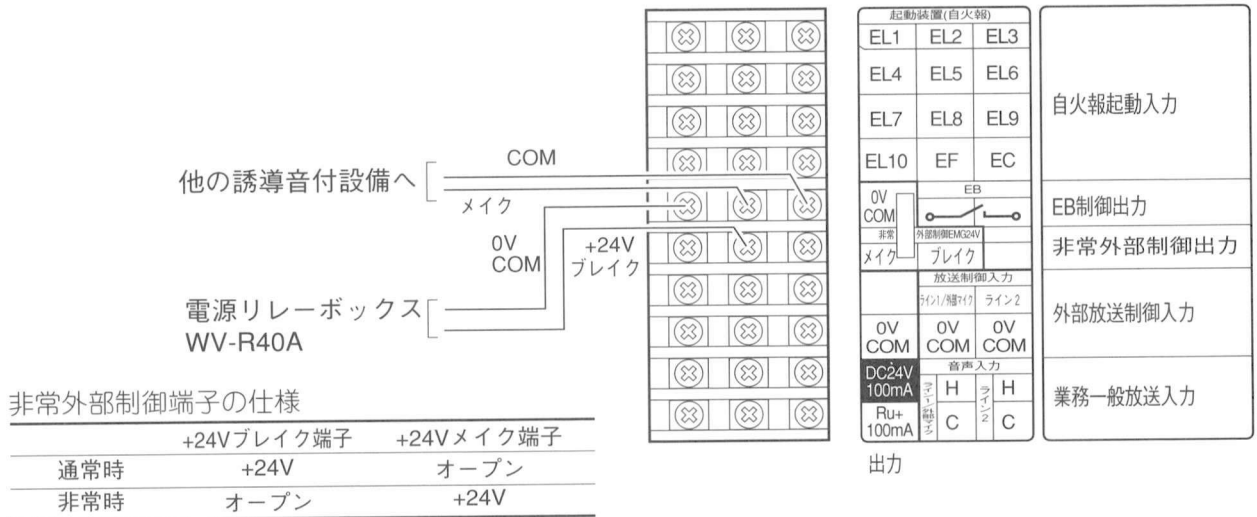
設置のしかた

●EL, EF, EBの接続

- 階別信号入力端子（スプリンクラー， 感知器（受信機））の接続



- EB制御， 非常外部制御端子の接続

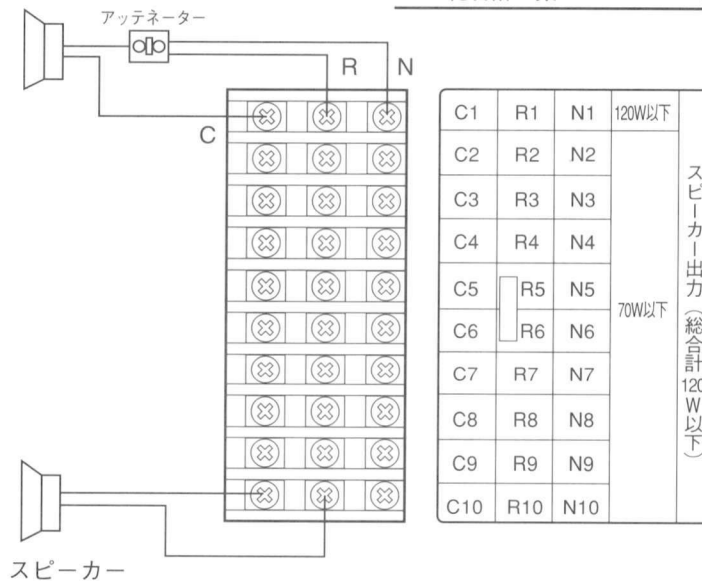


+24Vブレイク端子および+24Vメイク端子は合計で100mA以下となるように工事してください。

●スピーカーの接続

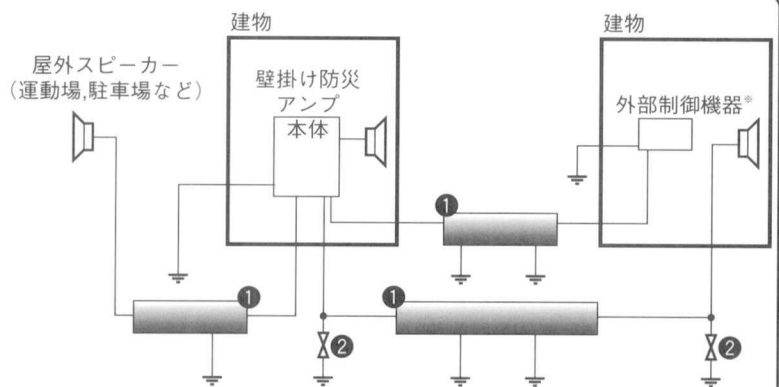
- スピーカーのW数について
スピーカーを接続するときは1回線あたりの最大W数と合計W数にご注意ください。

スピーカー回線番号	1回線あたりの最大W数
N1 (R1)	120W
N2 (R2) ~ N10 (R10)	70W
総合計W数	120W以下 (83Ω以上)



外来サージについて

特に、雷が多く発生する地域で使用する場合、屋外配線に右図のように、**①金属配管** (注1)、**②サージアブソーバー** (注2)などを施設し、外来サージ対策を行ってください。



※：業務放送用など

注1：建物間に渡る配線などで配管が露出しないように金属配管してください。

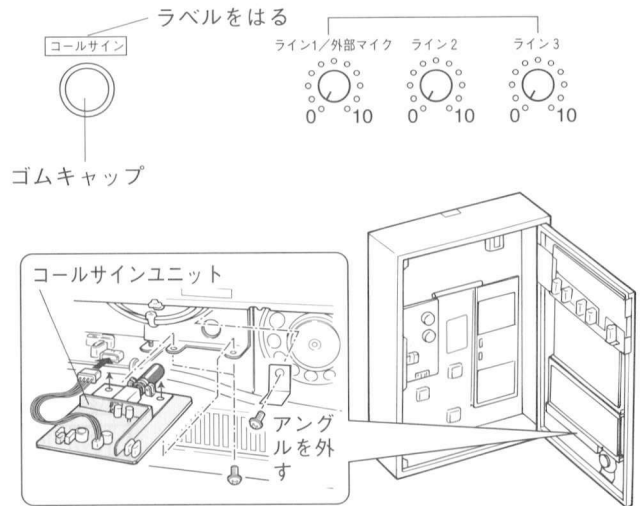
注2：本機はスピーカー線に外来サージ対策としてサージアブソーバーが既に取り付けられていますが、雷の多い地域で使用する場合、現地で金属配管を行うときに、さらにサージアブソーバーを取り付けてください。

設置のしかた

●コールサインユニットの接続

- 本機には別売り品のコールサインユニット (WU-Z05 : 別売り品) を取り付けることができます。

- ①操作パネル下部にあるゴムキャップを外す。
- ②アングルを外す (コールサインユニットを取り付けないときは、アングルは外さないでください)。
- ③操作パネル裏側下部 (右図参照) にコールサインユニットを取り付ける。
- ④コールサインユニットをバインドねじ (3×6 : コールサインユニットに付属) で下側から固定する。
- ⑤コールサインユニットのコネクターを本体端子基板に接続する。
- ⑥操作部をバインドねじ (2本) で固定する。
- ⑦コールサインユニットに付属されているラベルを正面パネルにはる。



4.電源、蓄電池の接続

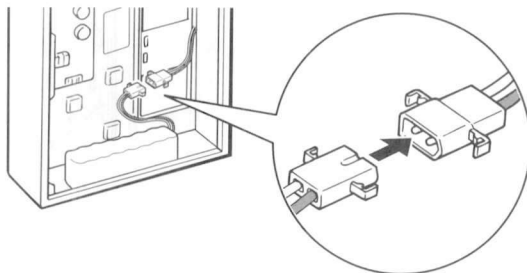
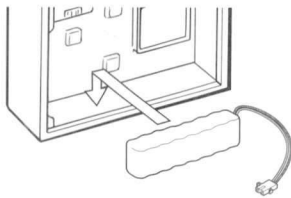
● 結線するときはO型圧着端子または同等以上の固定力のある方法で確実に固定してください。

- ① 分電盤のスイッチが「切」になっていることを確認する。
- ② 電源線を接続する。
- ③ 電源線を接続した後、分電盤のスイッチを「入」にする。
- ④ 常用電源スイッチを「入」にする。

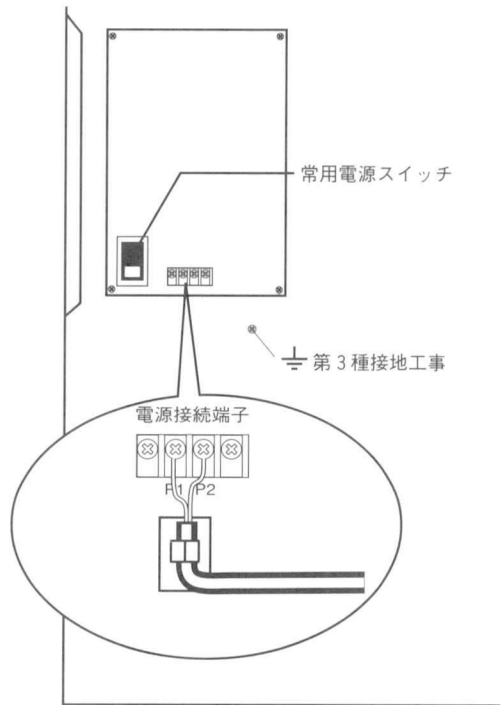
⚠ 注意

- 電源容量は10A以上確保してください。
- 他の配線とは別にし、常時ON（入）状態にしてください。

- ⑤ 蓄電池を取り付け、コネクタを接続する。



- ⑥ 本体の各スイッチが「切」の状態になっていることを確認する。その後、次のことを点検する。
 - ・ 主回路/非常電源表示灯が点灯していますか？
 - ・ 充電中の表示は点灯していますか？



重要

蓄電池を接続した後、充電状態を確認してください。なお、蓄電池の充電には24時間かかります。

- ① 蓄電池点検スイッチを押します。内部コンピュータが約10秒間蓄電池を点検します。点検結果を蓄電池正常/異常表示灯に表示します。

正常時：緑色に点灯

異常時：赤色に点灯

蓄電池の充電不足、または接続不良です。接続を確認してください。



- ② 蓄電池が十分に充電されていない場合、蓄電池故障表示灯（赤色）が点灯し、ブザー音（ピー音）が鳴ります。

なお、ブザー音はどれかスイッチを押すと止まりません（異常表示灯は点灯し続けます）。異常表示灯は設定スイッチカバー内のコンピュータ制御スイッチを「切」にしてから、再度「入」にすると消灯します。

- ③ 24時間充電しても蓄電池異常が発生するときは本機または蓄電池の異常が考えられます。販売店または保守契約店にご連絡ください。

設置のしかた

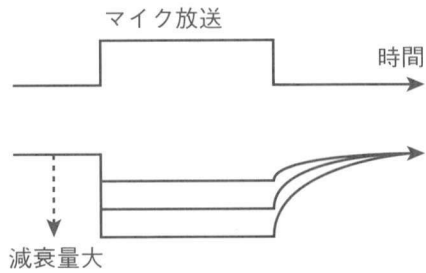
5.設定・調整

●マイク優先回路の調節

マイク1で放送中、ライン3の音量は自動的に減衰（ミュート）されます。マイク1放送時にライン3の減衰量を調節します。

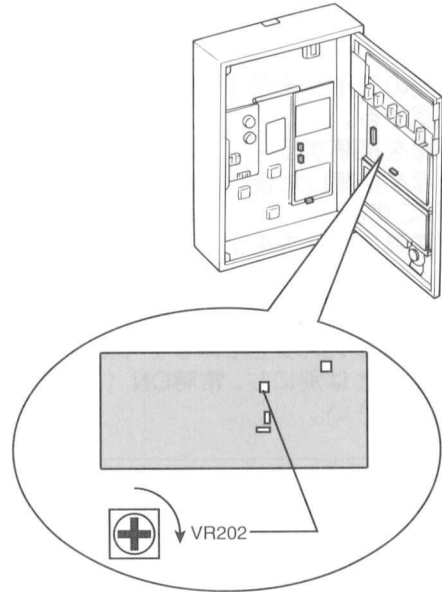
時計方向に回すと減衰量は大きくなります。

VR202：ライン1の減衰量



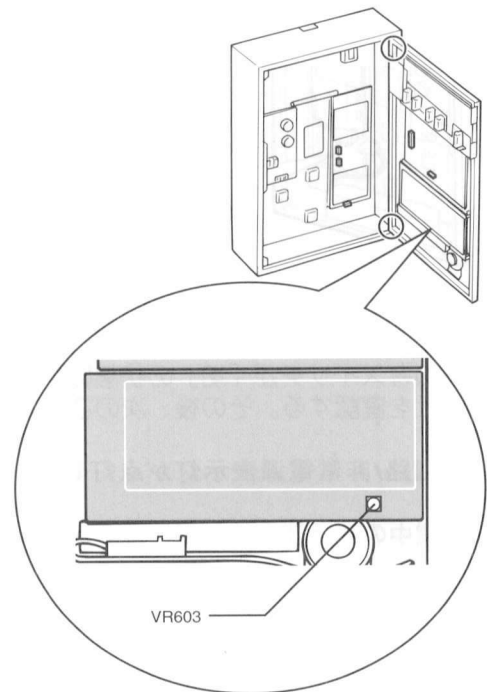
お願い

- 操作パネルは必ず電源を切ってからあけてください。



●音声合成メッセージの音量調整

音声合成メッセージの音量はVR603で調節します。



● 手動起動の設定

手動起動時、手動連動または個別起動で起動するかをディップスイッチS501で設定します。

- 手動連動（出荷時）
 - ・ 非常起動スイッチを押した後、放送階選択スイッチを押すと、押したスイッチが連動階書き込みされていればその階全てと直上階を含む連動階の作動表示灯が点灯し、点灯したスピーカー回線が放送可能状態となります。
 - ・ 押したスイッチが連動階書き込みされていなければ押した階の作動表示灯のみ点灯し、点灯したスピーカー回線が放送可能状態となります。
 - ・ 手動連動時の放送復旧後や階別信号入力後は個別（階別）手動となります。（放送復旧には個別スイッチ復旧も含まれます）

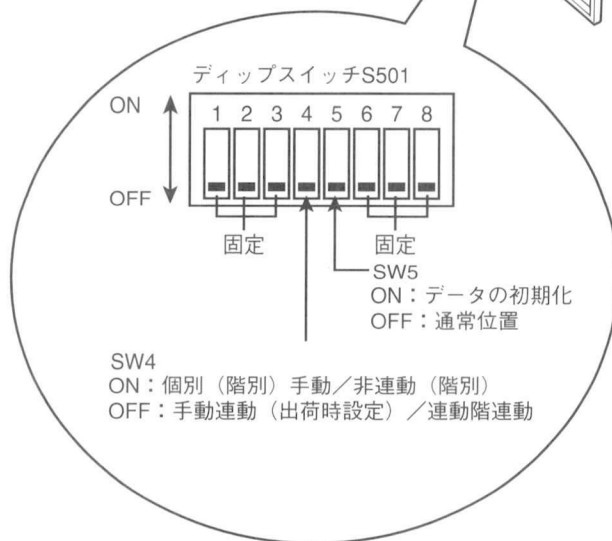
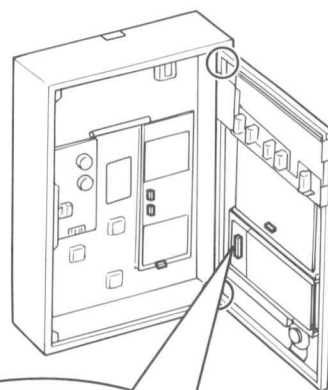
- 個別手動（階別）

非常起動スイッチを押した後、放送階選択スイッチを押すと、押した階の作動表示灯のみ点灯し、点灯したスピーカー回線が放送可能状態となります。この設定で使用するときにはSW4をONにします。

S-501-SW4の設定

- ON : 非連動
- OFF : 連動階連動（放送復旧時は階別となります。）

注：S501以外のスイッチは操作しないでください。なお、出荷時ディップスイッチは、すべてOFFに設定されています。



● データの初期化（書き込み内容の初期化）

注：書き込み内容を出荷時の状態に戻したいときにだけ行ってください。データ初期化後、以下の操作を行ってください。

- データの初期化のしかた
 1. 常用電源（AC電源）スイッチを「切」にする。
 2. ディップスイッチS501のSW5をONする。
 3. 電源を入れ直す。
“ハードチェックの結果異常ありませんでした” というメッセージがアナウンスされたら初期化完了です。初期化後、次の操作を行ってください。
 4. SW5をOFFに戻す。
 5. 設定スイッチカバー内のコンピュータ制御スイッチを「切」にしてから、「入」に戻す。

(このページは白紙です。)

書き込み説明

書き込みについて

- 本機には、建物の規模や放送の目的などによって、放送する場所や、機能を指定できる書き込み機能が内蔵されています。
- 書き込み機能は5項目あります。設定スイッチカバー内のスイッチを使って書き込みます。
- 書き込みは右の手順で行ってください。

1.出火階、連動階の指定→62ページ

- 1つの階に2つ以上のスピーカー回線がある場合に、出火階と、それに連動して放送される階（連動階など）を指定することができます。
- 1つの放送階選択スイッチと1つの階が対応している場合は、書き込みを行わなくても、連動階、出火階に放送できます。

2.階情報指定→64ページ

階情報（感知器からの階別信号をどの放送階選択スイッチに割り付けるか）、および警報放送に日本語、英語指定をします。（日本語のみ、日本語と英語（第2、第3外国語）の指定ができます。）

3.一斉/緊急指定→67ページ

一斉放送のとき、アッテネーターが「OFF」になっていても放送できるようにするか（緊急放送）、「OFF」のときは放送できないようにするか（通常一斉）の選択をします。

4.タイマー設定（1）～（3）→68ページ

- 発報火災から火災放送へ移行するまでの時間：第1タイマー
- 火災放送から一斉火災放送へ移行するまでの時間：第2タイマー
- 発報放送の繰り返し回数と繰り返し間隔時間を設定します。

5.外部放送制御ブロック指定→74ページ

- 放送制御入力端子により、BGMやマイク放送時にブロック指定することができます（各種放送制御入力ごとに放送する回線を割り当てます）。出荷時は一斉（全回線に放送する）に設定されています。

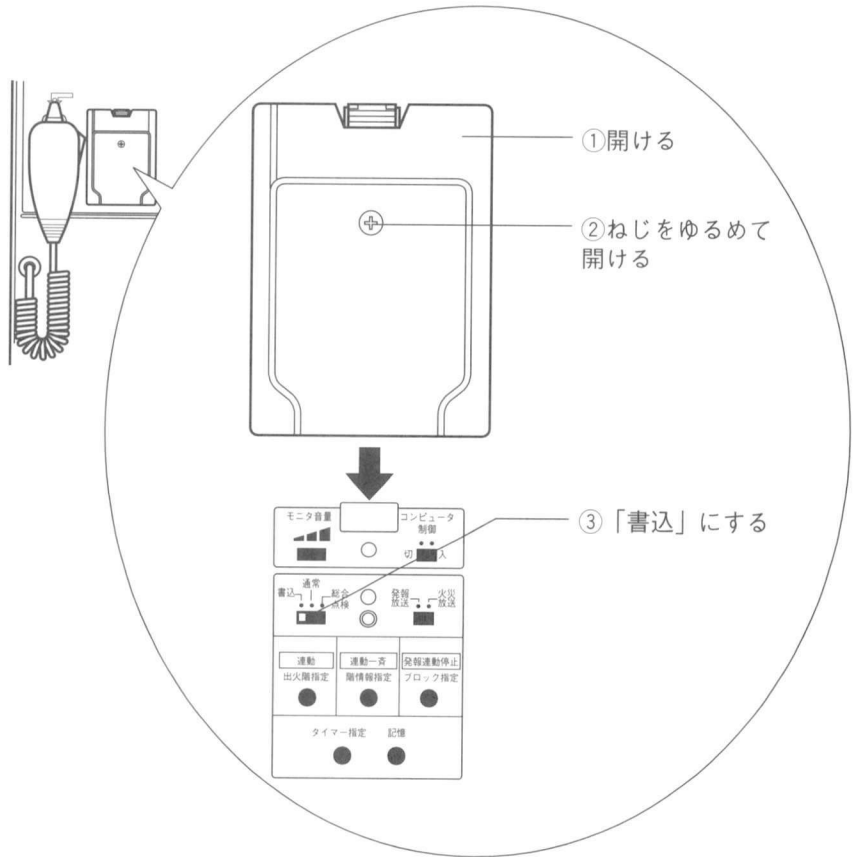
書き込み時の注意

- 記憶スイッチを押したときに表示している設定が、システムに書き込まれます（記憶されます）。複数の設定をまとめて書き込みすることはできません。
- 書き込んだ内容を出荷時に戻す（初期化する）場合、57ページの「データの初期化」をお読みください。

■書き込みについて

設定スイッチカバー内の書込/通常/総合点検切換スイッチを「書込」にして行います。

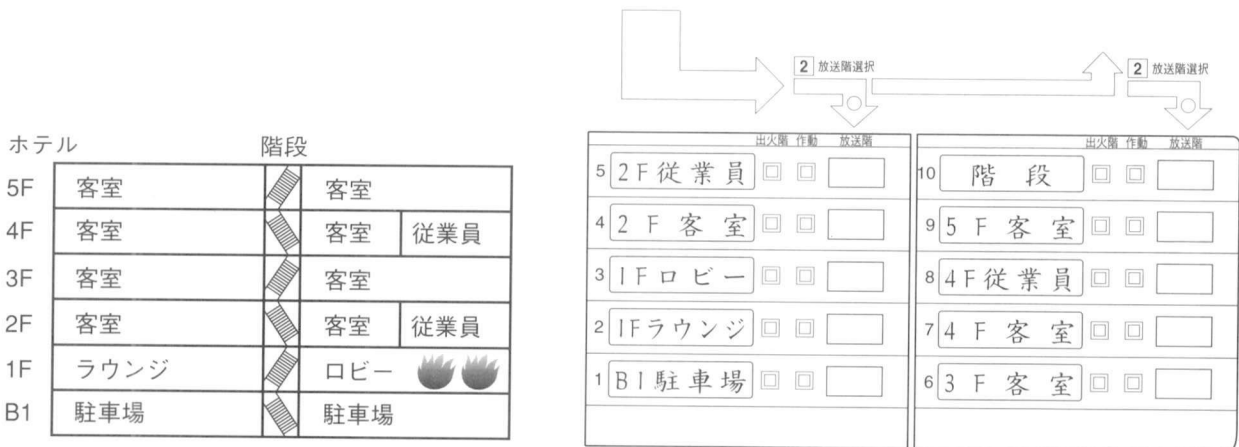
- ①設定スイッチカバー1を外します。
- ②ねじを緩め右図の手順で設定スイッチカバーを外します。
- ③書込/通常/総合点検切換スイッチを「書込」にします。



注：書き込み作業を行うと、非常用放送の動作遷移が変更されることがありますのでご注意願います。

書き込みが完了したら、書込/通常/総合点検切換スイッチを必ず「通常」に戻し、設定スイッチカバーをねじで閉じてください。なお書込/通常/総合点検切換スイッチを書き込みにしたままにすると「ピー」音が鳴り続けます。(どれかスイッチを押すと止まります。)

次ページから書き込みのしかたと書き込み例を説明しています。書き込み例は、5F建てホテルの1Fロビーで出火した場合を例に説明しています。ホテルの概略を下図に示します。



書き込み説明

●書き込み例について

次に示す記号を用いて説明しています。

- : 該当個所の表示灯が点灯していることを意味しています。
- : スイッチの操作を意味しています。

書き込み手順

1. 出火階、連動階の指定

非常放送設備が各階別信号（自火報）によって起動されたとき、出火したことをパネルに指示する階と、その階に連動して放送する階を指定します。

初めに

- 「書込/通常/総合点検切換」スイッチを「通常」から「書込」側にします。
- 設定スイッチカバー内の「連動/出火階指定」スイッチを押します。(ピッ)

出火階の指定

- 「放送階選択」スイッチで設定を変更したい階別信号（自火報受信端子台（EL1～EL10））の番号を放送階選択スイッチで選択します。選択した「作動装示灯」が点灯（緑色）します。
- 「非常起動」スイッチを押します。(ピッ)
現在の設定内容が表示されます。

設定内容	「出火階表示灯」(赤)	「作動階表示灯」(緑)
出火階	点灯	点灯
連動階	消灯	点灯
設定なし	消灯	消灯

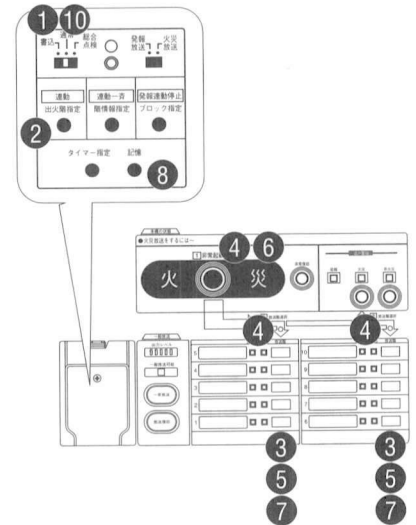
- 「放送階選択」スイッチで出火階の選択/解除を行います。出火階を変更しない場合はそのまま⑥へすすんでください。(該当するスイッチをすべてを押します。) 設定内容が表示に反映されます。上の表を参照してください。

連動階の指定

- 「非常起動」スイッチを押します。(ピッ)
- 「放送階選択」スイッチで出火階に連動して放送される連動階を選択/解除します。(一般に、直上階と階段、エレベーターを連動階に指定します。)
設定内容が表示に反映されます。(④の表を参照してください。)
- 「記憶」スイッチを押します。(ピー)
以上の設定が記憶され、設定に該当する階情報放送内容の火災放送がモニタに1回出力されます。
- ②～⑧をくり返して他の階別信号（自火報）を設定してください。

終わりに

- 「書込/通常/総合点検切換」スイッチを「書込」から「通常」側にします。



設定内容を確認するときは

- 上記手順①～④、⑧、⑩の順序で操作してください。確認のときに他のスイッチを押すと、設定内容が変更されますので注意してください。

1. 出火階、連動階の指定例（1Fロビー）

感知器（階別信号）の入力	端子台EL2
1Fロビーの出火階	1Fロビー, 1Fラウンジ
1Fロビーの連動階	2F客室, B1駐車場, 階段, 従業員室（2F）

1. 「書込」にする。



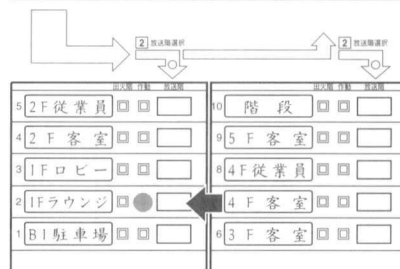
設定スイッチカバー内

2. 「出火階指定」スイッチを押す。



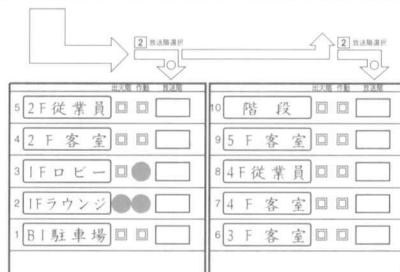
設定スイッチカバー内

3. 感知器からの階別情報を受信する端子台を放送階選択スイッチで指定する。



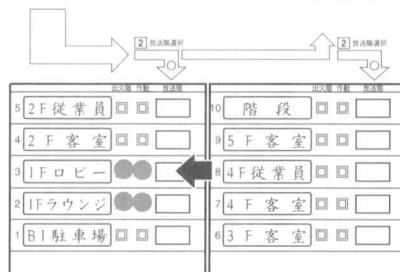
放送階選択スイッチを押す。

4. 「非常起動」スイッチを押す。



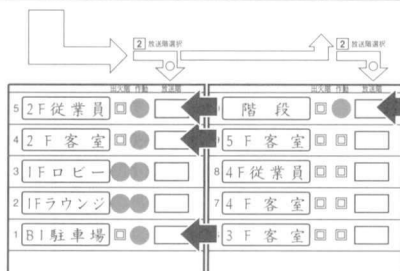
現在の設定が表示される。

5. “1Fロビー”の放送階選択スイッチを押す。



放送階選択スイッチを押すと押した階が追加される。

6. 非常起動スイッチを押してから、放送階選択スイッチで連動階を指定する。



B1駐車場, 2F従業員室, 2F客室, 階段の放送階選択スイッチを押す。

7. 記憶スイッチを押す。



設定スイッチカバー内

8. 「通常」に戻す。



設定スイッチカバー内

書き込み手順

2.階情報の指定

非常放送設備が、各階別信号（自火報）によって起動されたとき、使用言語の選択をし、自動放送される情報をそれぞれ指定します。

注：使用言語を各階別信号（自火報）ごとに設定することはできません。使用言語の選択は全階共通になされます。

初めに

- 「書込/通常/総合点検切換」スイッチを「通常」から「書込」側にします。
- 設定スイッチカバー内の「連動一斉/階情報指定」スイッチを押します。(ピッ)
現在の言語の設定が表示されます。

表示	日本語	日本語+英語	日本語+第2外国語	日本語+第3外国語
放送階選択指示灯	消灯	点灯	消灯	点灯
マイク指示灯	消灯	消灯	点灯	点灯

言語の選択

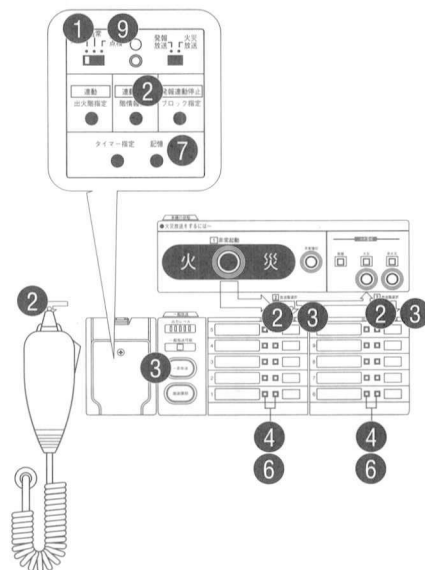
- 使用言語情報の設定を変更したい場合は「一斉放送」スイッチを押します。(ピー)
言語の設定が②の表の（日本語）、（日本語+英語）、（日本語+第2外国語）、（日本語+第3外国語）の順に切り替わり、表示されます。

- 「放送階選択」スイッチで設定を変更したい階別信号（自火報）の番号を選択します。
選択した「放送階選択」スイッチの「出火階表示灯」が点灯（赤色）します。
- 「非常起動」スイッチを押します。
現在の設定内容（階情報番号）が表示されます。
- 階情報には00～99の100通りの設定があります。
00～28には標準メッセージがすでに組み込まれています（下表参照）。
増設用音声ROM（別売）を使用するときは50～99を使用してください。

階情報の指定

階情報番号	階情報（メッセージ）	「出火階表示灯」（赤）	「作動表示灯」（緑）
00	情報なし	0（全て消灯）	0（全て消灯）
01	“1階”	0（全て消灯）	1（1点灯）
02	“2階”	0（全て消灯）	2（1,2点灯）
⋮	⋮	⋮	⋮
20	“20階”	2（1,2点灯）	0（全て消灯）
21	“地下1階”	2（1,2点灯）	1（1点灯）
22	“地下2階”	2（1,2点灯）	2（1,2点灯）
23	“地下3階”	2（1,2点灯）	3（1~3点灯）
24	“階段”	2（1,2点灯）	4（1~4点灯）
25	“エレベーター”	2（1,2点灯）	5（1~5点灯）
26	“屋上”	2（1,2点灯）	6（1~6点灯）
27	“体育館”	2（1,2点灯）	7（1~7点灯）
28	“講堂”	2（1,2点灯）	8（1~8点灯）

- 「放送階選択」スイッチで、階情報番号（2けた）を入力する。
設定内容（階情報番号）が表示されます。（表示に関しては⑥を参照してください。）



階情報番号の入力

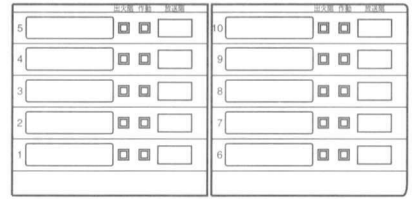
階情報は左図に示すように放送階スイッチで入力します。ただし、入力は00～99までで、それ以外は反応しません。

- ⑧階情報番号の「10の位」の数字に対応する「放送階選択」スイッチを押します。次に、階情報番号の「1の位」の数字に対応する「放送階選択」スイッチを押します。
- 注：ただし、「10の位」または「1の位」が「0」の場合は「放送階選択」スイッチの「10 (0)」を必ず押してください。
- ⑨「記憶」スイッチを押します。(ピー)
- 以上の設定が記憶され、設定した階情報放送内容が1回モニタに出力されます。
- ⑩他の階別信号（自火報）番号で設定をつづけたい場合は、②へもどり②、④～⑨をくり返してください。

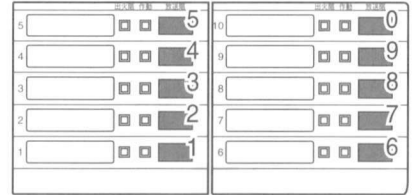
例

入力したい階	押す手順	表示
2階	0を押して2を押す	2階までの作動表示灯が緑色に点灯
10階	1を押して0を押す	1階の出火階が赤色に点灯
15階	1を押して5を押す	1階の出火階が赤色+5階までの作動表示灯が緑色
階情報なし	0を2回押す	出火階、作動表示灯は消灯

通常時



情報入力時



階情報入力時、放送階選択スイッチ「10」は「0」を入力するときに使用します。

終わりに

- ⑪「書込/通常/総合点検切換」スイッチを「書込」から「通常」側にします。

設定内容を確認するときは

- 上記手順①、②、④、⑤、⑨、⑪の順序で操作してください。確認のときに他のスイッチを押すと、設定内容が変更されますので注意してください。

書き込み例

2.階情報の指定例

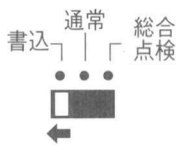
(日本語+英語/1F)

63ページで設定したEL2の放送内容を設定します。

放送内容	「1Fで火災が発生しました。」に設定する
言語設定	日本語+英語放送

1. 「書込」にする。

2. 階情報指定スイッチを押す。

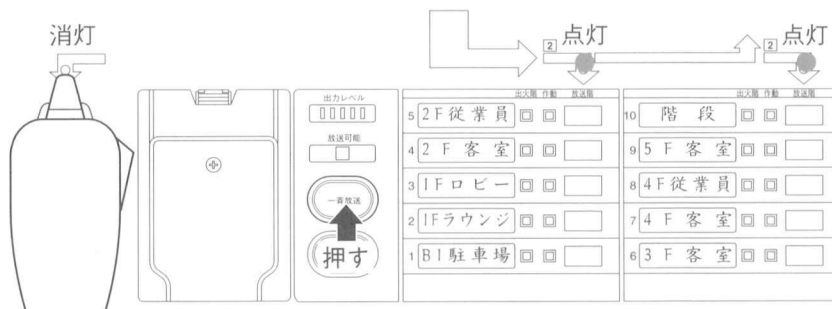


設定スイッチカバー内

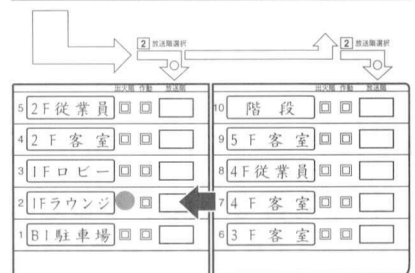


設定スイッチカバー内

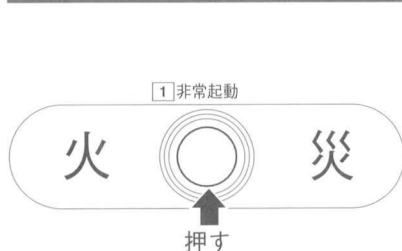
3. 一斉放送スイッチを1回押し、言語（日本語+英語）を設定する。



4. 放送階選択スイッチ2を押し、端子台EL2の階別信号の設定であることを指定する。

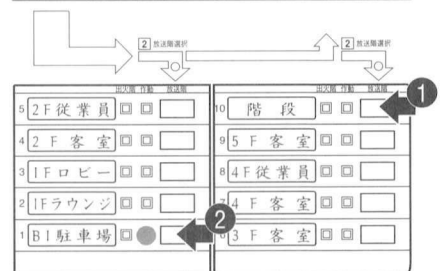
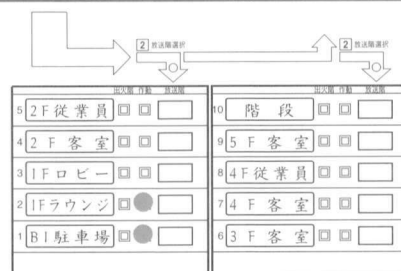


5. 非常起動スイッチを押す。



出荷時、EL2には「2F」が設定されている。

6. 放送階選択スイッチで階情報を指定する。



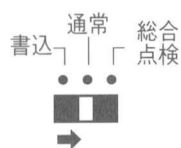
1Fに設定するには「10 (0)」、「1」の順に放送階選択スイッチを押す。その他の階については64ページをご覧ください。

7. 記憶スイッチを押す。

8. 「通常」に戻す。



設定スイッチカバー内



設定スイッチカバー内

書き込み手順

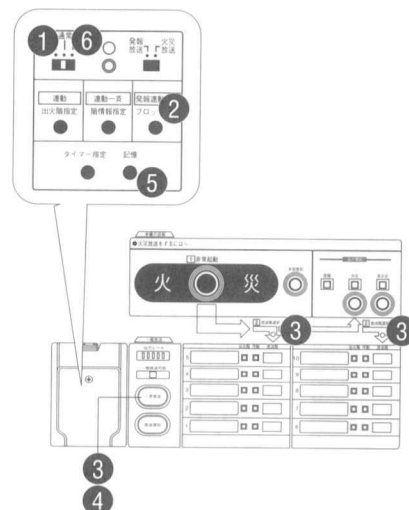
3.一斉／緊急指定

一斉放送のとき、「緊急放送」にするか、「通常一斉放送」にするかを選択します。
 “緊急放送”にするとアッテネーターが「OFF」でも放送できますが、“通常一斉放送”にするとアッテネーターが「OFF」のとき放送できません。出荷時は“緊急放送”に設定されています。

初めに

- ①「書込/通常/総合点検切換」スイッチを「通常」から「書込」側にします。
- ②設定スイッチカバー内の「発報連動停止/ブロック指定」スイッチを押します。(ピッ)
- ③「一斉放送」スイッチを押します。(ピッ)
 作動表示灯が全部点灯し、「放送階選択指示灯」に現在の設定内容が表示されます。

設定内容	放送階選択指示灯
緊急放送	点灯
通常一斉放送	消灯



一斉／緊急指定

- ④「一斉放送」スイッチを押します。
 押すたびに、通常一斉放送／緊急放送が切り換わられます。
 (③の表を参照してください。)
- ⑤「記憶」スイッチを押します。
 以上の設定を記憶します。

終わりに

- ⑥「書込/通常/総合点検切換」スイッチを「書込」から「通常」側にします。

設定内容を確認するときは

- 上記手順①～③、⑤～⑥の順序で操作してください。確認のときに他のスイッチを押すと、設定内容が変更されますので注意してください。

書き込み手順

4. タイマーの設定 (1)

第1タイマー (火災放送移行タイマー) の設定

起動信号が入力されてから「火災放送」が放送されるまでのまでの時間 (第1タイマー (2~15分:0.5分単位)) を設定します。

初めに

- ① 「書込/通常/総合点検切換」スイッチを「通常」から「書込」側にします。

第1タイマー設定

- ② 設定スイッチカバー内の「タイマー指定」スイッチを押します。(ピッ)
現在の設定内容が表示されます。(出荷時は5分)
- ③ 階情報の指定と同様に「放送階選択」スイッチで、時間を入力します。
設定内容が表示に反映されます。(表示に関しては、下表を参照してください)
タイマー時間の「10の位」の数字に対応する「放送階選択」スイッチを押します。次に、タイマー時間の「1の位」の数字に対応する「放送階選択」スイッチを押します。30秒単位の設定をする場合は、続けて「一斉放送」スイッチを押します。

注：ただし、「10の位」または「1の位」が「0」の場合は「10」の「放送階選択」スイッチを必ず押してください。

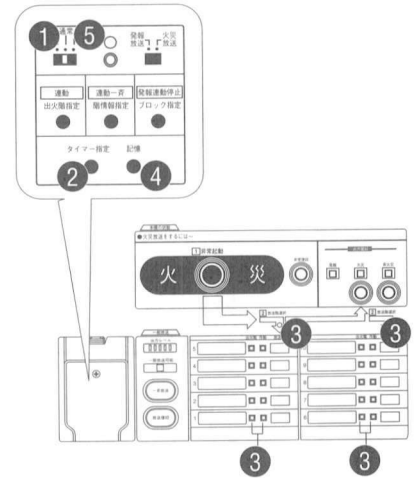
例

入力したい分	押す手順	表示
2分	0を押して2を押す	2階までの作動表示灯が緑色に点灯
10分	1を押して0を押す	1階の出火階が赤色に点灯
15分	1を押して5を押す	1階の出火階が赤色+5階までの作動表示灯が緑色

- ④ 「記憶」スイッチを押します。
以上の設定を記憶します。

終わりに

- ⑤ 「書込/通常/総合点検切換」スイッチを「書込」から「通常」側にします。



情報入力時

放送階	10の位	1の位	放送階	10の位	1の位
5	5	0	9	9	0
4	4	9	8	8	9
3	3	8	7	7	8
2	2	7	6	6	7
1	1	6	5	5	6

タイマー設定入力時、放送階選択スイッチ「10」は「0」を入力するときに使用します。

設定内容を確認するときは

- ①, ②, ④, ⑤の順序で操作してください。確認のときに他のスイッチを押すと、設定内容が変更されますので注意してください。

タイマー設定時間 (単位:分)	「出火階表示灯」(赤) (10の位)	「作動表示灯」(緑) (1の位)	「放送階選択指示灯」 (小数点台位)
02.0	0 (全て消灯)	2 (1、2点灯)	0 (消灯)
02.5	0 (全て消灯)	2 (1、2点灯)	5 (点灯)
03.0	0 (全て消灯)	3 (1~3点灯)	0 (消灯)
03.5	0 (全て消灯)	3 (1~3のみ点灯)	5 (点灯)
・	・	・	・
5.0 (工場出荷値)	0 (全て消灯)	5 (1~5点灯)	0 (消灯)
・	・	・	・
10.0	1 (1のみ点灯)	0 (全て消灯)	0 (消灯)
10.5	1 (1のみ点灯)	0 (全て消灯)	5 (点灯)
・	・	・	・
・	・	・	・
15.0	1 (1のみ点灯)	5 (1~5点灯)	0 (消灯)

4. タイマーの設定例 (1)

第1タイマー

第1タイマー 2分 30秒

1. 「書込」にする。



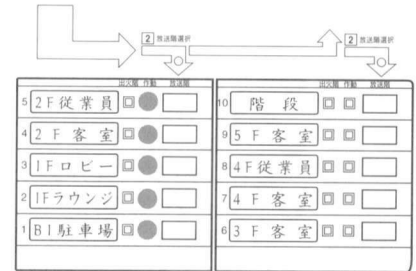
設定スイッチカバー内

2. タイマー指定スイッチを押す。

タイマー指定

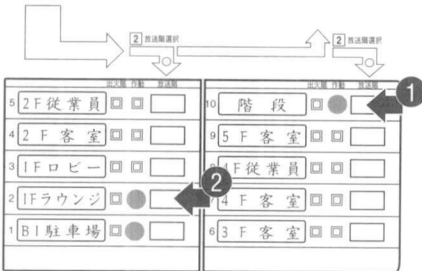


設定スイッチカバー内



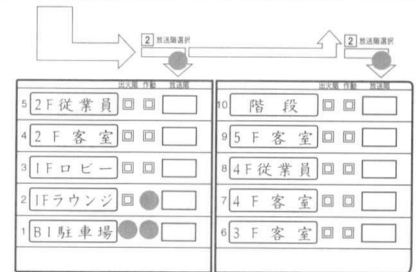
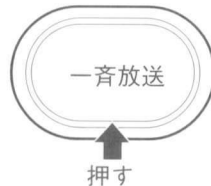
現在の設定が表示される

3. 放送階選択スイッチで分を設定する (2分)。



“10”、“2”の順に押す。

4. 一斉放送スイッチを押して、秒 (30秒) を設定する。



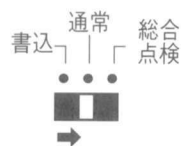
5. 記憶スイッチを押す。

記憶



設定スイッチカバー内

6. 「通常」に戻す。



設定スイッチカバー内

書き込み手順

4. タイマーの設定 (2) 第2タイマー (一斉火災放送移行タイマー) の設定

「火災放送」(出火エリア+連動エリア)のスタートから一斉放送に移行するまでのタイマー(0分、2~5分)です。タイマーをOFFにする設定もできます。

初めに

- 「書込/通常/総合点検切換」スイッチを「通常」から「書込」側にします。

第2タイマー設定

- 設定スイッチカバー内の「タイマー指定」スイッチを押します。(ピッ)
- 「火災放送」スイッチを押します。
現在の設定内容が表示されます。(出荷時は5分)
- 「タイマーの設定(1)」と同様に「放送階選択」スイッチで、時間を入力します。

注: 「10の位」または「1の位」が「0」の場合は「10」の「放送階選択」スイッチを必ず押してください。

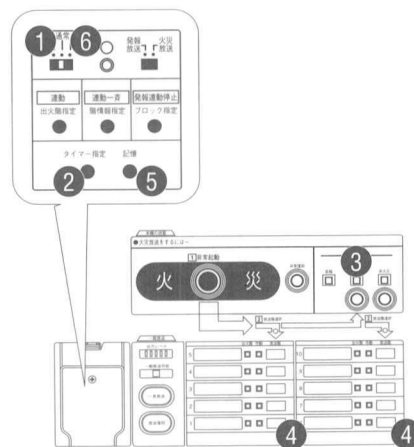
例

入力したい分	押す手順	表示
0分	0を2回押す	出火階、作動表示灯は消灯
2分	0を押して2を押す	2階までの作動表示灯が緑色に点灯
10分	1を押して0を押す	1階の出火階が赤色に点灯
15分	1を押して5を押す	1階の出火階が赤色+5階までの作動表示灯が緑色
タイマーOFF	放送復旧スイッチを押す	1~10階の出火階が点滅

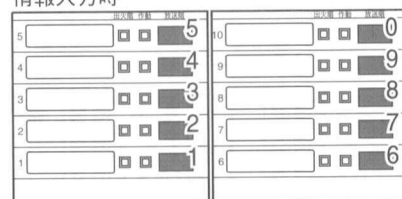
- 「記憶」スイッチを押します。
以上の設定を記憶します。

終わりに

- 「書込/通常/総合点検切換」スイッチを「書込」から「通常」側にします。



情報入力時



設定内容を確認するときは—

①~③、⑤、⑥の順序で操作してください。確認のときに他のスイッチを押すと、設定内容が変更されますので注意してください。

タイマー設定時間 (単位:分)	「出火階表示灯」(赤) (10の位)	「作動表示灯」(緑) (1の位)	「放送階選択指示灯」 (小数点台位)
00.0	0 (全て消灯)	0 (全て消灯)	0 (消灯)
02.0	0 (全て消灯)	2 (1、2点灯)	0 (消灯)
02.5	0 (全て消灯)	2 (1、2点灯)	5 (点灯)
03.0	0 (全て消灯)	3 (1~3点灯)	0 (消灯)
03.5	0 (全て消灯)	3 (1~3点灯)	5 (点灯)
・	・	・	・
5.0 (工場出荷値)	0 (全て消灯)	5 (1~5点灯)	0 (消灯)
・	・	・	・
10.0	1 (1のみ点灯)	0 (全て消灯)	0 (消灯)
10.5	1 (1のみ点灯)	0 (全て消灯)	5 (点灯)
・	・	・	・
・	・	・	・
15.0	1 (1のみ点灯)	5 (1~5点灯)	0 (消灯)
タイマーOFF	1~10点滅	0 (全て消灯)	0 (消灯)

4. タイマーの設定例 (2)

第2タイマー

第2タイマー

13分

1. 「書込」にする。



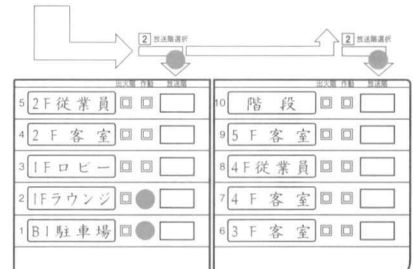
設定スイッチカバー内

2. タイマー指定スイッチを押す。

タイマー指定

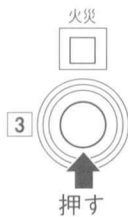


設定スイッチカバー内

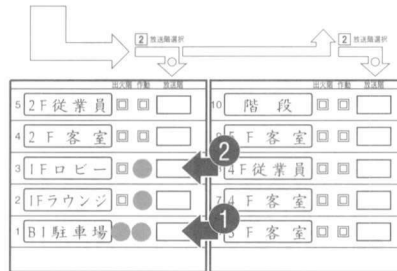


第1タイマーの設定値が表示される。

3. 火災放送スイッチを押す。



3. 放送階選択スイッチで分を設定する (13分)。



“1”、“3”の順に押す。

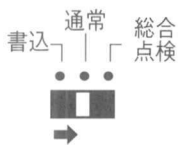
5. 記憶スイッチを押す。

記憶



設定スイッチカバー内

6. 「通常」に戻す。



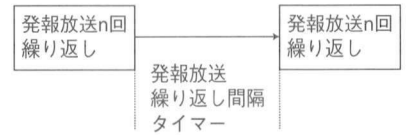
設定スイッチカバー内

書き込み手順

4. タイマーの設定 (3)

発報放送の繰り返し回数の設定

感知器起動したときの「発報放送」の繰り返し回数と、繰り返し放送後、次回放送までの間隔を指定します。(感知器起動以外の発報放送繰り返し回数は2回固定です。)



n: 発報放送繰り返し回数

初めに

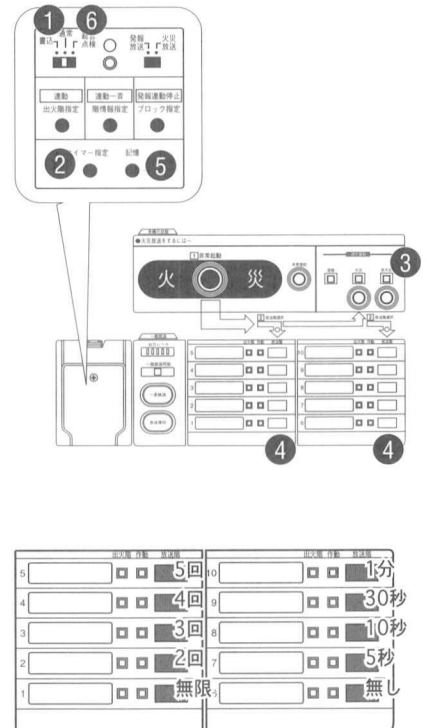
- 「書込/通常/総合点検切換」スイッチを「通常」から「書込」側にします。

繰り返し回数の設定

- 設定スイッチカバー内の「タイマー指定」スイッチを押します。(ピッ)
- 「非火災放送」スイッチを押します。(ピッ)
現在の設定内容が表示されます。

発報放送繰り返し回数設定		発報放送繰り返し間隔タイマー設定	
作動表示灯点灯	発報放送繰り返し回数設定値	作動表示灯点灯	発報放送間隔タイマー設定値
5	5回	10	1分間隔
4	4回	9	30秒間隔
3	3回	8	10秒間隔
2	2回 (出荷時)	7	5秒間隔
1	無限回繰り返し	6	繰り返し無し (出荷時)

- 「放送階選択」スイッチで、発報放送繰り返し回数とそれが繰り返される間隔タイマーを指定します。
設定内容が表示されます。(3)の表を参照してください。)
- 「記憶」スイッチを押します。
以上の設定を記憶します。



終わりに

- 「書込/通常/総合点検切換」スイッチを「書込」から「通常」側にします。

設定内容を確認するときは

- 上記手順①～③、⑤～⑥の順序で操作してください。確認のときに他のスイッチを押すと、設定内容が変更されますので注意してください。

4. タイマーの設定例 (3)

発報放送繰り返し回数の指定例

発報放送繰り返し回数	3回
発報放送繰り返し間隔	5秒間隔

1. 「書込」にする。



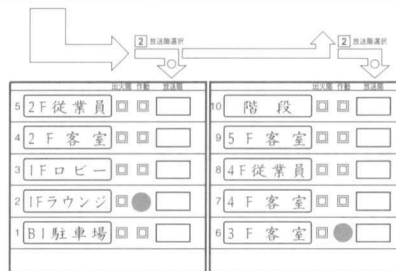
設定スイッチカバー内

2. タイマー指定スイッチを押す。

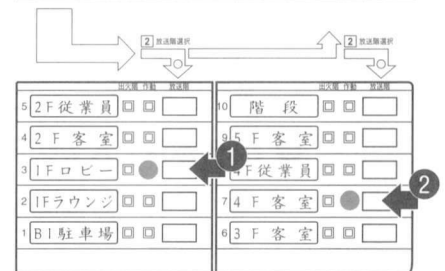


設定スイッチカバー内

3. 非火災放送スイッチを押す。



4. 放送階選択スイッチで繰り返し回数、間隔を設定する。



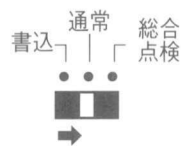
3回繰り返し (3)、5秒間隔 (7) の順に押す。

5. 記憶スイッチを押す。



設定スイッチカバー内

6. 「通常」に戻す。



設定スイッチカバー内

書き込み手順

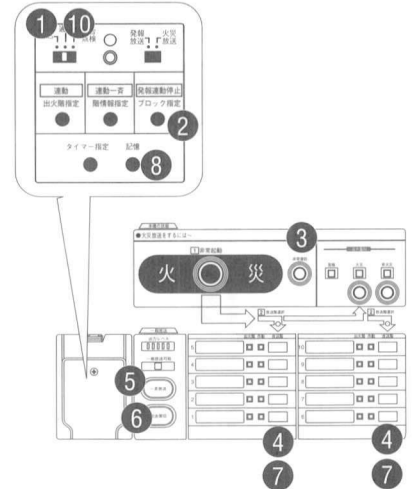
5.外部放送制御ブロック指定 (1)

手入力

端子台の放送制御入力1, 2で放送するとき、その放送階をブロック設定することができます。

初めに

- 「書込/通常/総合点検切換」スイッチを「通常」から「書込」側にします。



- 「発報連動停止/ブロック指定」スイッチを押します。(ピッ)
- 「非常復旧」スイッチを押します。(ピッ)
- 「放送階選択」スイッチ1, 2で外部放送放送制御1, 2を選択します。同じ内容を設定するときは両方押します。選択した放送制御入力が出火階表示(赤)されます。放送制御入力により放送するブロック指定の設定内容が作動表示(緑)で点灯します。(出荷時の設定は一斉、全灯です)

放送制御入力	「出火階表示灯」(赤)
1	1が点灯
2	2が点灯

放送の有無	「作動表示灯」(緑)
放送する	点灯
放送しない	消灯

- 「一斉放送」スイッチで緊急/一斉の選択をします。

緊急/一斉	放送階選択指示灯
緊急放送	点灯
通常一斉放送	消灯

注：“緊急放送”では、アッテネーターが「OFF」でも放送できますが、“通常一斉”では、アッテネーターが「OFF」では放送できません。

- 「非常復旧」スイッチを押します。(ピッ)
- 「放送階選択」スイッチON/OFFでブロック放送される放送階を選択します。設定内容が作動表示灯に表示されています。(ONが緑)
- 「記憶」スイッチを押します。(ピー)
- 設定内容が記憶されました。
- さらに他の放送制御の設定をつづけたい場合は、②へもどり②～⑧をくり返してください。

ブロック指定

終わりに

- 「書込/通常/総合点検切換」スイッチを「書込」から「通常」側にします。

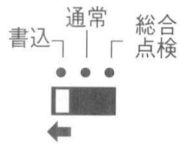
設定内容を確認するときは

- 上記手順①～④,⑧,⑩の順序で操作してください。確認のときに他のスイッチを押すと、設定内容が変更されますので注意してください。

5. 外部放送制御のブロック指定

放送制御 入力1	従業員室のみ (緊急)
----------	-------------

1. 「書込」にする。



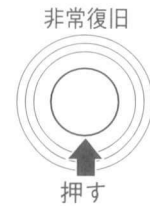
設定スイッチカバー内

2. 発報放送停止／ブロック指定スイッチを押す。

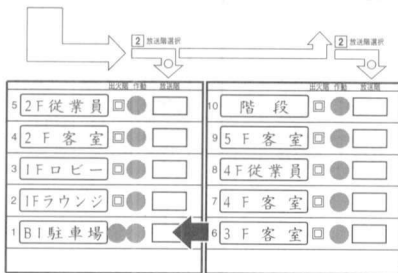


設定スイッチカバー内

3. 非常復旧スイッチを押す。

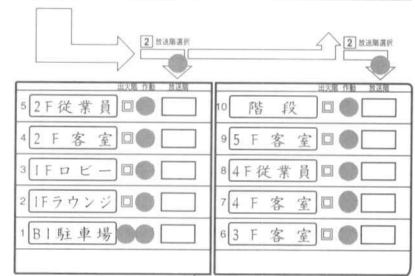
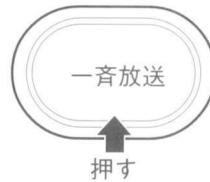


4. 放送階選択スイッチ1を押し、放送制御入力1を指定する。

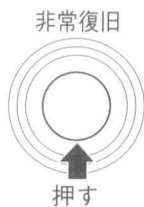


現在の設定が表示される。

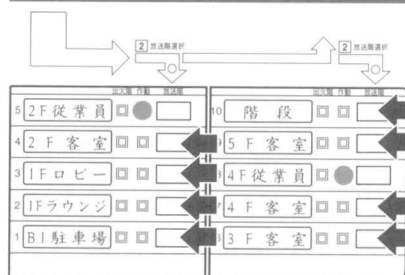
5. 一斉放送スイッチを押し、「緊急」に設定する。



6. 非常復旧スイッチを押す。



7. 放送しない階の放送階選択スイッチを押す。



従業員室以外の放送階選択スイッチを押して消灯にしてください。

8. 記憶スイッチを押す。



設定スイッチカバー内

書き込み手順

5.外部放送制御ブロック指定 (2)

端子台入力

本体内部端子台の「外部放送制御入力」の“ライン1/外部マイク” / “ライン2” と“0V COM” を短絡して設定することもできます。

初めに

- 「書込/通常/総合点検切換」スイッチを「通常」から「書込」側にします。

ブロック指定

- 設定スイッチカバー内の「発報連動停止/ブロック指定」スイッチを押します。(ピッ)
- 本体内部端子台の「外部放送制御入力」の“ライン1/外部マイク” / “ライン2” のうち設定したい方と“0V COM” とを短絡します。
このとき、選択された外部放送制御が出火階表示(赤)で、設定内容が作業表示(緑)で点灯します。
- 「一斉放送」スイッチで、一斉か緊急かを選択します。
緊急点灯/一般消灯

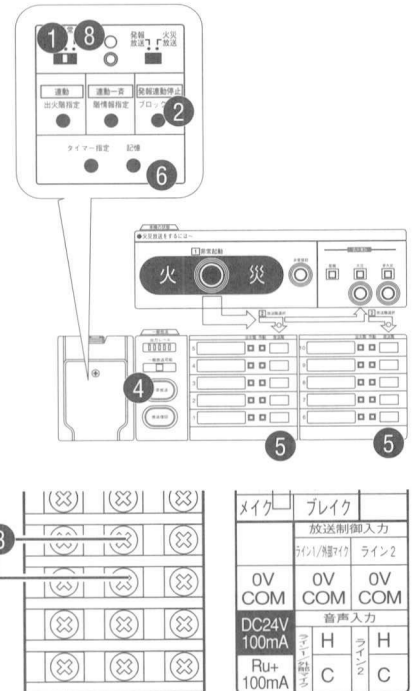
外部放送制御	「出火階表示灯」(赤)
1	1が点灯
2	2が点灯

緊急/一斉	放送階選択指示灯
緊急放送	点灯
通常一斉放送	消灯

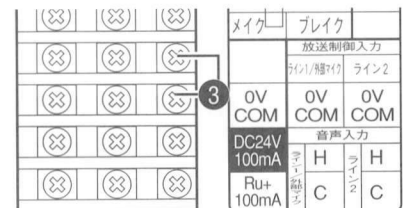
- 「放送階選択」スイッチで、放送階を指定します。
- 「記憶」スイッチを押します。(ピー)
以上の設定が記録されます。
- 他の放送制御で設定を続ける場合は、②へ戻り、②～⑤を繰り返してください。

終わりに

- 「書込/通常/総合点検切換」スイッチを「書込」から「通常」側にします。



または



設定内容を確認するときは

- 上記手順①～④,⑥,⑧の順序で操作してください。確認のときに他のスイッチを押すと、設定内容が変更されますので注意してください。

設置時の点検

重要

書込作業まで完了したら、通常運用に入る前に次ページ以降に記載されている手順で、非常放送および業務放送が設定どおりに放送されることを確認してください。

点検作業を開始する前に、以下の内容を確認してください。

1. AC電源は接続しましたか？
分電盤のスイッチは「入」になっていますか？
2. 蓄電池のコネクタは接続されていますか？
3. スピーカの配線は終わりましたか？
4. リモコンマイクなど、他の機器の接続は終わりましたか？
5. 操作パネル内の電源スイッチは「ON」になっていますか？

停電時の確認

非常放送時、AC電源を切り、蓄電池動作に切り替わることを確認してください。

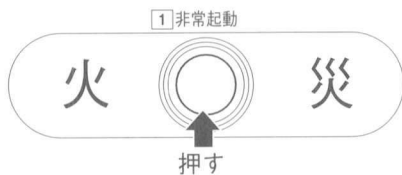
運用を開始する前に正しく動作するか点検してください。

定期的に保守点検を行ってください（「保守点検のしかた」をお読みください）。

設置時の点検

■非常放送の動作点検

1 手で「非常起動」スイッチを押す。



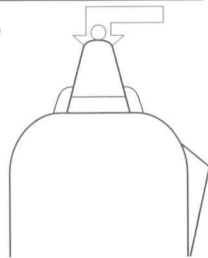
2 火災灯が点灯し、放送階選択指示灯が点滅しますか？

- 非常時、オレンジ色に点滅（手動）します。
- 点滅しているとき、放送階選択スイッチを押すと点灯にかわります。
- 手動のとき押すと、火災灯が点灯します。



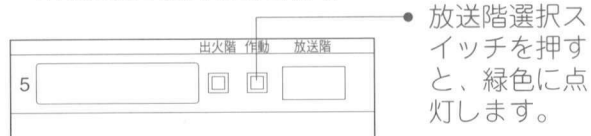
3 マイク指示灯が点滅していますか？

非常時、オレンジ色に点滅します。

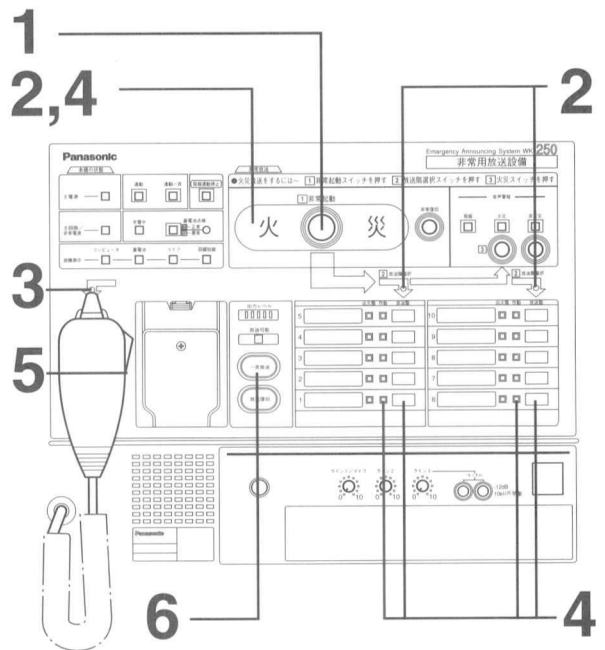
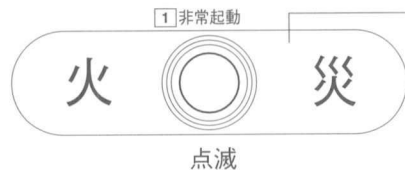


4 放送階選択スイッチを1箇所押します。押された階の作動表示灯が点灯し、音声警報放送（発報または火災放送）が流れますか？

- 放送したい階の放送階選択スイッチを押します。（作動表示灯が緑色に点灯）



- 火災灯が点滅します。



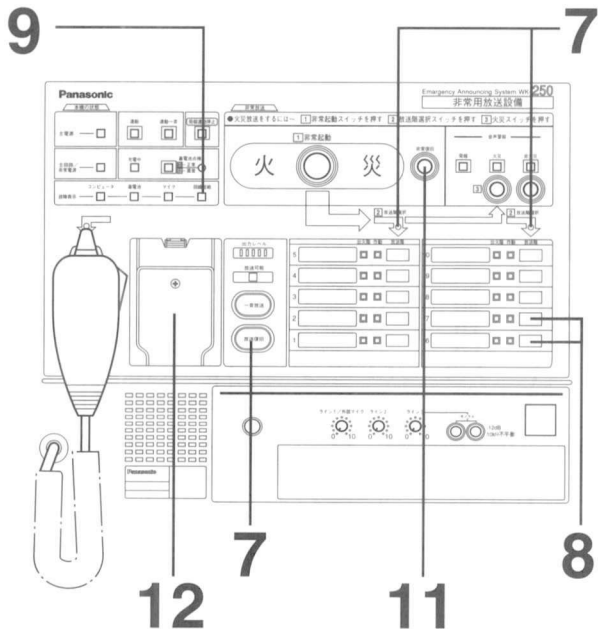
5 マイクをフックから外し、アナウンスします。マイクスイッチを押すと、マイク指示灯が点灯し、音声警報放送が止まり、アナウンスが手順4で押された階に流れますか？

スイッチを押しながら放送すると、マイク指示灯が点灯します。



6 一斉放送スイッチを押し、アナウンスします。すべての作動表示灯が点灯し、全館にアナウンスが流れますか？

- 一斉放送スイッチを押すとすべての作動表示灯が緑色に点灯します。
- 火災灯が点灯します。



9 手順8で押した階のいずれか一つのスピーカー回線を短絡します（火災または非火災放送を放送してください）。短絡表示灯が点灯し、短絡した階の出火表示灯が点滅しますか？



- スピーカー回線を短絡すると、赤色に点灯します。
- 短絡した場所の出火表示灯が赤色に点滅します。
- 短絡状態を解除します。
- 点灯を消すには、手順12を行ってください。

10 手順9の状態、分電盤のスイッチを「切」にし、停電状態にします。手順9の状態が継続していますか？

確認後、すぐに分電盤のスイッチを「入」にしてください。

11 非常復旧スイッチを押します。火災灯、放送階選択指示灯、点灯している作動表示灯、マイク指示灯が消えますか？

12 コンピュータ制御スイッチ・設定スイッチ（カバー内）を「切」にしてから、「入」にしてください。短絡表示灯、作動表示灯が消えますか？

7 放送終了後は、放送復旧スイッチを押します。作動表示灯が消え、スピーカー放送も切れますか？

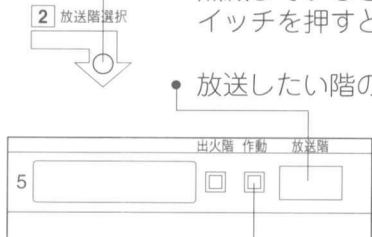
注：第2タイマーにより一斉火災放送に移行した後、放送復旧スイッチは無効となります。非常復旧スイッチを押して手順1からやり直してください。



放送復旧スイッチを押すと、すべての作動表示灯が消え、放送階選択指示灯が点滅します。

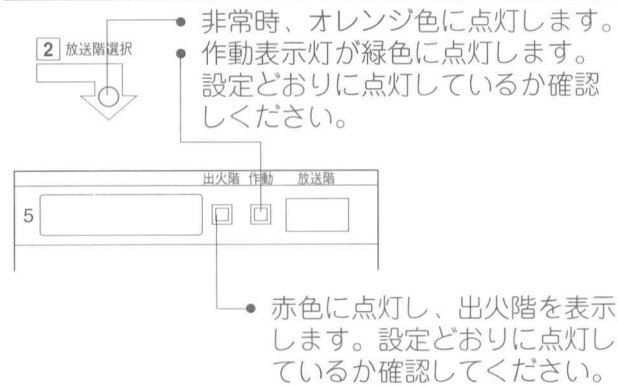
8 放送階選択スイッチを押します。放送すべき放送階を全て選択してください。放送階選択指示灯が点灯し、作動表示灯が点灯しますか？

- 点滅しているとき、放送階選択スイッチを押すと点灯にかわります。
- 放送したい階の放送階選択スイッチを押します。（作動表示灯が緑色に点灯します。）
- 放送階選択スイッチを押すと、緑色に点灯します。



設置時の点検

13 自火報（自動火災感知器）の起動入力端子（EL）を「入」にします（ショートします）。火災灯が点滅、全館に音声警報放送が流れ、放送階選択指示灯、出火階表示灯が点灯しますか？
使用言語は設定どおりですか？
（発報連動停止で運用するときには火災放送スイッチを押して火災放送で確認してください。）

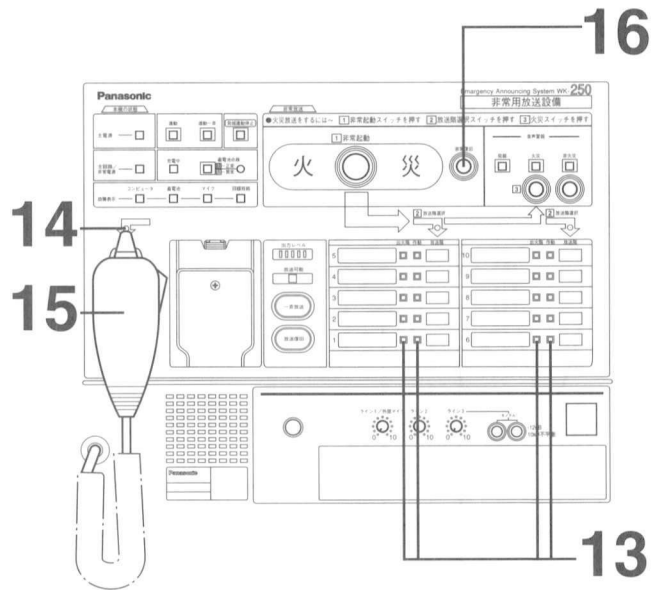
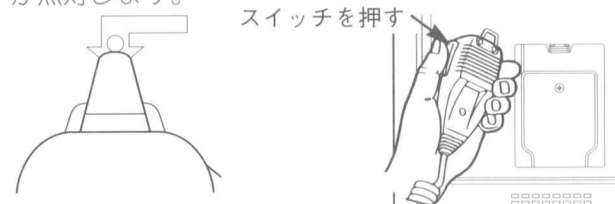


14 マイク指示灯が点滅していますか？



15 マイクをフックから外し、アナウンスします。マイクスイッチを押すと、マイク指示灯が点灯し、音声警報放送が止まり、アナウンスが流れますか？

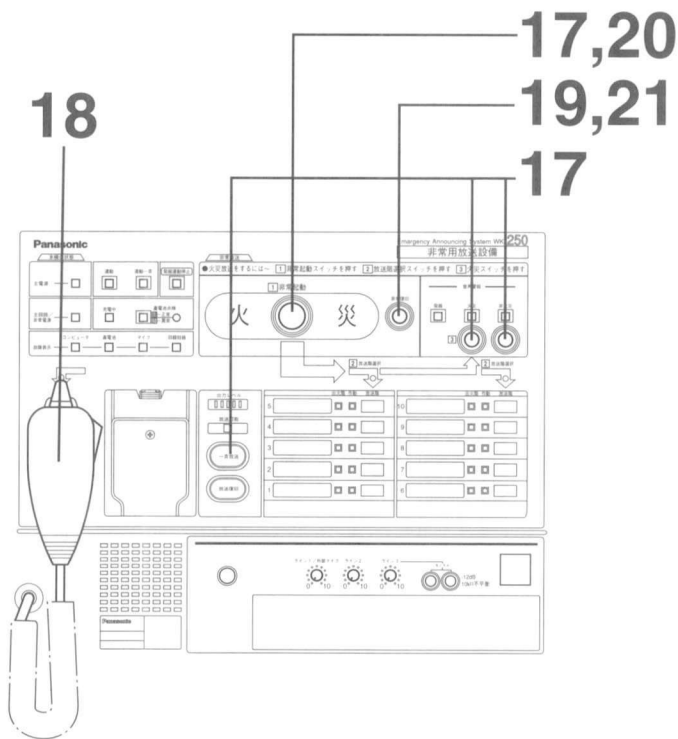
スイッチを押しながら放送すると、マイク指示灯が点灯します。



16 自火報（自動火災感知器）の起動入力端子（EL）を復旧し、非常復旧スイッチを押します。火災灯、放送階選択指示灯、出火階表示灯、すべての作動表示灯が消えますか？

非常放送を復旧するとき、このスイッチを押します。





18 マイクをフックから外し、アナウンスします。マイクスイッチを押すと音声警報放送が止まり、出火階、連動階にアナウンスが流れますか？

点滅から点灯に変わる



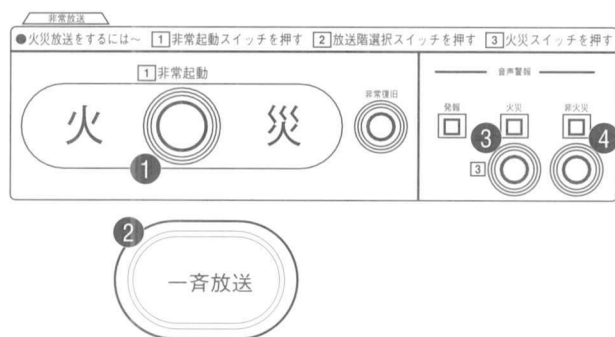
19 放送終了後は非常復旧スイッチを押します。作動表示灯が消え、放送階選択指示灯、マイク指示灯が点滅し、音声警報音が止まりますか？

非常復旧



17 非常起動スイッチと一斉放送スイッチを押します。その後、火災放送スイッチと非火災放送スイッチを押します。出火階、連動階などに火災放送または非火災放送が流れますか？

火災放送は次の操作まで、非火災放送は2回、繰り返し流れます。



●火災放送

ピンポン ピンポン ピンポン
火事です。火事です。○階で火災が発生しました。落ち着いて避難してください。
ビュービュービュー (第2シグナル音)

●非火災放送

ピンポン ピンポン ピンポン (第1シグナル音)
「先ほどの火災感知器の作動は、確認の結果、異常がありませんでした。ご安心ください。」

20 非常起動スイッチと放送階選択スイッチを押し、発報状態にします。第1タイマー設定時間経過後、火災放送が放送されますか？第2タイマー設定時間経過後、一斉火災放送が放送されますか？

1 非常起動



21 火災灯、放送階選択指示灯、出火階表示灯が消えますか？

非常復旧



非常放送を復旧させるとき、このスイッチを押します。

設置時の点検

22 蓄電池のコネクターを抜き、点検スイッチを押すと、蓄電池表示灯が赤色に点灯しますか？

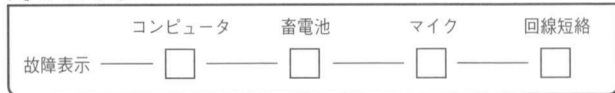
蓄電池に異常が発生した場合、赤色に点灯します。正常であれば緑色に点灯します。



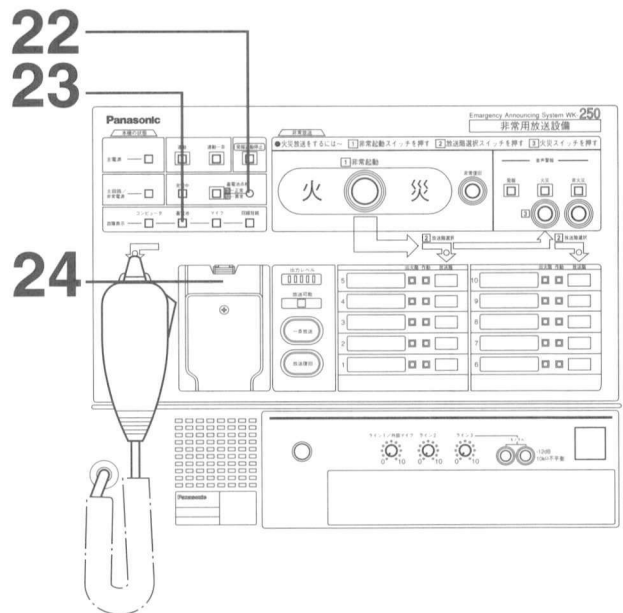
蓄電池点検時、回路が切り替わる瞬間（蓄電池点検スイッチを押したときと10秒後に復旧したとき）、一瞬表示が変わることがあります（故障ではありません）。

23 点検スイッチを押すと、10秒後に故障表示の蓄電池が点灯しますか？（点灯するまで数秒かかります。）
このとき、ピー音が鳴りますか？

故障しているときは、このパネルのLEDが赤色に点灯します。



24 蓄電池を接続して、コンピュータ制御スイッチ（スイッチカバー内）を「切」にしてから「入」にします。



■業務放送の動作点検

- 停電時は、業務放送できません。
- 本機は、後押し優先方式を採用しており、一般放送時（業務放送時）には、常に後から押したスイッチが優先します。

1 任意の放送階選択スイッチを押します。放送可能表示灯が点灯し、押された階の作動表示灯が点灯しますか？

- 一斉放送スイッチ、放送階選択スイッチを押すと、緑色に点灯し、放送可能状態となります。
- 放送したい階の放送階選択スイッチを押します。（作動表示灯が緑色に点灯。）
- 放送階選択スイッチを押すと、緑色に点灯します。

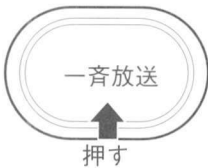


2 コールサインスイッチ（別売り品）を押します（接続時）。手順1で押した階にコールサインが鳴りますか？

コールサイン



3 一斉放送スイッチを押します。すべての作動表示灯が点灯しますか？

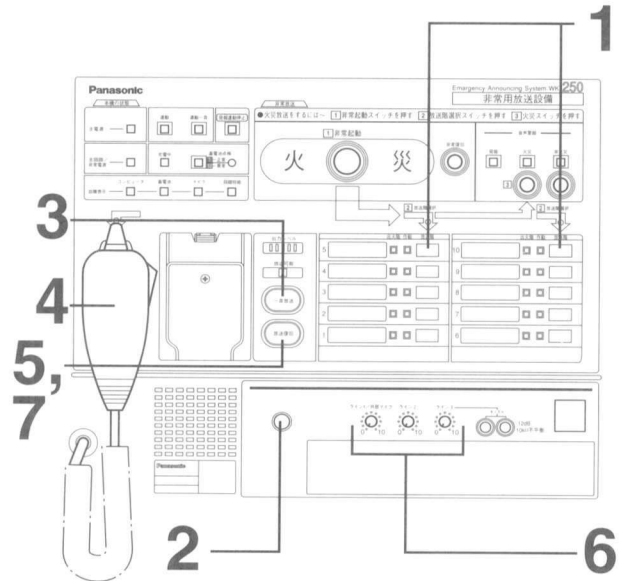
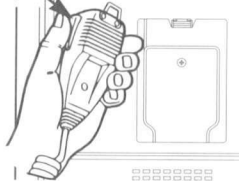


- 一斉放送スイッチを押すと、すべての作動表示灯が緑色に点灯します。



4 マイクをフックから外し、アナウンスします。マイクスイッチを押すと、アナウンスが全館に流れますか？

スイッチを押す



5 放送終了後は、放送復旧スイッチを押します。作動表示灯、放送可能表示灯が消え、スピーカー放送も切れますか？



- 放送復旧スイッチを押すと、作動表示灯、放送可能表示灯が消えます。

6 あらかじめ接続されている機器を動作させて、各機器のレベルを設定します。お客様に設定レベルを教えてありますか？

出力レベル表示灯を見ながら、各音量を決めてください。アナウンス、BGMなどの出力レベルはレベル表示灯が1~2個点灯するように調節してください。



7 放送終了後は、放送復旧スイッチを押します。

放送復旧スイッチを押すと、作動表示灯、放送可能表示灯が消えます。

(このページは白紙です。)

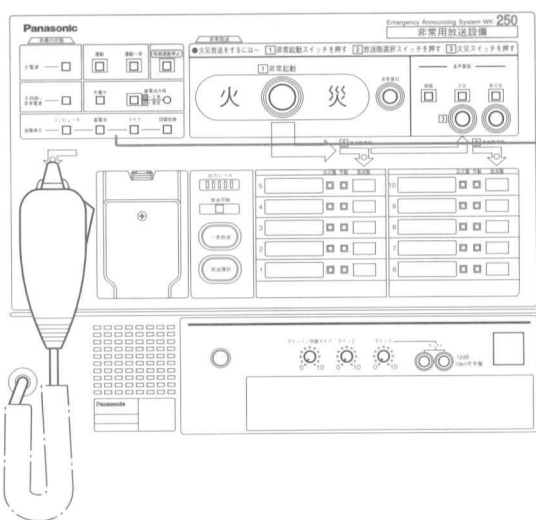
保守点検のしかた

ご注意

非常放送設備の保守は、消防設備士（第4類甲、乙、第7類乙）または第2種消防設備点検資格者でなければ行えませんが、ご注意ください。

保守点検

■点検について



- 本機にはセルフチェック機能があり、コンピュータがコンピュータ自身、マイク、回線短絡を常時点検し、24時間おきに蓄電池の点検を行います。
- コンピュータが故障を発見したときは、操作パネル左上の故障表示灯、または短絡表示灯が点灯し、警告音（ブザー：ピー）が鳴ります。設定パネルを開け、どこの異常かを確認してください。
- 警告音を消すには、どれかスイッチを押してください。
 - 一時的に消すことができます。
 - 異常表示灯は赤く点灯したままです。

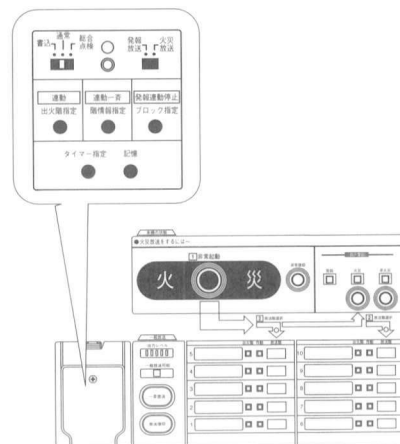
■総合点検

外部に音を出さずに、本機の総合点検ができます。

1. 設定スイッチカバーを開け、「書込/通常/総合点検」スイッチを「総合点検」にします。
2. 業務放送および非常放送を行います。このとき、外部には音声が出ませんので、それぞれの表示灯、指示灯、および出力レベル表示灯が働いていることを確認します。
3. すべての動作を確認したら、「書込/通常/総合点検」スイッチを「通常」にし、設定スイッチカバーを付けてください。

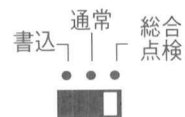
本機は以下の動作で非常電源動作を確認できます。

1. 総合点検状態で非常起動スイッチと放送階選択スイッチを押します。
2. 非常放送を放送している状態で蓄電池点検スイッチを押します。
3. 主電源表示灯が消灯し、非常電源での動作になります。
4. 非常放送が継続していることを確認してください。



注意

非常電源での動作テストは蓄電池を消耗し、電池寿命に影響します。定期点検時のみにしてください。



■電源の点検

●自動点検

コンピュータが24時間おきに点検を行います。

メモ

- 本機には、セルフチェック機能があり、コンピュータが24時間おきに蓄電池の点検を自動的に行っていますが、手動でも点検が行えます。
- 手動で点検を行うと、コンピュータは、その時点から24時間おきに自動点検を行います。
- 放送中に蓄電池点検スイッチを押すと、スピーカーから「ポツ」音が出ることがあります。(故障ではありません)

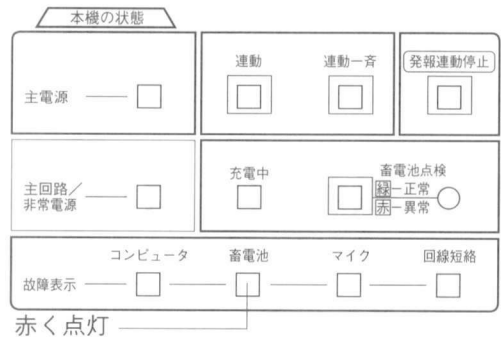


[コンピュータが異常を発見したとき]

「故障表示灯」と「蓄電池故障表示灯」が赤色に点灯し、4秒おきにブザー音（ピー）が鳴ります。

[処置]

- 操作パネルのいずれかのスイッチを押すと、ブザー音（ピー）が止まります。
販売店または、保守契約店にご連絡ください。
- ブザー音（ピー）が止まっても故障表示灯は赤く点灯したままです。



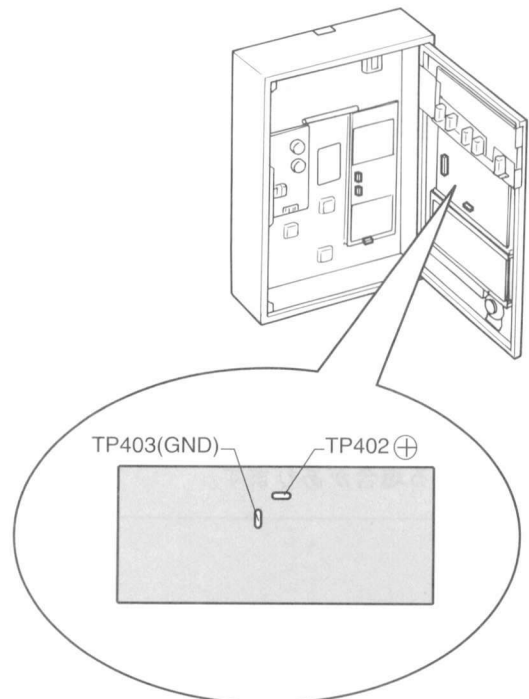
●蓄電池の電圧測定

蓄電池の電圧を電圧計などで測定できます。

1. パネルを開けます。
2. TP402 (+) とTP403(GND) 間の電圧を測定します。

注意

電圧測定時、電圧計などの測定端子先端が他の部品に触れないように注意してください。



設置時の点検

●蓄電池の交換について

- 蓄電池は非常放送で使用しなくても、寿命がきます。
- 点検の際容量不足があれば、全数新品と交換してください。
- 交換した蓄電池の取り扱いには注意してください。
- 不要になったニッケル・カドミウム蓄電池は、貴重な資源を守るために廃棄しないで、ニッケル・カドミウム蓄電池のリサイクルにご協力ください。



⚠ 注意

蓄電池の交換は、販売店か保守契約店に依頼する



感電の原因となります。

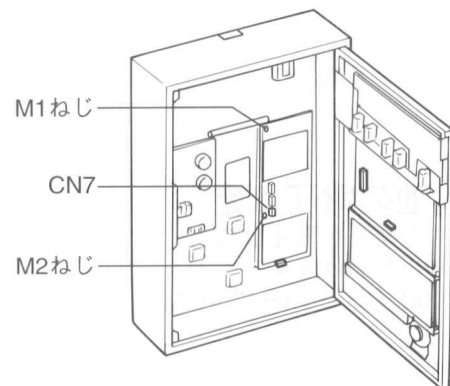
⚠ 注意

- 指定された蓄電池をご使用ください。指定以外の蓄電池を使用することは、充電電流の違いなどから過充電などの危険な状態になりますので、絶対に使用しないでください。なお、使用可能な蓄電池については販売店にご相談ください。
- 蓄電池を交換する場合は、常用電源スイッチを「入」にした状態で行ってください。

■絶縁耐力および絶縁抵抗試験

必ず電源スイッチを「切」にしてから行ってください。

- EL端子、EF端子、EB端子のいずれかを測定する場合
測定前にCN7とM2ねじを取り外してください。
- スピーカ回線と大地間の測定を行う場合
測定前にM1ねじを取り外してください。



注意

スピーカ接続端子、EL、EF、EBなどの各端子には、雷サージおよび静電気保護のためにシャーシとの間に、ZNR（サージアブソーバー）が取り付けられています。指定のコネクターを外してから絶縁抵抗試験を行ってください。外さずに試験を行うと試験結果は不合格となります。また、絶縁抵抗試験は配線の片側と大地間で行います。配線相互間で行うと本機や接続されている機器を破損する場合があります。

放送系統表 (書き込みのときにご利用ください。)

●放送系統表の使用例

●放送系統表の使用例

階情報明細	スピーカ回線	放送エリア	放送制御1 ライン1/外部マイク	放送制御2 ライン2
B2	1	駐車場		
B1	2	駐車場		
B1	3	宴会場		
1F	4	ロビー		
1F	5	ラウンジ		
2F	6	客室		○
2F	7	従業員	○	
3F	8	客室		○
4F	9	客室		○
4F	10	従業員	○	

●出火階指定系統表の使用例

EL	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
出火階	B2 駐車場	B1 駐車場	B1 宴会場	1F ロビー	1F ラウンジ	2F 客室	2F 従業員	3F 客室	4F 客室	4F 従業員
連動階 その他	B2 駐車場	B1 駐車場	B1 宴会場	1F ロビー	1F ラウンジ	2F 客室	2F 従業員	3F 客室	4F 客室	4F 従業員
	●	○	○	○	○					
	○	●	●	○	○					
	○	●	●	○	○					
	○	○	○	●	●					
	○	○	○	○	○	●	●			
						○	○	●		
								○	●	●
								○	●	●
								○	●	●

●下表を使ってブロック放送、および非常時での出火階指定を組んでください。

●放送系統表

階情報明細	スピーカ回線	放送エリア	放送制御1 ライン1/外部マイク	放送制御2 ライン2
	1			
	2			
	3			
	4			
	5			
	6			
	7			
	8			
	9			
	10			

●出火階指定系統表

EL	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
出火階										
連動階 その他										

●一斉放送スイッチの指定

ご使用になる設定にチェックマーク (☑) を付けてください。

- 緊急一斉放送 通常一斉放送

●タイマーの設定

第1タイマー 分

第2タイマー 分

発報放送繰り返し回数 回

発報放送繰り返し間隔 秒

●放送階の記入

放送階は市販されているネームシールまたは下の放送階記入ラベルなどに記入し、本機にはり付けてご使用ください。

- 放送階記入ラベル (コピーしてお使いください。)

仕様

●電力増幅部

電源	AC 100 V 50/60 Hz, DC 24 V
定格出力	120 W (負荷インピーダンス 100 Vライン 83 Ω)
消費電力*	120 W (電気用品取締法の技術基準) 240 W (定格消費電力 非常用放送認定基準)
警報時DC消費電力	87 W (停電 S2時消費電力 非常用放送認定基準)

●ミキサー部

周波数特性	50 ~ 15 000 Hz -3 dB±2 dB	
ライン1/外部マイク入力	入力レベル	-22 dBV/-58 dBV(-65 dBV 600 Ωに適合)
	入力インピーダンス	10 kΩ、不平衡
	S/N	50 dB以上
ライン2	入力レベル	-12 dBV/-22 dBV
	入力インピーダンス	10 kΩ、不平衡
	S/N	65 dB以上
ライン3	入力レベル	-12 dBV
	入力インピーダンス	10 kΩ、不平衡(前面ピンプラグ)
	S/N	65 dB以上

●非常操作部

マイク (付属)	-58 dBV 600 Ωに適合
非常および業務兼用	不平衡AGC付き
音声合成部	日本語による基本文章と28の階情報 日本語+英語 増設ROM(別売り特注品): 取り付け可能(ソケット差し込み)
出力レベル計	発光ダイオード表示
モニタースピーカー	出力0.05 W 8 Ω 3段階アッティネーターおよびハウリング防止回路付
主回路電源表示	LED点灯方式
出力制御 回路	放送階選択 10局
音声警報スイッチ	火災放送スイッチ
	非火災放送スイッチ
使用蓄電池 (非常用)	NCB-230 2.3 A/5HR
外部制御端子	階別信号入力EL×10
	火災確認入力EF
	EB接点(24 V 1A)
	非常外部制御(EMG24 V ブレイク 100 mA)
	+Ru出力(24 V 100 mA)
	入力制御: メイク入力によりライン入力を出力状態にする(単局リモコン・ページング・アナウンスユニット制御用) スピーカー出力×10
自己診断機能	蓄電池、マイク、回線短絡、コンピュータ

●外 観

寸法	420(幅)×576(高さ)×120(奥行) mm(マイク、設定スイッチカバー除く)
質量	約13 kg(別売り品蓄電池含まず)
仕上げ	OAアイボリー色塗装鋼板 (マンセル6.5Y 7.8/0.9近似色)

※消費電力測定方法・表示は電気用品取締法と非常用放送設備認定基準では異なります。

保証とアフターサービス

修理・お取り扱い・お手入れなどのご相談は・・・
まず、お買い上げの販売店へお申し付けください。

■保証書(別添付)

必ず、お買い上げの販売店からお買い上げ日・販売店名などの記入をお確かめのうえ受け取り、よく読み
のあと保管してください。

保証期間：お買い上げ日から本体1年間

■修理を依頼される時

まず電源を切ってから、お買い上げの販売店へご連絡ください。

●保証期間中は

保証書の規定に従って、出張修理させていただきます。

●保証期間を過ぎているときは

修理すれば使用できる商品については、ご希望により有料で修理させていただきます。

ただし、壁掛形非常用放送設備の補修用性能部品の最低保有期間は、製造打ち切り後7年です。

注) 補修用性能部品とは、その製品の機能を維持するために必要な部品です。

●修理料金の仕組み

修理料金は、技術料・部品代・出張料などで構成されています。

技術料 は、診断・故障箇所の修理および部品交換・調整・修理完了時の点検などの作業にかかる費用
です。

部品代 は、修理に使用した部品および補助材料代です。

出張料 は、製品のある場所へ技術者を派遣する場合の費用です。

便利メモ (おぼえのため、記入されると便利です。)

お 買 い 上 げ 年 月 日	年	月	日	品番 WK-250
販 売 店 名	☎ () -			

松下電器産業株式会社
松下通信工業株式会社 AV システム事業部
〒224 - 8539 横浜市都筑区佐江戸町600 ☎ (045)932-1231(大代表)

N1098-1118

A8QA5093BN